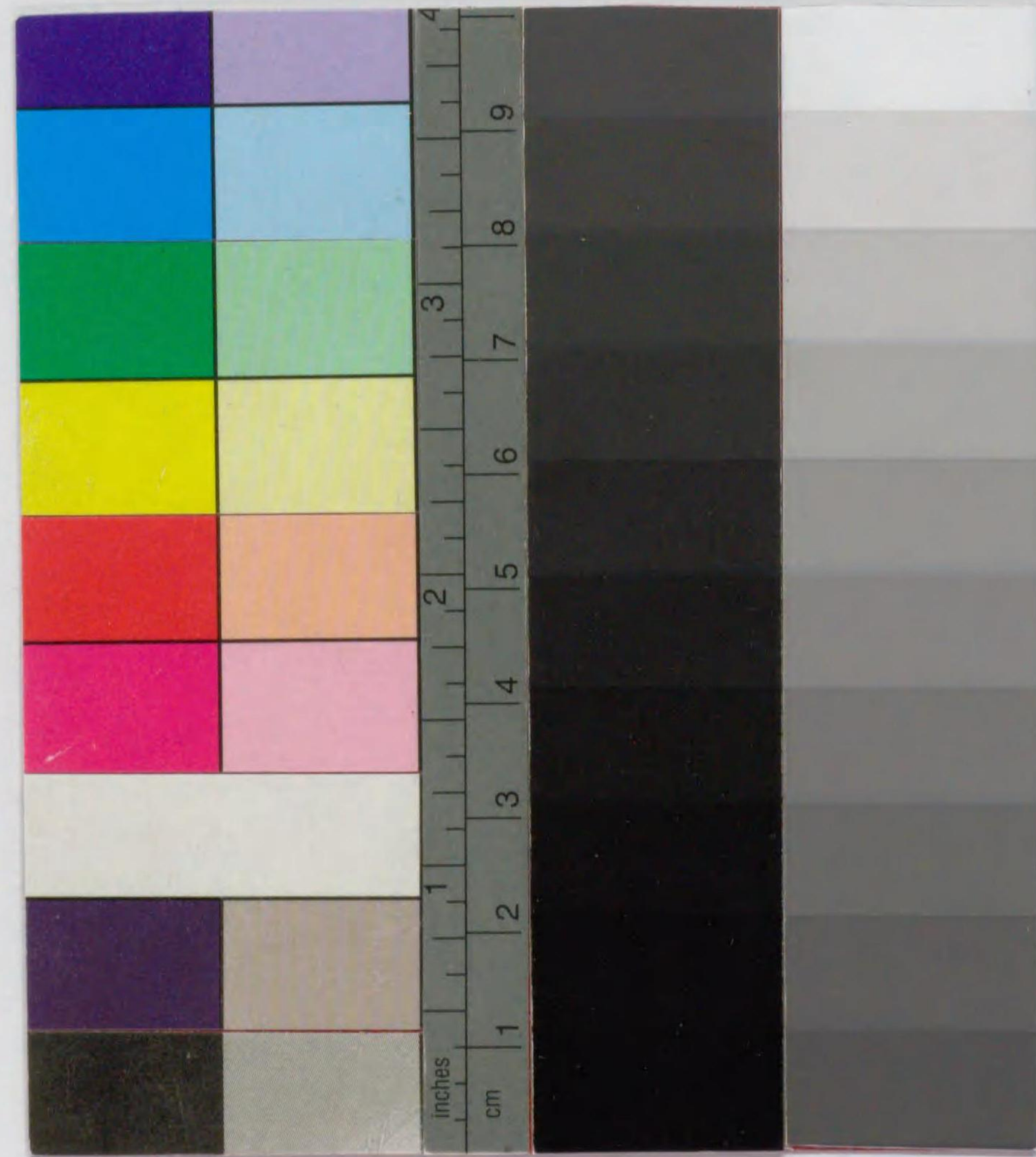


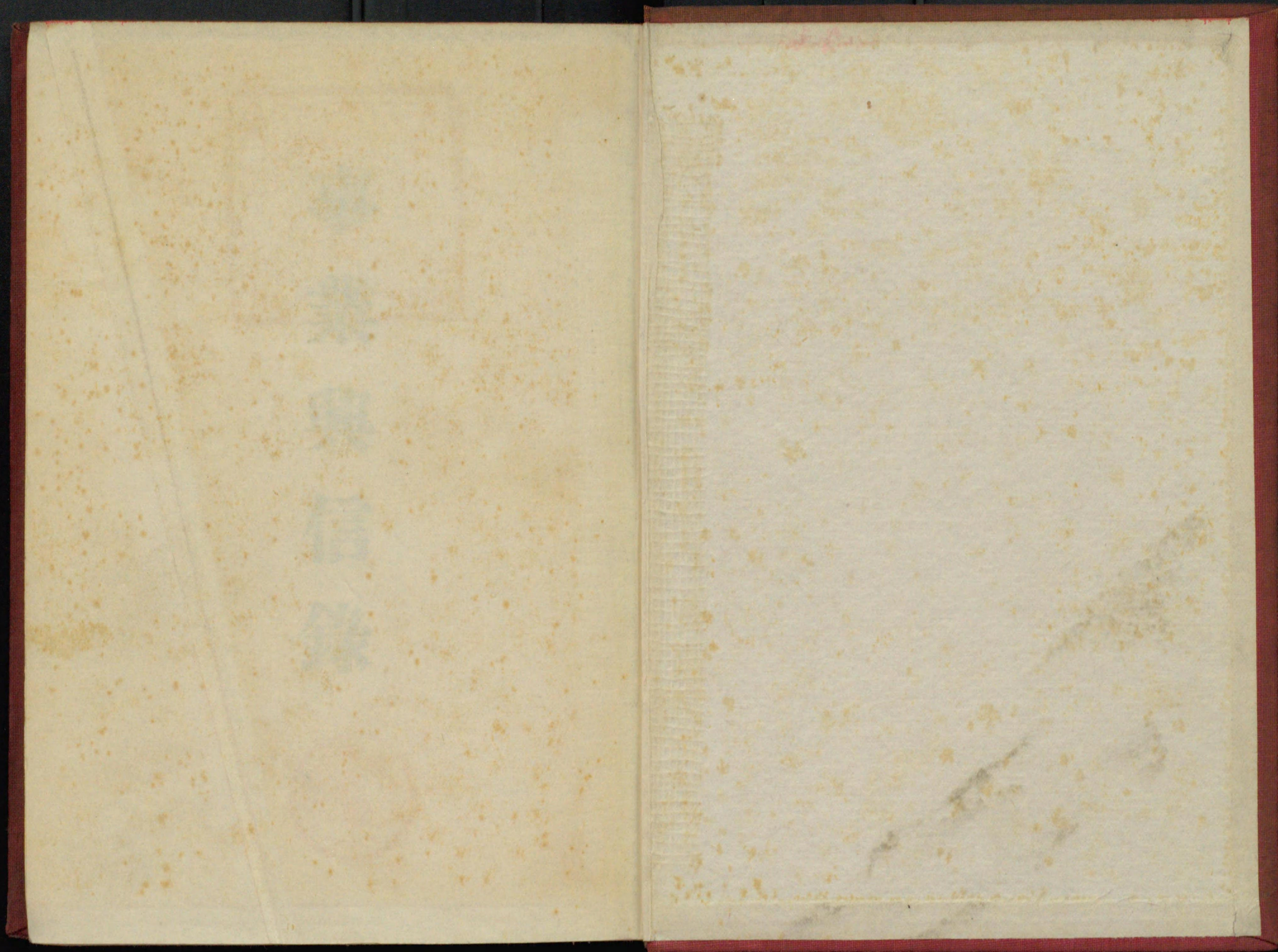
586-69



1200501523891

586
69







事業興信錄





東京
業
興
計
録



586-69

索引 (イロハ順)

イノ部

- 井上電機製作所東京出張所……………一六四
- 伊勢勝藏法律事務所……………二一九
- 飯塚半福法律特許事務所……………二九六
- 岩井商店東京支店……………三〇四
- 磐城セメント株式会社……………三二六
- 市川商會……………三三〇
- 市瀬洋服店丸ノ内出張所……………三三六

ロノ部

- ロツクアスファルト工業株式会社東京出張所……………三七七

ハノ部

- 露領水産組合……………四〇三
- 鳩山秀夫法律事務所……………三九〇
- 發明實施研究所……………三八九

ニノ部

- 仁井田法律事務所……………三六七
- 二宮商店石材部……………二二一
- 日本プランナー・モンドコンパニー・リミテツド……………二五五
- 日本タイガーボード製造合資會社……………二六六
- 日本ソリデチツト株式會社……………二七七

日本リヤカー株式會社	二九
日本農業社	三七
日本生命保險株式會社	三五
日本電力株式會社	三〇
日本鉛管製造所	三〇
日本事務器商會	三〇
日本俱樂部	二七
日本評論社	二七
日本內燃機製作所	二六
日本通商株式會社	二五
日本製粉株式會社	二四
日本工業俱樂部	二四
日本興業銀行	八三
日本石油株式會社	七

木ノ部

日本車輛製造株式會社	四
日本郵船株式會社	三
日本硫黃株式會社	一八
日本榮養協會	一一
日露木材株式會社	一九
日魯漁業株式會社	一九
日東硫肥株式會社	七
日新興業株式會社	一三
日清汽船株式會社	一三
日清印刷株式會社	一六
日清印刷株式會社丸ノ内出張所	一六
日瑞貿易株式會社	五

布袋食堂	三九
北門銀行東京支店	二五
北海道相談所	二五
北海道水力電氣株式會社	一六〇
北海道拓殖銀行東京支店	五
北鮮木材株式會社	一五

へノ部

秘露棉花株式會社	四
----------	---

トノ部

東邦電力株式會社	二六
東京ステーションホテル	一七
東京スタンダード靴株式會社	一五
東京日日新聞社	一六

東京朝日新聞社	一六〇
東京府信用購買組合聯合會	一三
東亞煙草株式會社	一六
東亞貿易合資會社	七
東洋パプコック株式會社	一六
東洋麻糸紡績株式會社	一四
東洋耐火煉瓦株式會社	一三
東注生命保險株式會社	一三
東洋工業社	一五
東部鐵道株式會社	一
獨乙加里シンジケート日本農業部本部	一七
戸畑鑄物株式會社	一六
戸田商店	一七
常盤門會	一六

常磐生命保險株式會社 一七九
 友田五三事務所 一五五
 巴商店 一三三
 巴組東京出張所 一三三
 岡門鋸道株式會社 九三

チノ部

千代田組 一三七
 千代田信託株式會社 一三九
 中和亭 一三七
 中華企業株式會社 一三五
 中央自動車株式會社 一三五
 中央酒類問屋聯合會 一三六
 中央生命保險相互會社 一四六

調適社 一〇四

ヲノ部

朝鮮殖産銀行 一〇三
 大林組東京支店 一
 大川田中事務所 一七
 大阪海上火災保險株式會社東京支店 一四八
 大阪商船株式會社 一九〇
 王子製紙株式會社 一三〇
 小川組 一六七
 小澤羊毛研究所 一五三
 岡山石材株式會社東京出張所 一三三
 奥村商會 一六六

ワノ部

渡邊建築事務所 一〇三
 和田正一事務所 一五七
 若宮商店 一三五

カノ部

カール・ツアイス株式會社 一〇七
 ガデリウス商會 一四五
 貝島商業株式會社東京支店 八
 海上ビル眼鏡院・海上ビル診療所 一四八
 海外興業株式會社 一四
 海南産業株式會社 一四七
 外語協會學校 一四四

華陽貿易商會 一四

兼松商店 一四〇
 花月食堂 一六四
 片岡・石本建築事務所 一五六
 加奈陀マニユフアキユラス生命保險會社
 日本支社 一〇〇
 樺太工業株式會社 一五六
 樺太廳出張所 一六一
 角丁渡邊商店 一七
 川島辰之助商店 一六五
 川崎第百銀行丸之内支店 一三
 川崎造船所 一九五
 關東貿易株式會社 一三七
 關東水力電氣株式會社 一〇八
 關東水電株式會社東京出張所 一〇一

神田新聞店……………一七〇

ヨノ部

濱濱護謨製造株式會社……………一四一
廣天重孝・カイロプラクテックナチュロパシー
治療所……………一四五
吉野壽司……………一四六

タノ部

タイガーターラー……………一四五
泰平組合……………一九九
臺灣製糖株式會社東京出張所……………二九八
臺灣社……………一七三
大北火災海上運送保險株式會社……………一〇五
大同電力株式會社……………二四〇

ツノ部

玉井法律事務所……………一七六
球摩川電氣株式會社東京出張所……………一七〇

ナノ部

杖立川水力電氣株式會社……………一〇〇
内外ビルディング株式會社……………一八八
内外エレベーター株式會社東京營業所……………二六六
内外商會……………一七五
内外鑛業株式會社……………一五〇
内外食品株式會社……………一六一
内外物産株式會社……………一七七
中村工務所……………一五九

大都土木建築株式會社……………二三〇

大日本鹽業株式會社……………一八七

大日本人造肥料株式會社……………一七九

大日本製糖株式會社出張所……………一九九

大日本酒類釀造株式會社東京出張所……………一四三

大正生命保險株式會社……………一八八

大福海上火災保險株式會社東京支店……………一七四

大洋漁業合資會社……………一九六

大洋海運株式會社……………一九八

谷道商店……………一三三

谷村法律事務所……………一〇九

辰馬海上火災保險株式會社出張所……………一六六

田中芳雄商店……………一七三

竹中工務店東京支店……………一四七

中瀨會計士事務所……………一〇二
長井・森海事法律事務所……………一〇九
南洋興發株式會社……………一七一
南國産業株式會社……………一三三

ムノ部

村山合資會社……………一六二

ウノ部

宇部セメント製造株式會社東京出張所……………一七
宇多良温……………一九四
浦賀船渠株式會社……………一四七

ノノ部

野村銀行丸之内出張所……………三三
野澤組……………二六三

クノ部

クレオ研究所……………三〇
窪井法律事務所……………四五
栗本鐵工所……………一〇〇

ヤノ部

ヤサカ商會……………六六
八田興事務所……………六六
山田ビリヤードリクリエーション……………一六四
大和毛織株式會社……………三〇〇

ケノ部

京華社東京支店……………四六

フノ部

双葉合資會社……………一三五
福井商行……………一四九
藤代組……………二六二
藤丸商會……………七三
藤田商會……………五一
藤出合名會社……………一〇七
富士山商店……………一五五
富士電力株式會社……………九〇
富士電機製造株式會社東京販賣店……………三〇四

マノ部

まつ平……………二六六
丸ビル双物店……………四六
丸之内三共藥局……………四六
丸菱呉服店……………四四
丸山洋服商會……………一〇三
丸金木材合資會社……………六〇
松村組……………四二
松尾鑛業株式會社……………三三
馬立式ポンプ事務所……………七二
増田屋合資會社……………九〇
摩壽意善太郎……………三六七
滿鐵鮮滿案内所……………三二〇

コノ部

撫順炭販賣株式會社……………三三
小林組……………六〇
小島印刷株式會社……………一三三
神戸製鋼所東京出張所……………一〇九
金剛山電氣鐵道株式會社東京出張所……………三五
國際汽船株式會社……………三〇五
國際聯盟協會……………二五
國際運輸株式會社東京出張所……………九六
弘電社……………三三七
兒玉電氣研究所……………一六八
合同毛織株式會社東京支店……………三四三
合同油脂グリセリン株式會社……………八一

エノ部

エル・レイボルド商館……………三〇八
江木寫眞店……………三〇〇
永福商會……………二九七

テノ部

帝都土地株式會社……………二七七
帝國鐵道協會……………二〇三
帝國飛行協會……………九
帝國製糖株式會社東京出張所……………三六
帝國海上火災保險株式會社……………三一
天龍川電力株式會社……………一四
電氣俱樂部……………六

サノ部

サン保險株式會社東京支店……………一八
齋藤久事務所……………一七一
齋藤製本所……………一七
酒井橋村法律特許事務所……………一六七
櫻組製靴株式會社……………二四
山東鑛業株式會社……………一八
蠶糸工業所……………一五
蠶糸業同業組合中央會……………一六
三昭社……………二九七

キノ部

汽車製造株式會社……………二七

アノ部

アサヒ印刷社 加來金升……………三四九
旭電化工業株式會社……………九四
朝倉製作所……………一四九
朝日海上火災保險株式會社東京支店……………二
淺野セメント株式會社……………一八一
淺沼寫眞機店……………一五一
淺沼家庭電器部……………一五一
安倍商店……………一〇四
阿波事務所……………二二七
阿部屋出店……………三七三
東組……………三五五

ミノ部

極東貿易合資會社……………三四
共榮電氣商會……………二六三
共進商會……………六一
共盛無盡株式會社……………三五四
九州送電株式會社……………二三五
九州水力電氣株式會社……………二三五
近海郵船株式會社……………一五六
金融情報社……………七
三井物産株式會社……………三三
三菱銀行……………二七六
三菱銀行丸之内支店……………二七九
三菱銀行丸之内第二支店……………二七九

三菱合資會社	三三八
三菱合資會社地所部	三七四
三菱造船株式會社	三三八
三菱鑛業株式會社	三三〇
三菱倉庫株式會社	三三六
三菱信託株式會社	二八九
三菱製鐵株式會社	二八八
三菱製紙株式會社	三三三
三菱商事株式會社	二八六
三菱電機株式會社	二八〇
三菱航空機株式會社	二七五
三菱海上火災保險株式會社	三三六
三中井吳服店	二五三
南滿洲大興合名會社	九

モノ部

モンソン商會東京支店	三〇三
本澤商會	九五
百瀬玄溪	三三九
森松組	二五六

セノ部

生命保險會社協會	二九九
----------	-----

スノ部

杉村特許工業事務所	三〇〇
-----------	-----

宮崎商會	六三
都商會教育活動寫真部	四

シノ部

昭和喫茶食堂	三三八
秀美堂印刷所	二九七
瓜哇貿易株式會社	二九
人造肥料聯合會	八二

ヒノ部

ヒーリング商會	一六〇
一三五商會	二四

株式 大林組東京支店

丸之内仲
八號館五階

電話丸ノ内(23)三四二一(7)

營業種目

土木建築請負業

創立年月日

明治二十五年一月

以稱資本金

五百萬圓

拂込資本金

三百八十萬圓

積立金

三百三十四萬圓

累年ノ配當

一割五分

本店重役

取締役社長

大林 義雄

同 副社長

大林 賢四郎

常務取締役

白杉 龜造

同

植村 克己

取締役技師長 工學博士直木倫太郎

取締役東京支店長

松井 清足

同東京支店次長

監査役

大林 龜松

同

同

加藤 芳太郎

顧問 工學博士

岡 胤信

東京支店常務取締役

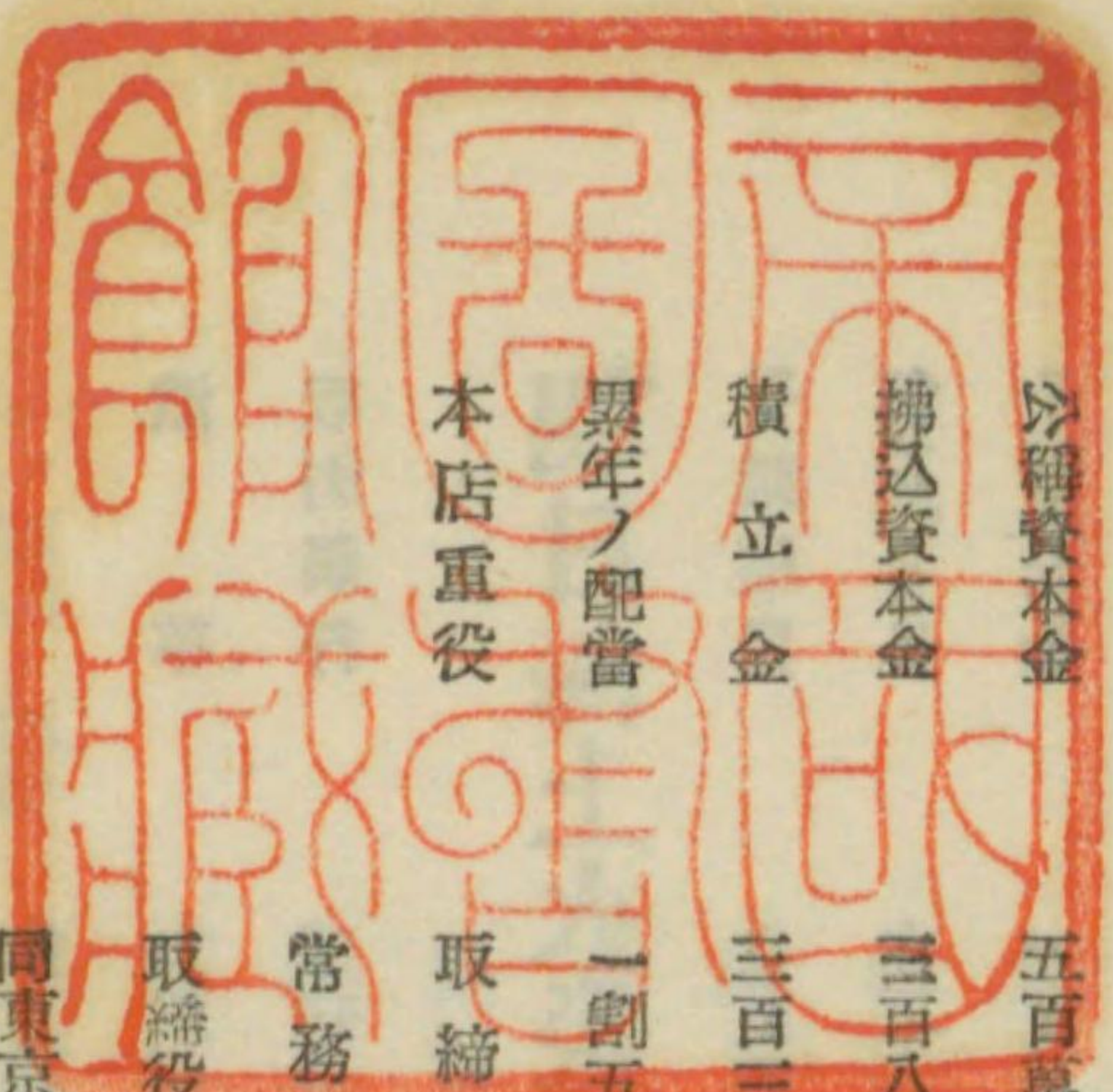
植村 克己

取締役 支店長

松井 清足

同支店次長

鈴木 甫



現業部長 本田 登 營業部長 久保彌太郎

同 宇高有耳 工場督監 芦澤 浩

同 田崎 修 同 田中多三郎

會計主任 米田竹松 庶務主任 小崎文治

沿革 大正七年株式組織とす。

取引銀行 三井、三菱、住友、山口、野村、興銀

朝日海上火災保險株式會社東京支店

本社 神戸市京町八二
丸ノ内、時事ビル

丸ノ内自一三三八
至一三九〇

營業種目 火災保險

創立年月日 大正七年八月

公稱資本金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

拂込資本金 二、五〇〇、〇〇〇圓

配當率 十二年・六〇 十三年・六〇 十四年・八〇 十五年・八〇

專務取締役 草場 茂一 取締役 岡崎 忠雄

同 小曾根 貞松 同 榎並 充造

同 山田 實吏 同 平出 定吉

監査役 八馬 兼介

東京支店 東京市麴町區八重洲町一ノ一 丸ノ内(23) 一三三八〇 一三三八九

東京支店長 坂井 常雄 本局 三五九三 長三六八八

大阪支店 大阪市東區今橋町二ノ七 長三六八九

名古屋出張所 名古屋市中區大池町四ノ一〇 東 三五六九

横濱出張所 横濱市住吉町一ノ六 長者町(3) 三八五七

福岡出張所 福岡市大名町八二 二四六一

京都市出張所 京都市下京區四條通新町西入七二六 中三二八四

廣島出張所 廣島市水主町三五二 長一六〇五

札幌出張所 札幌市南五條西七ノ四 二三九九

一、事業ノ概況

多年萎靡沈衰せる我經濟界は當年初頭に於ては稍々更生基調の曙光認められし如きも議會に於ける震災手形處理法案審議に端を發し俄然險惡に陥り遂に休業銀行頻出し前古未曾有の大恐慌を惹起して公私經濟全く名狀すべからざる状態を呈し遂に「モラトリアム令」の發布を見るに至り諸事業悉く極度に沈淪し加之隣邦支那の險擾熾ます一般の打撃は我保險界にも大

一、海上保險

影響を來し不況裡に本事業年度を經過せり

海運界の創痍尙癒えず加ふるに財界大動搖の結果事業經營上頗る難關に遭遇し當社は専ら緊縮方針並に危險の撰擇に深く留意し銳意堅實なる發展を劃したりしも同業者間の競争益々激烈を加へ一面海難頻發と相俟て豫期の業績を收め得ざりしは遺憾とする所なり

二、火災保險

金融界大波瀾の影響を蒙り火災保險界は益々悪化し且斯業の命脈たる協定は著敷亂調を來し遂に昭和會の成立を見しが當社は之に加入せず同時に協會をも脱會し只管保險の民衆化を企圖せしも同業者間の熾烈なる競争並に全國的に亘る罹災激發し所期の成果を收め得ざりしは誠に遺憾に堪へざる所とす

三、運送保險

運送保險界は渾沌たる財界不振に隨伴し内外物資の集散亦緩漫を呈せしに不拘一意年來培養せる地盤の擁護開拓に努めし結果着々其の實績を現し相當良好なる收益を計上し得たり

都商會教育活動寫眞部

東京市丸ノ内三菱廿一號館

丸ノ内(23)一九三六

營業種目

鐵道省、内務省衛生局、映畫撮影頒布所輕便發電機「ホームライト」二手販賣

創立年月日

大正八年四月

現在ノ主腦者

店主 吉田 常太

各部各課主任

會計主任 三谷 常次郎 技師長 星 明

寫眞工場 京濱沿線鶴見町一四五八

取引銀行

第一銀行

中華企業株式會社

丸ノ内三菱廿一號二階

丸ノ内(23)二六六六

營業種目

對支投資事業

創立年月日

大正八年十一月十八日

公稱資本金

一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

拂込資本金

一一、二五〇、〇〇〇、〇〇〇

累年ノ配當

最高一割三分最低六分

創立者ト其功勞者

濱岡 光哲 三上 豐夷 下郷 傳平

喜多 又藏 稻垣 恒吉 藤田 四郎

淺田 德則 明渡知 瑜太郎 九鬼 紋七

北川 與平

現在ノ主腦者

取締役社長 三上 豐夷 取締役 高橋 彦次郎

六

取締役	濱岡清夫	同	北川龜三郎
監査役	鈴木圭三	同	野呂靜
相談役	濱岡光哲	同	藤田四郎
同	淺田徳則		

業績並ニ現況

業務概況

昭和二年九月一日より昭和三年二月二十九日に至る期間に於ける當社事業の概要左の如し

一、支那政局の紛糾は今期に於ても未だ安定を見るに至らず人心動搖財界の不安は上海經濟界に多大の打撃を與へ爲めに當社投資事業たる上海特種商業機關は亦豫期の業績を收むる能はずして本期を終れり然れども當事者苦心の結果期半來取引數量に於て稍々面目一新せるものあり將來市況の恢復と相俟つて更に計畫を進め一段の發展を圖るべく畫策中なり

一、上海に於ける所有土地は屢々報ぜる如く周圍の事情は年と共に益々有望地として注目を引くに至り之が有利なる處分に就ては種々交渉中に屬す

一、皮革廠の事業は打續く亂戦の影響により原料買付製品販賣共に多大の不利を蒙り經營上の苦心少からざるも工場内容の整備と製品の改善は著しく面目を改め業績頓に好轉し來れるを以て一般市場の安定と共に近く相當の成績を擧ぐべしと信ず

宇部セメント製造株式會社東京出張所

丸ノ内三菱 廿二號二階 丸ノ内(23)三七九七五

營業種目 セメント製造

創立年月日 大正十二年四月

公稱資本金 三、五〇〇、〇〇〇圓

累年ノ配當 年五分

現在ノ主腦者

取締役社長	渡邊祐策	常務取締役	藤本馨雄
取締役	高良宗七	同	藤本閑作
同	岡和	同	山川庸之助
同	國吉信義	同	俵田明
監査役	庄晋太郎	同	新川元右工門
同	名和田正		

特長

一、色が極めて良いこと 一、モルタルにして非常に強度の力が出ること 一、少量のセメントで十分効力を表はすこと 一、容器が完全であること

本店

山口縣宇部市 電話一般營業部 長六七・五一〇・四四四

大阪出張所

大阪市北區中之島二ノ二五江商ビルヂング四階四〇七號室 本局長三八五一・四〇七四

東京出張所長

生野 豐

營業概要

財界の沈衰今期に入りて益々甚しくセメント界の形勢亦た不振を極めたり供給著しく需要を越え在荷累増し市價轉落底止するところなき危殆の商狀を演出するに至りセメント聯合會は兩度に亘り操短率を擴張し銳意需給の調節に努めたり斯くて晩夏以降需要稍増進し滯滞次第に減少し期末に至りては相落付模様となり寧ろ強調をさへ示すに至りたり市況の波瀾今期の如きは我社創立以來見ざるところなり此間に處して我社は製品の改良と販路の擴張に全力を傾注し聲價日に月に高きを加へ需要乏しきを憂へず一般供給過剩の影響を蒙ること比較的少かりしと雖も生産費を無視する市場安値賣物に牽制せられ本期中終に所期の成績を擧げ得ざりしは眞に遺憾とするところなり

貝島商業株式會社東京支店

丸ノ内三菱廿一號館五 丸ノ内八七三 一六三一

營業種目

石炭、防腐木材、石炭乾餾製品、石灰石

創立年月日

大正八年十一月

公稱資本金

一千萬圓

拂込資本金

五百萬圓

現在ノ主腦者

貝島 太市 本社下關市唐戸町二

各部各課主任

東京支店長 黒部 貞雄

支店長所在地

横濱、名古屋、大阪、神戸、岡山、若松、唐津、直方

關係會社

貝島合名會社、貝島鑛業株式會社、大江岩屋炭礦株式會社、貝島乾餾株式會社、貝島木材防腐株式會社、貝島石灰工業株式會社

帝國飛行協會

丸ノ内三菱廿一號三階

丸ノ内(23)〇一二七 振替口座東京二九六三六

創立年月日

大正二年四月

沿革

本協會は大正二年四月日本航空會を合併し其翌年三月 久邇宮邦彦王殿下を總裁に戴き奉り尋て伯爵大隈重信を會長に阪谷男爵を副會長に推薦した、茲に特記すべきは此歳匿名の一米人が金十七萬八千餘圓を寄附したることである、後に至り此の隠れたる恩人はロバートウアン ドーゼン氏であることが判つた。當時本協會の事業としては、ルムプラー飛行機二臺を買ひ入れ操縦士六名を養成した、鳴尾で民間飛行大會を催した、内國製發動機競技會を東京に於て催ふして大阪市島津楯藏氏に一等賞金二萬圓を贈つた、飛行機三軍號を作つた、曾我號を

製造した、雜誌航空界を月刊した等である。

大正十四年十一月宣傳のみを目的とした、國民飛行會が生れた、其會長は長岡中將、副會長は草間錦鷄間紙侯であつたが、時勢の必要に順應し、大正七年六月本協會に合併した。乃ち當時の首相寺内伯は、各國務大臣、政黨主領資産家二百五十餘名を午餐に招き、其席上に於て兩會合併を祝し、政府は之を指導補助して、其大成を期せしめんとす、希くは來會の諸君予が區々媒切の意を諒し、本會の爲に一瞥の勞を賜はらんことをと聲明した、其結果財界の有志者より金四十七萬圓の寄附金が集つた。尋て大正七年八月五日畏れ多くも、本會事業御獎勵の御思召を以て

金五拾萬圓

御下賜に相成つた、是を恩賜基本金と名け、本協會永世不易の財産となる。

大正九年八月に至り、原内閣は本協會數次の懇請を容れ、漸く民間航空事業の指導機關たる航空局を設置した、其以來本協會は毎年二萬圓乃至三萬圓内外の補助金を政府より受けつゝあり。

大正十三年十一月 山階宮武彦王殿下より飛行競技獎勵の思召を以て銀製大カップを下賜せられ尋て同殿下の思召を以て飛行論文を募集した。

國民飛行會合併以來本協會が大正年間に行ひたる事業の大要左の如し。

飛行費及飛行競技費	二六回	金三三一、五八九圓〇〇
操縦士獎勵費	二三人	金八四、二五〇、〇〇
飛行遭難者遺族扶助料、香花料、見舞金	一七人	金七五、六八五、〇〇
飛行機修理補助費	四五臺	金七九、二三一、〇〇
航空事業獎勵金	二七人	金二三、〇五三、〇〇
航空博覽會展覽會費	一七回	金一〇、九七、〇〇
飛行文庫費		金三、四七〇、〇〇
飛行機在米同胞號費		金二六、〇〇〇、〇〇
國際航空聯合會加盟費		金一一、〇七三、〇〇
飛行宣傳講演活動寫眞費		金一二七、六七九、〇〇

合計金七十四萬七千圓を支出し聊か民間航空事業發展の爲に努力した、併し年額は僅に入萬三千圓に過ぎない。而して顧みて協會の爲すべき仕事、否國民の獎勵提撕を要する事柄は山程あるのでございます、將來は少くも右金額の五六倍を支出し、遅れに遅れたる我飛行界の隣れなる現状を救はねばなりません、何卒同胞諸君の御奮發を願ひます。

理事(評議員)

會長 法博男

副會長 阪谷 芳郎

副會長 長 草間 時福

一三

長岡 外史

理 博 團 琢 磨

鹽田 武夫

根津 嘉一郎

久能 司

野中 勝明

大橋 新太郎

伊豆 凡夫

矢木 亮太郎

蟻川 五郎作

工博 男

斯波 忠三郎

工博 子

大河内 正敏

山田 陸 隼

寺家村 和介

谷田 繁太郎

小松 直幹

舟越 楫四郎

大江 亮一

前原 謙治

堀 丈 夫

子 澁澤 榮一

有川 鷹一

顧問(評議員)

原 六郎

中松 盛雄

安田 善三郎

馬越 恭平

監事(評議員)

波多野 承五郎

原 富太郎

實行委員(評議員)

常務職員

男 大倉 喜八郎

工 博 團 琢 磨

末延 道成

總務理事 藤田 平太郎

參 事 別枝 嘉次郎

同 馬場 鎮江

同 利根川 忠三

囑 託 杉浦 正雄

同 佐藤 柱助

同 櫻井 繁

同 黒川 清

主 事 道永 悌三

本年度の事業

太平洋横断飛行實施計畫

一、要 旨

國産飛行機を以て一氣に太平洋を翺破し帝國航空界の振興に資すると共に對米航空路を開拓し帝國の實力を中外に宣揚せむとす。

二、時 期

氣象状態の適否を考查し 昭和三年五月乃至九月の候と豫定す

三、發着地

出發地 東京附近 到着地 北米シヤトル附近

四、航路、距離及行動時間

飛行機的能力航空の難易等より推し左の航路を選定す
千島諸島、アレウト諸島に沿ひ東進しシトカ(アラスカ)を経て南下する、航路距離約八千

三十料、行動時間約五十時間

五、使用飛行機

協會の指示する要領に據り川西機械製作所に於て製作提供する左記要目の飛行機を使用し練習機共二基を製作せしむ

型 式	川西十二型單葉複葉座陸上機
スパン	一九米〇〇〇
長 サ	一一米六〇〇
高 サ	三米四〇〇
全重量	五噸五
發 動 機	B M W 六型二基六〇〇 H O
着陸速度	一一七浬
最大速度	二〇〇浬
三千米上昇	四〇分
燃料積載量	三噸四
飛行距離	八三五〇浬

六、飛行人員

飛行人員二名(豫備品二名)
海上の飛行の経験、訓練の便宜等實施上の諸要件に稽へ日本航空株式會社所屬飛行士及航空

士を以て第一候補者と定め同社をして選抜推薦せしめ實行委員之を詮衡す

七、整備、訓練及飛行

(一)器材の整備は昭和三年三月中 但一機は四月中に完了せしむ
(二)人員の訓練並長距離準備飛行は可成昭和二年十一月より開始し同三年四月中に終了する如く計畫す

(三)離着陸場の整備並本飛行實施に必要な諸調査は昭和三年三月迄に終了せしむ

(四)昭和三年五月以降飛行機及人員は出發地に於て待機し其の訓練並諸準備を行ふ

八、實行機關

陸海軍省、逓信省、外務省、帝大航空研究所、中央氣象臺、水路部等の援助に依る委員及協會職員を以て實行機關となし器材の選定、人員の訓練、長距離準備飛行、航路、着陸地點、氣象、外國事情の調査等本飛行の準備並實行に關する百般の業務を依屬す

九、經費

本飛行に關する經費は約七十萬圓として全國民の愛國的寄附に俟つ
其の内譯概ね左の如し

貳拾萬圓	飛行機補償金
拾萬圓	飛行人員獎勵金
拾萬圓	製作獎勵金
拾萬圓	離陸場設備費

貳拾萬圓

準備並實行費

一六

日本タイガーボード製造合資會社

丸ノ内仲十二號館

丸ノ内(28)一六三六

營業種目

タイガーボード製造發賣

創立年月日

昭和二年十二月十日

公稱資本金

十萬圓

拂込資本金

全額拂込

沿革

大正十一年二月一日匿名組合員組織にて創立し爾後建築材料として斯界に確固たる地盤を有するに至り、猶震災に依りて一層本會社製品の優秀なることを認められ、貴衆議院の材料として全部使用されるに至る事業の發展とともに昨年合資會社に組織を變更す。

現在ノ主腦者

代表無限責任社員 木幡 恭三 多久 芳一

各部各課主任

營業主任 佐藤 隆三

工場 敷地二千七百五十坪建坪六八〇坪

東京府下荏原郡荏原町字戸越

高輪三一四九

重ナル株主

伊丹 二郎 又木 周三

業績並ニ現況

各省始め、諸官衙に於いて指定品として、認められるに至る。製作能力 一ヶ月 一萬坪

取引銀行

三菱銀行。安田銀行。

大川田中事務所

丸ノ内大川田中ビル

丸ノ内 長一六四

自三三四一 至三三四八

營業種目

貸事務所

創立年月日

大正十一年六月二十二日

公稱資本金

五十萬圓

拂込資本金

全額済

累年ノ配當

年六朱

沿革

京橋區柳町に於いて大川田中氏の所屬の事務所を開き居りしが、大正十一年二月丸ノ内に移轉す。

現在の主腦者

社長 大川平三郎 副社長 田中榮八郎

專務 藤田好三郎 取締役 長谷川太郎吉

監査役 新井要之助 同 鈴木實

各部各課主任

主任 石井湧太郎

一七

日本硫黄株式会社

麹町區永樂町二ノ七
日本興業銀行内七階

丸ノ内(23)二六六八

營業種目

鑛業

創立年月日

明治四十年四月

公稱資本金

百萬圓

拂込資本金

八十七萬五千圓

現在ノ主腦者

專務取締役

山田

彰

取締役

田中

榮八郎

同

熊澤

一衛

同

西脇

健治

同

石川

一郎

同

山田

敬亮

同

二神

駿吉

監査役

篠崎

友三

同

林政次

現況

營業概況

本期間ノ生産數量ハ左ノ如シ

採鑛量

四、〇二六、七二九貫

製煉硫黄

二、九一九噸四

硫黄加工品類

一三七、〇七五貫

耶麻軌道部營業收入

旅客

三三、二七二人

賃金

一三、九四六圓〇二〇

一般貨物

一、五三五噸

賃金

三、七三七圓二二〇

沼尻鑛山貨物

一〇、三三五噸

賃金

一九、七四三圓六四〇

本期硫黄界は保合の状態を持續せるも幾分強含みの状況にあり來期に於ても尙現況を維持するものと考へらる二硫化炭素は其販賣に付き無用の競争を避くるを得たるも生産の増加と需要之れに伴はざる爲め漸落の状況にあり然れども設備の改善を圖り生産費の低減を計りつゝあるを以て來期も相當の成績を擧ぐるを得べし、硫黄鑛石は保合の状態なりしが其の販賣量少なかりしは遺憾とする所なり

泰平組合

丸ノ内仲十一號

丸ノ内

自

八四一

至

八四三

營業種目

軍器額

創立年月

明治四十一年五月

支店

北京

現在ノ主腦者 理事 阿多 廣介 同 大熊 篤太郎
 各部各課主任 主 事 小國 清吾
 引受代理店 各地ノ三井物産株式會社及大倉組支店出張所

杖立川水力電氣株式會社

大分市大字大分二七二五 大分 一二四

營業種目 電力供給
 創立年月 大正十三年一月
 公稱資本金 五百萬圓
 拂込資本金 一百二十萬圓
 積立金 二千十一圓
 累年ノ配當 自大正十三年上期至大正十五年下期每期年五朱、自大正十五年十二月一日至昭和二年二月二十八日年五分、自昭和二年三月一日至昭和二年四月卅日年一割三分七厘五毛

創立者ト其功勞者 創立者 和田 三豐 治
 現在ノ主腦者 社長 麻生 太吉 專務取締役 村上 巧兒
 取締役 支配人 内本 浩亮 取締役 支配人 八塚 秀二郎

關係會社 九州水力電氣株式會社
 業績並ニ現況 發電所建設工事中

日本郵船株式會社

丸ノ内郵船ビル 代表 二五二一(9) 同 二五三一
 同長 二五三四(7)

營業種目 海運業
 創立年月 明治十八年十月
 公稱資本金 一億圓
 拂込資本金 五千八百萬圓

○配當率

下	上	十三年	十四年	十五年	二年	三年	九年	十年	十一年	十二年
二〇〇〇	一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一〇〇〇
七〇〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	三〇〇〇	二五〇〇	二五〇〇	一〇〇〇
五五〇〇	五五〇〇	五五〇〇	五五〇〇	五五〇〇	五五〇〇	五五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一〇〇〇
五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

沿革 宮内省(三六二、四七五株)三菱造船會社(三三三、三七四株)を大株主とする會社にして創立當時から三菱系の有力事業として今日に及べり。

現在ノ主腦者 社長 白 仁 武 專 務 大 谷 登

同 武田良太郎

東京船客切符發賣所 丸ノ内東京驛前郵船ビルディング 丸ノ内二五二一、二五二二、二五三二、二五三四

横濱支店 横濱市海岸通 本局 九 一〇

神戸支店 神戸市海岸通一丁目 三宮 五・八・長三〇・二三・二八・三三・三六・四一・八九・四〇三

門司支店 門司市濱町六 四二・四三・八三・四三一

下關船客切符發賣所 下關市西南部海岸通(内國通運會社支店) 一三・四六

沿革

(一)會社ノ創立 日本郵船株式會社は明治十八年帝國政府の命に依り郵便汽船三菱會社と共に同運輸會社とを合併創立し其十月一日を以て開業せり當時の資本金は一千一百萬圓にして所有船は汽船五十八艘を算せしも其總噸數六萬八千七百餘噸に過ぎず外に帆船十一艘總噸總四千七百餘噸を有せり而して航路は概ね内地沿岸に止まり海外線としては僅に横濱上海間長崎浦潮斯德間及神戸仁川間の三線ありしのみ

(二)社業ノ整理 當時我社は兩社激争の後を承け船舶は修理急を要し業務は疲憊の態あるを免れず是に於て銳意之が整理刷新に努め明治二十年十二月資本金を八百八十萬圓に切下ぐることに改め以て其礎の鞏固を圖ると共に専ら力を船舶の改善に注げり

(三)孟買航路ノ開始ト組織變更 創立後三四年は社業整理の時期にして其間沿岸及近海に於ける必要航路の擴張は素より之を怠らざりしと雖も社業は仍ほ沿岸近海の外に出ずる能はざりしが明治二十六年に至り初めて孟買航路を開くことを得たり是れ我社が本邦紡績業の發展に資せむ爲め有力なる諸外國線に對抗して奮勵之を開始したるものにして實に我國遠洋定期航路の嚆矢とす此年商法の規定に依る純然たる商社會社の組織と爲し從來官選に依りたる役員を株主の選舉に依ることに改む

(四)二十七八年戰役ニ於ケル貢獻 翌明治二十七年日清戰役の起るや我社は所有船及數艘の貸下船を併せて軍事輸送に従ひ御用船の最も多きときは五十九艘十三萬餘噸を算し其運搬せし人員約五十二萬馬匹約四萬餘以て我社創立當初の使命の一たる軍國に對する本分を盡すと共に帝國戰勝の餘榮を荷ふことを得たり

(五)歐米濠三大航路ノ開始ト資本増加 明治二十七八年戰役に於て國家は軍事輸送機關の整備極めて急なるものあることを痛切に經驗し同時に輿論は戰後國運の發展に伴ひ海外航路の擴張一日も緩ふすべからずと爲し或は建議となり或は決議として帝國議會の議に上るもの再三、政府は明治二十九年を以て航海獎勵法を發布せらるゝに至れり乃ち我社は奮然此大任に當るに決し資本金を二千二百萬圓に増加し堅牢巨大の新船十數艘を造り歐米濠三大航路を開くの計畫を立て二十九年三月歐洲航路を、同八月米國航路を、同十月濠洲航路を開始せり同

年十月孟買、濠洲の二航路先づ特定助成航路となり次で三十三年歐米兩航路も亦特定助成航路となれり中孟買航路は三十九年四月に至り我社の自營と爲し他の三大航路は命令に多少の變更ありしも今仍は特定航路たり其本邦貿易の發達に與て力あるは言を俟たず而して此等各航路の爲め我社が巨費を投じ構造配備せし船舶は一面に於て國家の爲めに常備せる軍事輸送機關に外ならず

(六)三十七八年ニ於ケル貢獻 明治三十三年北清事變に際し社船中二十三艘六萬六千餘噸を軍用に供したるが後三十七年日露戰役起るや其國家に取りて危急存亡の大事たりしを以て我社は全力を擧げて軍國に盡せり即ち三十八年平和克復に至る迄の間に社船の軍役に服せるもの陸軍前後六十七艘二十七萬餘噸、海軍前後四十二艘十二萬餘噸にして主として軍隊及物資の輸送に従ひ其運搬せし人員約百二十八萬、馬匹約十二萬、物資約百萬噸に達す而して我社が三大航路の爲めに設備せる船舶は當時海内無二の優秀船として輸送の中堅たりしのみならず日光丸、春日丸、熊野丸、八幡丸、備後丸、佐渡丸、信濃丸は帝國艦船の補充として假裝巡洋艦の任務に當り偉功を樹てたるは戰史に赫耀たる所なり

(七)戰後ノ大造船ト遠洋航路ノ擴張 國難を経る毎に軍備充對と國富増進の急を感じる痛切なりしを以て我社は戰後順次に賀茂丸型八千噸級六艘、香取丸型一萬噸級二艘、徳島丸型六千噸級貨物船二艘を新造し次で伏見丸型一萬二千噸級三艘、徳山丸型七千噸級貨物船六艘を新造し以て歐洲航路其他遠洋航路を整備し國運の躍進に副はむことを期せり、即ち歐洲航路に在りては命令定期船の外、別に自營臨時線を開き新造貨物船を使用し以て本邦の對歐貿易に便すると共に又本邦產品の印度及南洋方面に於ける販路開拓の必要上明治四十四年を以て甲谷陀航路を開き多大の犠牲を拂ふて之を支持せり

(八)日獨戰役供用船ト戰時中の航路擴張 大正三年歐洲大戰亂の勃發するや帝國も亦英國と共に加はり獨逸に對して宣戰すると共に青島の攻略に従へり此役に於て社船の軍務に服せるもの前後二十九艘十一萬七千餘噸外に帝國海軍の地中海方面出動に従屬せしもの若干あり後西比利及北滿洲に出兵の事あるや社船十一艘三萬九千餘噸を供用し又米國へ八艘重葦約六萬噸を提供せり此大戦役は本邦の貿易に取りて千載一遇の好機にして戰前十億圓内外なりし貿易總額は大正七年には三十六億圓に上り就中輸出は五、六億圓臺より十九億圓に上るの盛況を呈せり仍て我社は極力本邦出貨の便益を圖り戰時中新に航路を開くもの十二、東航紐育線南阿經由南米線、坡西土線、地中海線及瓜哇、甲谷陀を中心として本邦北米を連絡する數線の如き其重なるものなりき

(九)存立期限延長ト増資 大正四年九月恰も我社存立時期三十年に滿つるを以て更に三十年

を延長し明治十八年十月一日即ち創立の日より滿六十箇年と爲すと同時に資本金を金四千四百萬圓に増加せり

(十) 歐洲大戰ト再増資 五年有餘に亘る歐洲の大戰中海運界は戰局の進展と共に異常の活躍を示し我社も此間に處して既得の地位を保持する一面大勢に順應して倍々將來の發展を期せむが爲めには幾多の施設を要するものあるを以て大正六年十一月を以て資本金を一億圓に増加之と同時に廣く内外航路の整理改善を行ひ又戰時の必要を充す爲め大正四年以降同八年に至る間貨物船七千噸級十四艘、六千噸級一艘、五千噸級四艘及三千噸級四艘此總噸數約十四萬一千餘噸を新造若くは購入せり

(十一) 戰後經營ト船舶改良 大正八年講和條約成り未曾有の大戦茲に終局を告ぐるや我社は愈々増資以來の經營方針を實行するの時期到れるを認め、同年下半年に於て新に約五十萬噸の新船建造の計劃を立て戰後經營の第一着手と爲せり、是れ戰時中は一般物價の世界的暴騰に伴ひ船價の如きも戰前に比し實に約十倍せるの状況に在りたるを以て當時我社の船舶新造は已むを得ずして時局の急需に應ずるものよみに止め、主として傭船主義を取り來りたるも亟に時運の回轉と共に此新船建造の方針を執り、爾來之が一部實行として大正十二年六月迄に新造若くは購入せる新船は旅客船一萬噸級四艘、五千噸級二艘、貨物船七千噸級八艘、五

千噸級二艘、四千噸級三艘及三千噸級四艘此總噸數約十四萬五千噸に達す就中大正十二年二月より開始せる長崎上海線用旅客船二艘の如きは我社が多年經營せる日支連絡航路に一新紀元を劃するものにして蓋し此種の船舶としては現今世界に於ける最新優良船たるを失はず、尙新造中に係るもの三千噸級貨物船一艘及最新七千噸級發動機船二艘あり、而して我社は一方に於て連年老朽船の處分を怠らず以て着々船舶の改良及増加の實を擧げつゝあり

(十二) 内地近海航路ノ別途經營 戰後の海運界は大戰の反動に依り内外國共豫期以上の打撃を受け船腹の過剩、商況の不振、産業の紛議、政局の不安等錯綜して逐年悲境に沈淪し我社營業收益も漸次減退したるが爲め大に業務の刷新、經費の節約を圖るの必要上茲に多年來の懸案たる内地近海航路の處理解決の急務を感じ仍て更に慎重調査を遂げ内地近海航路の業務を別途經營に附するを以て最も得策なりと認め先づ實際の試練を経る爲め大正十一年四月「近海部」を設け之を特別會計の下に置き其成績に徴し、更に臨時株主總會の議を経て大正十二年三月末新に近海郵船株式會社を創立して内地近海航路の營業全部を之に譲渡し我社は近海關係の船舶土地及建物等を以て之に出資し以て同社の株式全部を取得したり

(十三) 本店ノ移轉 我社創立の當時は日本橋區茅場町十六番地に本店事務所を置きしが明治二十九年三月麴町區有樂町一丁目一番地に移轉し茲に二十七年を閱して社業の發展著しく事

務所狹隘とたれるを以て大正九年十一月龜町區永樂町一番地に新築の工を起し同十二年五月竣工す依て同年六月之に移轉したり、本建築は之を郵船「ビルヂング」と稱し地階附七階建にして東西二百八十八尺、南北百五十二尺、高さ百尺に及ぶ其延坪は八千四百三十八坪餘なり

社	長	白 仁 武	專務取締役	大 谷 登
同		武田良太郎	取 締 役	菊池 泰三
同		大橋新太郎	同	木村久壽彌太
同		原 富太郎	同	各 務 鎌 吉
同		結城豊太郎	監 査 役	山 本 直 良
同		河村金五郎	同	島 德 藏
同		相談役男爵郷 誠之助	營業課長	清水 安治
同		貨物課長 金鞍 一榮	同 副 長	原田貞之介
同		澤井 謙 吉	同	山 崎 水 哉
同		船客課長 水島 義治	同 副 長	田 村 保 三
同		調査課長 田邊良三男	同 副 長	淺 原 丈 平
同		船舶部長 小松原定吉	航海課長	浦 田 裕 介

同 副 長	大澤卯三郎	同 副 長	山中 政三
同 副 長	井上 貞吉	同 副 長	西山 勇吉
同	市川昇太郎		

工務課長兼造船調査主事 淺井虎之助 同 副 長 樋 口 幹

工務課副長 三田澤德太郎 庶務部長 渡邊水太郎

文書課長 小田倉 啓 同 副 長(兼) 釘 本 重 春

同 並木 茂彌 同 伊賀不二男

會計課長 佐藤兵太郎 同 副 長 時 田 清 吉

同 松本 光三 調度課長 中 瀬 精 一

同 副 長 瀬戸鍊治郎 同 鈴 木 泰 三

秘書課長 永井 眞澄 同 野 口 美 雄

瓜哇貿易株式會社

龜町區内幸町一ノ三大阪ビル

銀座

三二六九 四七五二
四四〇三 四七五二

營業種目

砂糖其他輸出入

創立年月

大正十三年一月十三日

鶴戸工場 同南葛飾郡鶴戸町大字鶴戸 隅田二五七〇
 都島工場 大阪市北區善源寺町 東長六八〇、四〇八〇
 淀川工場 同東淀川區北長柄町 北 四〇八一、長四〇八二、四〇八三
 岩淵工場 静岡縣庵原郡富士川町
 伏木工場 富山縣射水郡伏木町
 小倉工場 福岡縣小倉市大字篠崎
 苦小牧工場 北海道勇拂郡苦小牧町
 大泊工場 樺太大泊郡大泊町
 豐原工場 同豐原郡豐原町
 野田工場 同野田郡野田町
 朝鮮工場 朝鮮平安北道義州郡古城面麻田洞
 王子製紙株式會社東京出張所 東京市麹町區永樂町一ノ一郵船ビルディング内
 (名義書換取次) 株式會社三井銀行大阪支店 大阪市東區高麗橋二丁目

株式會社 谷道商店

東京市丸之内八重洲ビル

丸之内(一)〇九六一

株式事務取扱所

營業種目

海運業

創立年月

明治廿一年

公稱資本金

十萬圓

拂込資本金

全額拂込済

沿革

谷道廻送店時代より、合資時代を経て現在の株式會社組織に經營は發展しつつあるなり

現在ノ主腦者

社長 谷道清之助 專務 谷道耕太郎

各部各課主任

取締役 支配人 近藤履吉

傍係會社

津久茂商會、千代田汽船株式會社

重ナル株主

谷道家一族

取引銀行

昭和銀行、三井銀行。

松尾鑛業株式會社

東京丸之内八重洲ビル

丸之内 二六九六
一七六三

營業種目

硫黃の採掘採煉、販賣

創立年月

大正三年八月

公稱資本金

百萬圓

拂込資本金

全額拂込済

現在ノ主腦者

社長 中村房次郎

常務

清水 如平

株式會社 岩井商店東京支店

東京市丸ノ内南有樂館五

丸ノ内 自四二二一
至四二二八

創立年月

大正五年株式組織

公稱資本金

一千萬圓也

拂込資本金

七百萬圓也

沿革

約四十年前より岩井勝次郎氏個人經營なりしが、事業の發展に伴ひ大正五年株式會社組織を變更す。

現在ノ主腦者

社長 岩井勝次郎 專務 安野 謙

資本系統並ニ其變遷

東京支店支配人 高田 孝雄

本店

大阪市東區北濱四丁目

支店長

東京、神戸、横濱、名古屋。

出張所

鹿児島、福井、上海、漢口、ロンドン、ニューヨーク。

南國産業株式會社

東京丸ノ内南有樂館五

丸ノ内 三二七
三二七九

營業種目

農園經營並に輸出入貿易業

創立年月

大正六年九月

公稱資本金

二、五〇〇、〇〇〇圓

拂込資本金

二、〇〇〇、〇〇〇圓

配當

昭和二年六分

沿革

當社は大正六年七月我國海外企業發展の促進を目標とし主として蘭領東印度に於ける産業經營の目的を以て山本悌二郎氏始め臺灣製糖株式會社幹部諸氏の發起の下に創立せられたるが本會社は實に蘭領東印度瓜哇に於ける東邦人經營農企業の鼻祖とも云ふべく其の經營の範圍も尤も廣況に亘り目下スコレジオ製糖所、テンボアセオ農園、ウノサリー農園及テングリー農園の四農園を經營し總祖借面積實に四、五九〇バウ(一バウ一、英反七五)に上れり。

現在ノ主腦者

取締役會長 岩原 謙三 專務 中村 第三
取締役 神代 貞三 同 鷗飼 重雄
同 有村 貫一

監 査 藤 田 四 郎 同 鳥 居 信 平

日瑞貿易株式社東京出張所

東京丸ノ内有樂館一 丸ノ内自三二五七至三二五九

營業種目 棉花、諸機械、ゴム、洋紙、金物、羊毛、諸毛織物等輸入部、船舶部、木材部

創立年月 大正八年八月

公稱資本金 二百萬圓

拂込資本金 全額拂込済

累年ノ配當 年六分

沿 革 スクツワルにボルヤートブラザースと云ふ會社あり（日本に於ける三井物産位の大會社にて

資本金約三億圓。主として印度棉花の輸出を行ひつゝありしが、日本に印度棉花を輸入する目的を以て、日本に開店せり。日本内地の資本家と相談の結果ボルヤート、ブラザース會社後援し日瑞貿易會社の創律を見たるものなり。現在ボルヤートブラザースの成品を取扱ひつゝあるなり。従つて、最初株式は日瑞半々位なりしが現在では大部分の株は、ボルヤートブラザースにて所有せり。

現在ノ主腦者 社長 オー・ト・ライヤー 代表取締役 中川 藤 郎

同 高 島 敏 造 同 シ ャ ン ・ ル ー ツ

東京支店長 平 山 敬 同 エ ー ・ オ ー ・ ケ ラ ー

重ナル株主 ボルヤート・ブラザース會社

本社 大阪市東區北濱四丁目二六

出張所 東京、名古屋、横濱、神戸、福岡。

合 名 社 齋 藤 製 本 所

丸ノ内 有樂町一 丸ノ内 〇九二八

營業種目 製本並に印刷

創立年月 大正六年

公稱資本金 三萬圓

拂込資本金 全額済

沿 革 先代齋藤金次郎が齋藤製本所として二十五年間經營を續けるたりしが、その没後息子次郎氏が事業を受けつぎ兄弟の合名組織にして現在事業を營みつゝあるなり。

現在ノ主腦者 代 表 者 齋 藤 半 次 郎

社団法人 電氣俱樂部

丸ノ内 有樂町一ノ五

丸ノ内 三〇七二一
三六七五

營業種目 社交機關

創立年月 大正十一年三月

沿革 過去に於いて電氣事業に社交機關なきを遺憾に思ひ創立せられたるものなり。

現在ノ主腦者 理事 長 若尾 璋 八

事業 集會。娛樂

大正生命保險株式會社

麹町區有樂町二ノ七

丸ノ内 自二五〇〇九

營業種目 生命保險業

創立年月 大正二年五月

公稱資本金 五十萬圓

拂込資本金 十二萬五千圓

累年ノ配當 最近二割

沿革 大正二年資本金五十萬圓を以て創立す。大正七年以來日本教育生命をも經營するに至る後日

瀟々も可成優良の成績を擧げ居れり。

現在ノ主腦者 社長 柳原 義光 專務 金光 庸夫

各部各課主任 總務部長 支配人 田村 周藏 調査課長 新井 倬五郎

契約課長 高田 一二 代理店課第一部長 中森 政太郎

同 第二部長 楢原 大助 統計課長 國友 通勝

醫務部長 深見 純

業績並ニ現況 支社 東京、京都、大阪、名古屋、廣島、福岡、東北、北海道、

支部 北陸、四國、臺灣、京城、大連。

鳩山秀夫法律事務所

麹町區永樂町一ノ一丸ビル六階

丸ノ内(23) 三八五八

營業種目 法律事務

創立年月 大正十五年四月

現在ノ主腦者 辯護士 法學博士 鳩山 秀夫

各部各課主任 辯護士 法學士 草 薙 晋

日本車輛製造株式會社

龜町區永樂町一ノ一丸ビル三階

丸ノ内(23)〇七五七

營業種目

車輛製造

創立年月

明治二十九年十月十一日

公稱資本金

一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

累年ノ配當

年一割

沿革

明治二十九年十月十一日名古屋驛前假工場に於て業務を開始すると同時に熱田本工場の建築工事も進捗し三十年十一月先づ木工場を移轉し翌三十一年に工場全部の整備を告げしを以て同年六月二十五日限り假工場を撤廢し當會社製作事業の全部は熱田本工場に移り現在の基礎を作れり。

日露戰爭の起るや需要著しく増加し會社空前の好況を呈せしが戦後の大恐慌は再び會社を苦境に陥れたり此に於てか翌四十二年同業者と提携し共同販賣所を設け鐵道院の客貨車製作の注文に對し無益の競争を避け工事の均等整一を計り傍ら各地私設鐵道會社の客貨車、電車、其他瓦斯ホルダー、橋梁等を製作せり。

日進月歩に伴ひ交通機關は益々重要視せられ斯業界は漸次活氣を呈し來り前途有望の曙光を認むるに至り生産の一轉化を來し工場も益々擴張され現在に於ける工場坪數は四萬三千四百四十四坪二合を算し建物は工場倉庫其他を併せて五十九棟この建坪七千八百八十八坪八合なり。

歐洲大戰後は販路益々擴張し社運日に隆盛に赴きつゝある折柄大正九年四月吾同業者たる天野七三郎の個人經營に係る東京府南葛飾郡隅田村に在る車輛製作工場を買收して之を東京支店とせり

當時工場は本支店を併せ坪數六萬八千五百六十六坪四合七勺、建物として工場倉庫其他一百二十五棟この建坪一萬五千一百三十三坪一合二勺、延坪一萬五千二百八十五坪七勺なり。

創業以來三十年此間經濟界に幾多の波瀾曲折ありて經營上苦心を要せること尠からざりしも幸に支障なく經過し今や資本額は創立當時に十倍し此間天野工場を買收して東京支店となし最近東京丸ノ内に出張所を設くる等全く施設の完備成り茲に第一次の營業滿期を迎ふるに至れり。

從來本社製品は材料の精選と技術の優秀とによりて世に定評あるも益々新時代の要求に應ぜん爲諸般の設備をなし殊に鋼製車の製造に至りては他の追隨を許さざるの自信を有し且其の塗粧法には獨特の技を以てし既に各地電鐵會社其他へ上納賞讃を博したり。

現在ノ主腦者

取締役社長	後藤 幸三	同副社長	三瓶 勇佐
常務取締役	山口金太郎	取締役	瀧 定助
同	森本 善七	同	三輪 喜兵衛
同	殿木 三郎	同	原 口 晃
同	岩垂 捨三	監査役	青柳 一太郎
同	龜山 梯吉	同	福原 信三

業務實況

一、本期は鐵道省諸官廳及諸會社註文の客貨車、電車、機關車其他鐵道用品並諸機械器具を製作せり本期間の財界は依然として不振の爲め諸般の事業沈滞し註文の獲得甚だしく困難なりしに拘はず各員の奮勵努力せる結果幸に前期に比し稍良好なる成績を擧ぐることを得たり。

株式會社 松

村 組

丸ノ内仲十四號館ノ一二號

丸ノ内代自二五五一至二五五四

營業種目

土木建築請負業

創立年月

明治二十七年十月

公稱資本金

二百萬圓

拂込資本金

一百五十萬圓

沿革

大正八年七月十五日組織を變更して株式會社と爲す。

現在ノ主腦者

取締役社長 田 中 英 苗

各部各課主任

取締役社長 田 中 英 苗 監査役 梅 垣 越

理事 事 田村 桑 三郎 技 師 小 寺 泰

庶務主任 佐 藤 武 雄 會計主任 石 田 廣 吉

關係會社

官衙、公署、諸會社等

大日本酒類釀造株式會社東京出張所

丸ノ内八重洲ビル三階

丸ノ内 二六三一

營業種目

ダイヤ印焼酎味淋釀造元

拂込資本金

五百萬圓

現在ノ主腦者

東京出張所長 寺 田 正 枝 會計係長 森 崎 松 次

露領水産組合

麴町區永樂町一ノ一九ビル四階

丸ノ内

三〇三四

三〇三六

營業種目

公益法人

創立年月 明治四十年十二月一日
積立金 五十萬圓
沿革

外國領海水產組合法に依り明治四十年十二月一日設立認可、邦人漁業家の利益増進と擁護の爲努力今日に至り、組合員の生産高罐詰及鹽魚約四千萬圓也、約半數は英米支へ輸出せらるゝに至れり、從業員約二萬使用船舶約六十萬噸、使用漁業鹽一億二百萬斤に達する優勢を示し日露漁業協約改訂後は資本家の投資場たるべし。

現在ノ主腦者 組長 子爵 酒井 忠 亮 副組長 中谷 貞 頼
各課各部主任 主事 庶務 鈴木 鄰 吾 主事 會計 佐藤 清 太郎
業績並ニ現況 霞領漁場の租借契約
取引銀行 安田銀行、朝鮮銀行

秘 露 棉 花 株 式 會 社

總町區有樂町一ノ一仲二號 丸ノ内 二五〇一 二五〇三(長)

營業種目

南米秘露國に於ける棉花其他農作物の栽培農場經營並に農産物の加工販賣等

創立年月

大正十五年六月十五日

公稱資本金

一百萬圓

拂込資本金

四十五萬圓

創立者ト其功勞者

井上雅二氏の發意に依り發起人氏名左の如し

井上 雅二氏 平生 鈞三郎氏 喜多 又藏氏

曄道 文藝氏 山田 穆氏 野村 德七氏

小澤 福三郎氏

現在ノ主腦者

社長 井上 雅二 常務取締役 藤澤 玄吉(支店駐在)

取締役 喜多 又藏 同 小澤 福三郎

同 龍江 義信 監査役(平生鈞三郎、曄道文藝、岡田幾松)

支店駐在)

各部各課主任

支配人 山脇正撫(支店駐在) 本店社員 阿部健四郎

重ナル株主

(山田穆氏)(野村德七氏、小澤福三郎氏)(井上雅二氏)日比谷新次郎氏

喜多又藏氏、野村合名會社、海外興業會社、平生鈞三郎氏

業績並ニ現況

秘露國に支店を有し、農場を經營す、其生産棉花はタンギス棉と稱する同國の代表的棉種にして、主として英國に輸出す、收穫は毎年五月乃至九月にして本年を以て設立後第一回の收穫をなす。

海外興業株式會社

東京市麴町區有樂町
一ノ一仲二號館

丸ノ内(23)二五〇一
二五〇二 二五〇三

營業種目

海外移殖民取扱、海外に於ける植民地經營其他企業及投資

創立年月

大正六年十二月一日

公稱資本金

金五百萬圓

拂込資本金

金參百貳拾五萬圓

積立金

九萬二千二百圓

累年ノ配當

大正十一年度五分 大正十二年度三分 大正十四年度四分 大正十五昭和元年度六分

現在ノ主腦者

社長 井上 雅二 專務取締役 龍江 義信

各部各課主任

取締役主事 中井虎六郎 庶務課長 三谷 省吾 移民課長 玉置 佐一

秘書 書神 長 均 伯刺西 支店長 竹澤 太一

伯國イグアへ植民地事務所長 白鳥義助 伯國支店事業部長 相良 三介

伯國アニューマス農場長 矢崎 節夫 秘露出張所長 山脇 正旗

關係會社

海南產業株式會社、太田興業株式會社、南洋興發株式會社、熱帶產業株式會社、東印度起業株式會社、秘露棉化株式會社、南米土地株式會社

重ナル株主

東洋拓殖株式會社、日本郵船株式會社、大阪商船株式會社

海南產業株式會社

麴町區有樂町
一ノ一仲二號

丸ノ内(23)二五〇一
二五〇二 二五〇三(長)

營業種目

南洋ニ於ケル金融並ニ拓殖業(麻、椰子栽培業)

創立年月

大正九年六月二十五日

公稱資本金

參百萬圓

拂込資本金

三百萬圓

積立金

六萬七千七百圓

累年ノ配當

最高一割強、最低三分弱

現在ノ主腦者

取締役會長 龍江 義信

關係會社

海外興業株式會社、比島太田興業株式會社其他數多ノ拓殖會社

重ナル株主

海外興業株式會社、太田道、井上直太郎、諸隈彌策

日本石油株式會社

丸ノ内 有樂館

丸ノ内 自三三三三
至三三三三九

營業種目

一、石油其他礦物の採掘、精製、賣賣及運搬、二、石油其他礦物の副産物製造及賣買、三、「アスファルト」工事其他諸工事の請負並是等工事材料の採取及賣買、商標、蝙蝠印

創立年月

明治二十一年五月

公稱資本金

八〇、〇〇〇、〇〇〇圓

拂込資本金

五六、〇〇〇、〇〇〇圓

◎配當率

上	四一年	五一年	六一年	七一年	八一年	九一年	十一年	十一年	十二年
下	二〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	一三〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇
	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

沿革

當會社は明治二十二年資本金十五萬圓で創立せられ、以後五回増資を経て、明治四十年一千万圓の大會社となり、大正二年更に一千万圓を増資し、總資本を二千万圓とす。次で七年四千萬圓に増資し、十年一月寶田石油會社を合併の結果、資本金を八千万圓とす。

現在ノ主腦者

重役社長 橋本圭三郎 專務 田中次郎
 津下紋太郎 中野鐵平
 取締役 中野貫一 大橋新太郎

山口誠太郎

白勢春三

西脇濟三郎

水田政吉

監査 山口政治

牧野忠篤

澁谷善作

營業概要

鑛區 本期末現在の石油鑛區は北海道八千三十五萬五千六百十九坪、青森縣千二十五萬六千二百六十坪、秋田縣八千八百十六萬六千六百七十五坪、山形縣二千七百二十五萬六百七坪、新潟縣一億五千八百四十六萬七千三百一十一坪、臺灣千八百九十萬二千三百三坪、其他七百五十九萬二千八百二十七坪、合計三億九千九十八萬九千三百二十二坪にして右の外北海道其他に石炭及び金屬鑛區合計千四十七萬四千五百五十一坪あり。

鑿井 本期間の鑿井は前期より繼續掘鑿せるもの九十一坑、新に開坑せるもの百廿四坑掘下せるもの十三坑合計二百二十八坑にして内試掘に屬するは北海道三坑、秋田縣五坑、山形縣一坑、新潟縣十八坑、臺灣四坑合計三十一坑とす。

當期は降雪季に當り且つ北海道秋田縣及び新潟縣地方は近年稀なる暴風雪の爲め作業上尠からざる障礙を被りたるも新潟縣に於ては高町方面の試掘井成功し、北海道増幌油田及び臺灣出礦坑油田に於て良井出現せる爲め産油は期末に至り著しく増加し本期總産出量も亦前期に

比し幾分の増加を示せり。

高町方面は従來數坑の試掘井概ね多量の瓦斯噴出して掘進難に陥りたる爲め已むなく瓦斯採收の上燃料に供しつゝありしが研究の結果噴出瓦斯抑壓の爲め重晶石の細粉を泥化使用せるに大に効を奏し容易に瓦斯層を突破掘進し得て割町第一號井は一月十二日、高町第八號井は二月二十一日、割町第三號井は三月三十日、同第一號井は同月三十一日孰れも深度六百三十間前後にて豊富なる油層に逢着し日産百石乃至三百石の自噴を見前途多量なる油田となれり又增幌油田に於ては北進するに従ひ産油増加の傾向ありしが其の最北端に開掘したる網式第十七號井は三月十六日深度二百六間餘にて自噴を開始し日産量百五十餘石に達し其の將來頗る囑目に値するものあり。

製油 本期は内外原油處理^場に於て更に新記録を作り製品にありては需要も旺盛なる揮發油機械油を初めとし孰れの品種も其の製造高未曾有の數量に達し收得率の増加作業能率の増進と相俟て生産費の節約し得たるもの尠からず。

鶴見製油所及び新潟製油所の分解蒸溜装置は分解揮發油の普及に伴ひ大に其の製造能力を發揮するに至り、秋田製油所の「コールドセットリング」装置の完成及び新潟製油所の「シユルツ」式真空蒸溜操作の熟練等に依り幾多優良機械油を製造するを得たり。

又新潟製油所に於ける減壓發汗装置の竣工及び臺灣製油所に於ける製蠟裝置の擴張の結果著しく製蠟高を増加したり。

販賣 米國石油市況の低迷及び國內財界不振の影響を受けて市價は前期以來引續き漸落歩調を變ぜざりしが需要は漸次増加の趨勢を持續せり就中揮發油は自動車の激増に伴ひ賣行盛にして其の他の製品も荷動き豫想外に活潑なりし爲め賣上數量に於ては新記録を作るを得たり
道路工事 自動車運輸の著しき發達に伴ひ道路改良の必要益緊切となり各地競て之が舗裝に力むる結果受負工事も漸次増加するに至れり。

本期間引受けたる工事の主なるものは東京、横濱、神戸、仙臺、小樽、高松の各都市並に戸、明石間國道及び吳廣間縣道等にして此の外京都市に於ける御大典記念舗裝道路は特に「ワーレナイト・ビチュリシツク」法の指定を受け既に工事に着手したり。

光球炭坑 本冬は例年に比し寒氣緩やかなりし爲め石炭の需要減じ從て各炭坑の貯炭量増加したる結果市價軟弱を免かれざりしが當坑としては各作業順調に經過したる爲め尙相當の成績を擧ぐるを得たり。

營業種目

石炭並燃料賣買

創立年月日

昭和二年六月廿五日

公稱資本金

五萬圓

拂込資本金

五萬圓

現在ノ主腦者

代表者 藤田 與市

重ナル株主

藤田 與市 西卷幹太郎

取引銀行

古河銀行、川崎第百銀行

株式 北海道拓殖銀行東京支店

丸ノ内昭和ビル二階

丸ノ内自四一一一

營業種目

北海道、樺太を營業區域として不動産金融、普通銀行の業務、日本勸業銀行の代理貸付を取扱ふ。

創立年月日

明治卅二年十一月

公稱資本金

二〇、〇〇〇、〇〇〇圓

拂込資本金

一一、五〇〇、〇〇〇圓

◎配當率

十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年	二十三年
上八〇〇	上八〇〇	上九〇〇	上九〇〇	上九〇〇	上九〇〇	上九〇〇	上九〇〇	上九〇〇	上九〇〇
下八〇〇	下九〇〇	下九〇〇	下九〇〇	下九〇〇	下九〇〇	下九〇〇	下九〇〇	下九〇〇	下九〇〇

沿革

當銀行は北海道拓殖銀行法に基き明治三十二年資本金三百萬圓を以て創立せられ同四十一年五百萬圓に、大正九年六月一千萬圓に増資し十一年三月更に二千萬圓に増資し新株二十萬株の内十八萬株は政府以外の株主に對し舊一株に付一株を割當、残り二萬株を公募してプレミアム合計十七萬六千餘圓を得たり。

現在ノ主腦者

取締役	加藤 守一	取締役	清水 英嗣
取締役	安藤 信彦	監査役	門野重九郎
監査役	男爵 三浦英太郎	監査役	間宮 脩治
支店長(専務)	清水 英嗣	支店長代理	上村 宇多彌

營業概況

茲に當期間に於ける北海道及樺太經濟界の大勢並に當行營業の概況を述べて株主各位の參考に供せしむとす。

(一)一般經濟狀態 當期間に於ける我經濟界を一言にて盡せば上半期金融混亂の後を受け之

が整理に終始したるものと云ふべく此間資金の偏在及休業銀行の整理遷延等により中小商工業は極度の資金難に陥りちなきだに事業界不振の折柄層一層の不振を見るに至れり又物價は低落し而も此間購買力は甚しく減退し一般商勢ために萎靡沈滞し對外貿易は甚だ振はざりき此間に處し當局に於ては預金部資金の地方還元特殊銀行機能活用中小商工業者救済等の施策に寧日なく日銀亦第三次の利下げを發表し其人心に及せる効果と歳末近く休銀の整理銀行たる昭和銀行の開業其他二三休業銀行の整理案確立せることゝは相俟て財界一般を比較的平穩に越期せしむることを得たり

特に之を北海道樺太の情勢に就て見るに先づ農産界にありては稻作近年稀なる豊稔を告げ久しく窮境にありし農村經濟は茲に好轉の曙光を認めむと期待せられたるも出廻期に際し市價は崩落し政府の米價調節策も殆ど其効薄かりしものゝ如く其他雜穀類亦概して豊作なりしも米價安の影響を受け荷動き少く一般に商況冴えずして全く期待は裏切られたり獨り輸出向農産物たる青豌豆及穩元は共に海外の作柄不良に刺戟せられ其輸出數量は何れも前年同期に比し多少の増加を示したり。

次に海産物にありては鯨粕の市價著しく暴落し今後の斯業經營上頗る考慮を拂ふの必要を痛感せしめ蟹罐詰は生産過剩と當業者の資金難に因る賣急ぎとにより却て海外の注文を手控せ

しむる結果となり昆布亦市況甚だ振はざりしも其他の食糧海産物及輸出海産物は稍々好況を示せり。

木材は前年度に於ける採算相場に刺戟せられ記録的積取出材を見たるも概して船賃の割高なると期中中葉内地當業者中破綻を暴露するものあるに至り一般に警戒氣分濃厚にして材價慘落し當業者の困惑甚だしきものありき。

石炭は特殊及一般消費量の増加に伴ひ貯炭減少し出炭は空前の増加を告げ市價亦強調を示せり

本道主要産業の概況前述の如くなりしを以て外國貿易計數は輸出壹千七百萬八千餘圓輸入七百參拾萬七千餘圓合計貳千四百參拾壹萬五千餘圓を算し之を前年同期に比するも只僅かに増加を示したるに過ぎず更に特殊工業に就て見るに甜菜糖業は斯業開始以來の増収を見たるも麥酒製紙は賣行稍々不振にして製麻製粉亦未だ頽勢を挽回するに至らず「セメント」工業に至りては近年稀なる不況に陥れり其他呉服織物雜貨類等の諸商品に於ては市價概ね低落せるも一般購買力の不振に因り賣行抄々しからず財界不況の影響深甚なる如實に示せりと云ふも過言に非らざるなり

是つて當期間に於ける本道金融は如上産業の不振商況の不味に隨伴し只季節的資金の需要の

る外事業資金商取引資金の需要未だ見る可きもの無く一般に金融窮乏にて期央各地の組合銀行は預金利率の引下げを實行したり。

(一)營業の概況 一、債券の發行 當期中北海道拓殖債券を發行したる事前後五回其總額貳千貳百萬四千圓に上れり而して内二回七百貳萬四千圓は大藏省預金部の引受に係り他の三回壹千五百萬圓は之を公募に附したり

二、年賦定期貸付 當期間に於ける年賦定期借入申込受理件数は六千六百三十四件之が金額三千二百九十八萬二千八百七十八圓にして前年同期に比し件數に於て百貳件金額に於て六百四十七萬九千九百二十六圓を減少したり之に對し當期貸付高は壹千參百參拾九萬五千六百九拾參圓に達し同償還高は壹千壹百七拾九萬四千五百九拾四圓其期末殘高は壹億貳千六百四拾參萬壹千七拾四圓となり前年同期末殘高に比し參百四萬壹千五百壹圓増加したり貸付金の回收にありては今秋農作物の豐作にも不拘價額不振の關係上多少の懸念なきに非ざりしも従業員の督勵其他機宜の處置を採り豫期以上の成績を擧げたり。

三、普通銀行業務 預金は期末殘高五千五百五萬三千五百四十九圓にして前年同期に比し五百六十一萬五千七百五十九圓を増加せり割引高は一億三千六十三萬二千六百五十圓期末殘高四千三百五十二萬二千七百八十二圓にして前年同期と比較すれば割引高に於て五百十

四萬七千四百五十六圓を減じ期末殘高に於て三百九十七萬一千六百二十八圓を増加せり而して荷爲存取組高は二千三百五十八萬九千九百七十三圓期末殘高二百十四萬七千二百九十二圓にして前年同期に比し存取組高に於て五百二十三萬四千三百五十一圓期末殘高に於て一百三十六萬十一圓を減少せり。

要之當期中北海道及樺太の經濟界は均しく全國一般の情勢に支配せられ未だ不況の域を脱する能はず農工商其他各種産業亦不振裡に終始したりしが此間に處し本行は克く慎重以て諸般の事に當り下記の業績を收め得たるは洵に株主各位と俱に欣幸とする所なり。

株式會社 内

營業種目

創立年月日

公稱資本金

拂込資本金

沿革

外商會

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内(23)二九二九〇八三七

建築材料販賣、石材、コンクリート管

大正十一年二月

五拾萬圓

十二萬五千圓

内外商事株式會社と稱したりしが大正十三年六月名稱變更、營業目的を變更して事業は主として横濱にて營業しつゝあるなり。

現在の主腦者

社長 赤司初太郎 專務 安部政次郎

取締役 締田中正作 監査 中村邦次郎

同 小澤義一

出張店 横濱支店長 柵瀬泰太郎

中村工務所

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内(23)長二七六一

營業種目

建築設計監督、工事請負、その他これに附隨する事業一般

創立年月日

明治四十五年

現在の主腦者

所主 工學士 中村興資平

各部各課主任

主任設計部 岩野城生 同 工務部 藤井嘉造

工務部 市外中野高圓寺五三一 電話四谷三五六五

經 歴

私は明治三十八年七月に、東京帝國大學工科大学建築科を卒業致しますと直ちに、故工學博士辰野金吾先生の建築事務所に入りまして建築設計に従事致してをりましたところ、朝鮮銀行(其當時第一銀行)が建築計畫せられましたので、辰野博士指導のもとに専らその設計に従事致しまして、該工事監督のために、同行建築技師長として、明治四十一年渡鮮致しました

鋭意その竣工に努力致しました結果、萬事豫想外の進捗を得て、明治四十四年十二月建築工事を落成せしむるに至りました、銀行よりは金盃一組並に金壹封を贈られました。

この重任を果しました後に、獨立して京城に中村建築事務所を設立し、傍ら朝鮮銀行建築顧問として、専ら朝鮮半島各地の建築設計、並に監督に従事致してをりましたが、たまたま滿洲の開発に連れ、同地方よりの依頼の激増致しましたので、大正六年には大連に建築事務所の出張所並に工務部を新設致しまして、従來の建築設計に加ふるに、工事の請負にも従事致すことになりました。

大正十年三月建築視察のために、當工務所技師獨人アントン、フェラート氏を伴ひて、米、獨逸、佛、英、和、抹、瑞、西、伊等の各國を廻遊致しまして翌十一年二月に歸朝致しますとまもなく同年四月よりは本部を東京に移しました。東京に於ての最初の設計監督は東京市立麴町區番町小學校でありまして、その落成に當り麴町區役所よりは特に金杯一個を贈られました爾來引續き専心建築設計、監督並に工事請負に従事致し居りますが、幸ひにして事業日と共に隆盛に越きつつあるは皆様の一方ならざる御庇護による事と所員一同と共に深く感謝致してをる次第であります。

當工務所の特色

當工務所は創設以來主として建築設計並に監督に従事致してをりましたが、感ずるところが

ありまして、大正六年より工事請負部をも開始致しました。工事に於きましても常に設計監督者の心持ちを良く理解して誠心誠意施工致しまするために、日増に順調なる發展に向つてをります。

設計工事兩部共に専門技師の擔任により斯界の革新を期する覺悟であります。

小林組

營業種目 土木建築請負

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内(23)〇六四五

現在ノ主腦者 小林 徳一郎

丸金木材合資會社

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内 一九七四

營業種目

ラワン製材丸太一手販賣、北洋材。

創立年月日

昭和二年二月

公稱資本金

十萬圓

拂込資本金

全額拂込済

各部各課主任

代表社員 木原幸太郎

資本系統並ニ其變遷

出資社員 柴田 享一

同

井出 清治

業績並ニ現況

比律賓木材株式會社の關東一手販賣

主なる取引先

淺野物産、東東電燈、汽車會社、橫濱船渠、富袁田漁網船

内外食品株式會社

丸ノ内昭和ビル四階

丸ノ内(23)一八五一

營業種目

罐詰製造販賣

創立年月日

昭和二年七月一日

公稱資本金

五十萬圓

拂込資本金

二十五萬圓

現在ノ主腦者

社 長 水野 耕一 專 務 鍋島 熊道

監 査 鈴木 永吉

合名會社共進商會

丸ノ内昭和ビル三階

丸ノ内 三八〇六

營業種目

蓄電池ソケット、土木建築器械衡器試驗機礦山用器械一般。

創立年月日

昭和三年一月

公稱資本金

三萬圓

拂込資本金

全額拂込済

沿革

丸ビルに於いて高橋正治氏個人經營をつとけりしが、二年十一月鈴木商店東京支店機械部主任木村一郎氏と共同して、昭和三年一月に合名會社を組織す。

現在ノ主腦者

代表 高橋正治 木村一郎

米、リパブリック會社のフローメーターの代理、

王子鐵工所(土木建築用)の代理店

神戸電機製作所の代理店

神戸川西機械製作所の飛行機、試験器衡器の代理店

市瀬洋服店丸之内出張所

丸ノ内昭和ビル一階

丸ノ内(23)三〇九二

營業種目

洋服裁縫業

創立年月日

明治三十四年

沿革

事業の繁榮に伴ひ丸ノ内出張所を昭和二年九月より昭和ビルに設く。

現在ノ主腦者

本店 主 市瀬 三五

各部各課主任

出張所主任 市瀬 猛雄

本店 四谷、傳馬町一ノ二四 四谷二一四五

宮崎商會

丸ノ内昭和ビル一階

丸ノ内(23)二六三二

營業種目

ゴム製品バツキングユードホース販賣

創立年月日

昭和二年十月

沿革

兒玉賢易商會として經營しつゝありしを、昭和二年十月宮崎律三氏、その事業を受けつぎ引つゞき現在に及ぶ。

現在ノ主腦者

店 主 宮崎 律三

各部各課主任

宮崎 正康 前田 信義 小名木 郁之助

宮崎 歸一 板橋 銀次

野村銀行丸之内出張所

本店 大阪市東區備後町二丁目

丸ノ内(23)二七〇八

創立年月日

大正七年五月

公稱資本金

一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

大正七年八月資本金一千萬圓全額拂込済を以つて創立せられる。最初一般銀行業務の外、工業資金の供給、擔保附、社債信託業務、有價證券募集引受等を標榜として起つたものであるが、その後時勢の進運と共に漸次其業態を改め有價證券市場取引所金融に其力を注ぐに至り、今日に於いて主として一般商業資金の供給を本務として純然たる商業銀行としての基礎を確立したものである。

各部各課主任

支店長 西村勝太郎 丸ノ内出張所主任 松浦茂彦
 次席 北澤忠

業績並に現況

丸ノ内出張所は昭和二年十一月に開始す。

取締役頭取	野村元五郎	常務取締役	片岡晋吾
同	松島準吉	取締役	野村徳七
同	田坂正生	同	廣瀬安太郎
監査役	柴山鷲雄		

金融の繁閑

春期に於ける我金融界恐慌の餘波漸く収まり人心安定と共に日銀非常貸出も著しく回收せられたりと雖も當初頭に於ける日本銀行貸出預金は何れも異常の膨脹を示すを眺めては我財界の當規的回復も俄かに期待し得べからざるを思はしめ且つ資金の偏倚的集中の傾向は依然として緩和せらるべくもあらず即ち二三流銀行の資金難は惹て中小工業者の金融を壓迫し地方資金の枯渴は益々農村の疲憊を助長し其の弊害の漸く甚だしきを加ふるに及んで政府は之れが救済策として地方高利債の低利借替、公共團體に對する貸付或は藪價安定の應急資金として激増したる預金部資金の一部を放出して大いに資金の地元還元を力め其の効果大いに見えるべきものありたり。

然れども金融恐慌が一般商工界に及ぼしたる影響は意外に深刻にして昨年暴落を演じたる内地物價は依然低落の歩調を續け從而各種企業の利潤は益々減退を來し生産の休止短縮は綿糸製粉セメント其他凡ゆる重要産業に亘り而も其の効果は概して消極的にして需給關係を積極的に良化せしむるの域に達せず産業界の不況其の極度に達したるやの觀あれども一面之れが爲め却而事業界の整理淘汰を促進せしめたるの事實は看過すべからざる所なりとす。

斯くして内地信用の收縮事業の不振は自然對外貿易に反映し輸出入總額に於て大いに減少をみたるも入超額は大正八年以來の記録的減退を示し貿易の均衡著しく改善せられたるは蓋し財界不況の深刻化に伴ふ輸入の極度に抑制せられたるに外ならず而して前期末尙ほ四十六弗を維持せられたる爲替相場は今期初頭に於て稍反撥の勢ありしも我國金利低落に因る國際金融の變動に支配せられ貿易の好轉を超越して十一月遂に四十五弗臺に急落を演じたり斯く爲

替相繼の低落せるにも拘らず却而一層物價低落の跡を示すに至れるは一面如何に恐慌の深刻なりしかを語るに足るものと信ぜらるゝなり。

右の如く物價低落産業不振は當然資金需要の減退を招き更に貿易の縮少は變態金融の緩漫を助長し金利は愈急落を示して公社債發行額の激増に伴ひ起債條件亦六分利平價發行を實現するに至り遂に普通銀行預金利下に續いて日銀第四次利下發表となり金融稀薄の緩漫を呈したるも中小工業者は依然金融の逼迫に脅かされ一方休業銀行整理滞滯は期末接近と共に財界に一抹の暗影を投じ政治問題化せんとするに至れるが政府日銀の對策其の効を奏し一部預金支拂の開始となり年末不安人氣一掃と共に金融の基調安定を得無事恐慌の第一年を經過したるは誠に邦家の爲め慶すべきことなりとす。

當行は右の如き金融恐慌後の劃期的財界の推移に善處し無事當期を經過することを得たるのみならず當行の信用益々厚重を加へ將來經營發展上愈々確實なる業績を築くを得たりしは誠に欣快とする所なり。益々業務の刷新内容の充實を期し聊か財界金融の爲め貢獻する所あらんことを希ふ所以なり。

繰り金

種 類	前期繰越金	當期預り金	當期拂戻高	當期末現在高
公 金 預 金	0.00	227,398.55	134,618.27	92,779.28

當 座 預 金	28,092,934.73	1,308,744,746.80	1,326,328,513.33	20,569,168.20
特別當座預金	7,295,396.59	4,883,048.81	43,785,563.21	9,393,883.29
通知 預 金	20,167,367.82	68,427,038.07	57,800,719.33	30,773,676.57
定期 預 金	23,422,598.84	28,345,900.26	33,645,387.84	29,233,271.06
別段 預 金	5,034,498.86	160,267,379.97	161,180,863.33	4,131,015.61
計	84,011,796.86	1,611,992,562.91	1,601,865,564.71	94,091,793.91

支店並ニ出張所現在營業所の所在地

東 京 支 店	東京市日本橋區萬町四、五
同 丸ノ内出張所	同 麴町區八重洲町一ノ一昭和ビル内
京 都 支 店	京都市下京區四條通高倉西入立賣西町八二
同 祇園出張所	同 同 大和大路東入祇園町北側二五二
同 七條出張所	同 同 七條通間ノ町東入材木町四六〇ノ一
同 河原町出張所	同 同 河原町通三條下ル三丁目奈良屋町二九三
同 大宮出張所	同 同 大宮通四條上ル錦大宮町一二二
同 中央市場出張所	同 同 雀朱分木町市有京都中央卸賣市場内

神戸支店 神戸市榮町通三ノ二一ノ一
 楠町支店 同 楠町七ノ三三ノ一四
 名古屋支店 名古屋市中区榮町五ノ二
 福岡支店 福岡市上西町二一ノ一
 北濱支店 大阪市東區北濱一ノ六、七
 千代崎橋支店 同 西區松島町一ノ二七
 同市岡出張所 同 港區市岡元町三ノ九
 同大正橋出張所 同 同 大正通二ノ四〇
 堂島支店 同 北區堂島濱通一ノ一〇八
 同梅田出張所 同 同 會根崎中二ノ一〇
 同野田出張所 同 西 淀川區海老江町一〇八五
 同正米市場出張所 同 北區玉江町一ノ二四 大阪堂島米穀取引所正米市場梅内
 天満支店 同 北區天神橋筋一ノ三四
 同天六出張所 同 同 六ノ五新京阪ビル内
 同吹田出張所 大阪府三島郡吹田町字札場七一〇

船場支店 大阪市東區北久太郎町三ノ一五
 同順慶町出張所 同 南區順慶町四ノ一二六
 鶴橋支店 同 東區東小橋町九七ノ一三
 同上六出張所 同 天王寺區上本町六ノ一大軌ビル内
 阿倍野橋支店 同 住吉區天土寺町九三四ノ九(未營業)
 島之内支店 同 南區鯉谷仲之町五四(未營業)

大日本製糖株式會社出張所

丸ノ内昭和ビル六階

丸ノ内自三三五一

營業種目

砂糖製造業

創立年月日

明治廿九年一月

公稱資本金

二千七百二十五萬圓

拂込資本金

二千六百萬二千五百圓

配當率

四年 上 一〇〇〇
 五年 上 一〇〇〇
 六年 上 一〇〇〇
 七年 上 一〇〇〇
 八年 上 一〇〇〇
 九年 上 一〇〇〇
 十年 上 一〇〇〇
 十一年 上 一〇〇〇
 十二年 上 一〇〇〇
 四年 下 一〇〇〇
 五年 下 一〇〇〇
 六年 下 一〇〇〇
 七年 下 一〇〇〇
 八年 下 一〇〇〇
 九年 下 一〇〇〇
 十年 下 一〇〇〇
 十一年 下 一〇〇〇
 十二年 下 一〇〇〇

十三年	十四年	十五年	二十年
二〇〇〇	一八〇〇	一四〇〇	一四〇〇
二〇〇〇	一六〇〇	一四〇〇	一四〇〇

沿革

當社はもと日本製糖會社と稱して、明治二十九年一月資本金三十萬圓を以つて東京府下小名木川に創立されたものであるが、同年六十萬圓に、卅二年三月二百萬圓に、卅七年十二月氷糖工場増設のため更に四百萬圓に増資、三十九年一月資本金千二百萬圓に増加、大阪製糖會社と合併して社名を現在の「日本製糖」と改稱したものである。其後も大里製糖、名古屋精糖を買収したが、増資急激なりしと内部の積弊とで四十一年十二月あたかも日露戦後の反動期にあつて遂に一大破綻を暴露し、收拾すべからざる有様となり現社長藤山雷太氏の入社となつたのであるがその整理宜しきを得て千四百萬圓からの債務も漸時償還せられて四十四年上期には五分の配當をなし得るに至つた。歐洲大戦後大正六年千八百萬圓に増資して大里工場を擴張し八年一月朝鮮製糖を合併して二千五十萬となり十二年内外製糖を合併して二千七百二十五萬となり現在に及んだものである。

現在ノ主腦者

社 長 藤 山 雷 太 常 務 伊 吹 震

當社は十五年下期二百六萬七千餘圓、二年上期二百一萬圓(利益率二割強)の各利益金を擧げ恒例配當一割四分を踏襲した、當社は精糖事業を主とし、臺灣で粗糖事業を經營してゐる、然

るに近年の傾向としては本業たる精糖方面の利益極めて薄く、寧ろ兼營事業たる粗糖方面の利益が確實有利といふことになつてゐるそれだけ過去の様に經營は樂でない、そこで粗糖事業の擴張を圖る意圖を有してゐたが、折から鈴木商店破綻して東洋製糖が經營困難に陥つたのでその拂込資本金三分の一を切捨て平等で合併することゝなつた、これで當社多年の希望は充たされた譯であるが、合併條件の不利であるといふことからその前途に悲觀を構ふるものもある、併し精糖事業は投機的であつて好況時に利益激増し、粗糖事業は寧ろ不況時に安んずる性質を帯びてゐる、この兩者を並び兼營することゝなつた當社は、將に將來の業績を大磐石の上に置くものであつてこの合併は寧ろ遠き將來のため樂觀材料と觀るべきであらう。

東亞貿易合資會社

丸ノ内昭和ビル四階

丸ノ内(23)四六〇二

營業種目

アンペラ、麻袋等香港及び印度特産品の輸入業、雜穀食糧品の輸出入並に之に關聯する事業

創立年月日

昭和二年十二月

公稱資本金

一萬圓

拂込資本金

全額拂込済

沿革

當會社は社員の氏名、出資の種類、價格及其の責任

七二

一金二千圓也 無 限 上田勝治郎

一金一千圓也 同 佐竹良太

一金六千圓也 有 限 佐竹員治

一金二千圓也 有 限 宇賀一男

現在ノ主腦者

社員 上田勝治郎

佐竹良太

佐竹員治

宇賀一男

田中芳雄商店

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内 三八四六

營業種目

食糧品

創立年月日

昭和二年十一月

現在ノ主腦者

店主 田中芳雄

馬立式ポンプ事務所

丸ノ内昭和ビル一階

丸ノ内 〇七四二

營業種目

馬立式ポンプ販賣

現在ノ主腦者

馬立順三郎

齋藤亮三郎

支那料理

和亭

丸ノ内昭和ビル地下室

丸ノ内(23)四〇五五

營業種目

食堂

創立年月日

昭和二年九月

沿革

丸ノ内の中央亭に長く勤続中なりしが、昨年九月丸ノ内に支那料理のなきを遺憾に思ひ、開業するに至る、本店の最も特長とするものは北京料理である。

現在ノ主腦者

小名一男

臺華社

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内(23)二〇八四

雜誌「黑白」發行

現在ノ主腦者

社主 杉山茂丸

藤丸商會

丸ノ内昭和ビル二階

丸ノ内 四六三二

營業種目

バルブ、アイトメル販賣

七三

創立年月日

昭和二年九月

現在の主腦者

代表者 正親町 實慶

業績並ニ現況 成品は主として日本石油會社へ納入。

ロツク、アスファルト工業株式會社東京出張所

丸ノ内昭和ビル三階

丸ノ内 〇〇七一

營業種目

舗装工用アスファルトブロック製造

創立年月日

大正十一年

公稱資本金

五十萬圓

拂込資本金

全額拂込済

沿革

もとヒリツピンにロツクアスファルトといふ原礦を、現社長山本市次郎氏が、原料を買ひ日本に輸入し、加工してロツクアスファルトブロックを製造するに至る。

現在ノ主腦者

社長 山本市次郎

金融情報社

丸ノ内昭和ビル三階

丸ノ内 三九七四

營業種目

月刊雜誌發行

創立年月日

大正十五年十月創刊

各部各課主任

社長	栗山芳太郎	社員	關口正雄	肥沼淺五郎	落合久次
		北澤	作一	上田茂	高橋幸七
		三ツ木	隆次	岩淵	小島正治

友田五三事務所

丸ノ内昭和ビル三階

丸ノ内 三六二二

營業種目

建築材料コンクリート業

創立年月日

大正十二年

沿革

京橋區銀座に於いて事業を經營しつゝありしが、昭和二年十月丸ノ内に事務所を變更す。

現在ノ主腦者

友田五三

各部各課主任

北 保 人 見 勝



工場 羽田町字羽田増田橋側コンクリートの製品
特約品 ヨネフラツシユバルフ外國の照明器具、自動車用の機械器具

合資 角丁渡邊商店

丸ノ内昭和ビル二階

丸ノ内(23)三八一三

營業種目 土地建物、有價證券の所有

創立年月日 大正十二年四月

公稱資本金 三十六萬圓

拂込資本金 全額拂込済

沿革 西館にて事業を經營しつゝありしを、時代の進運に伴ひ大正十三年五月東京に經營を移せり

現在ノ主腦者 社長 渡邊 泰邦

各部各課主任 主任 安東 敏雄

大日本人造肥料株式會社

東京府下大島町一ノ五九
事務所 丸ノ内興銀ビル六階

丸ノ内自二四二一
至二四二九

營業種目 過磷酸肥料、完全肥料二百三十餘種、工業藥品十數種

創立年月日 明治二十年二月

公稱資本金 三五、〇〇〇、〇〇〇

拂込資本金 二五、五五〇、〇〇〇

●配當率

上	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年
下	八〇	一六〇	一六〇	一六〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	六〇〇	一〇〇〇
十三年	十四年	十五年	二十年						
八〇	八〇	一〇〇	一〇〇						

沿革の大要

當會社は高峰工學博士主唱の下に澁澤子爵、峰須賀侯爵、三井武之助氏、大倉、益田各男爵、淺野總一郎氏其他諸氏の發起にて資本金二十五萬圓を以て創設せらる、其創めて工場を深川區釜屋堀に設けたるは遠く明治二十年の事にして同年二月二十八日を以て創立總會を開き翌年十一月より機械の運轉を開始せり、其後工場火災に遇ひて事業頓挫し資本を半減せるも當局者確たる決心を以て工場を再建營業を繼續せり、然して其後社運の好況に伴ひ明治廿八年資本金を倍加して廿五萬圓となし翌廿九年十一月再び五十萬圓に倍加せるが更に卅六年六月三度増資して七十五萬圓となし日露戰後の需要激増に促されて卅九年十二月百五十萬圓に増資すると共に工場を増設し翌四十一年五回の増資をなして資本金三百萬圓となり同年八月北海道人造肥料會社及帝國肥料會社を合併し、同時に六度増資を行ひて四百萬圓となせり、翌

四十二年十二月に攝津製油會社肥料部を買収し其翌四十三年七月に大阪硫會社を合併すると同時に資本金六百廿五萬圓となし、同年十月社名を現在の大日本造肥料株式會社と改稱せり、其後大正二年一月八度増資して千二百五十萬圓となし、七年九月中國肥料會社を合併して百萬圓を増資し八年七月硫酸肥料會社を合併すると共に十回資本金を増加して一千四百三十萬圓となしたるが大正十二年五月十一日關東酸曹株式會社及日本化學肥料株式會社を合併したる結果資本金二千二百四十萬圓となり更に大正十五年九月一千二百六十萬圓を増加して資本金三千五百萬圓となりたり。

現在ノ主腦者

取締役社長	田中榮八郎	專務取締役	二神 駿 吉
常務取締役	石川 一郎	取 締 役	室 田 義 文
同	竹原友三郎	同	益 田 太 郎
同	山 岡 倭	同	苔米地 義 三
同	菅 禮之助	同	藤 田 好 三 郎
同	川 崎 清 男	監 査 役	小 西 喜 兵 衛
同	松 村 光 三		

營業概況

本期間の製造數量は左の如し

酸 類	九七、三二〇、六六六封度
曹達晒粉其他藥品類	四八、八四八、五四七封度
肥 料 各 種	五一、九九六、七九五貫

本期間の販賣數量は左の如し

酸 類	一〇三、二九八、三九〇封度
曹達晒粉其他藥品類	五六、七五四、五九五封度
肥 料 各 種	三三、八五九、四七九貫

本期肥料の營業狀態は一般經濟界異常の沈靜裡に推移し殊に米藪其他農産物の價格亦思はしからず旁々農村購買力激減の爲め商況振はず斯界は尠からざる打撃を受けたり従て其商勢は全期間を通じて更に進展を見ず不況裡に終始せるは遺憾なり。
藥品類の市價も幾分環境不振の影響を受けしが幸に需要増加の爲め相當の成績を擧ぐるを得たり。

日東硫肥株式會社

丸ノ内興銀ビル七階

丸ノ内(23)一六二一

營業種目

肥料、硫酸、其他化學工業品の製造並に販賣

創立年月日 大正七年十月五日

公稱資本金 一百五十萬圓

拂込資本金 百萬圓

累年ノ配當 十五年 上1・000 下1・000 二年 上1・000 下0・008

沿革 大正七年の好況時の創立なり操業約一ヶ年にして經濟界の不況と共に不幸缺損を重ね漸次不振の状態となる。

同十五年上期に於て資本金二百萬圓を五十萬圓に減少し一百萬圓を増資す。

現在ノ主腦者

取締役會長 田中榮八郎 専務取締役 二神 駿吉

常務取締役 石川 一郎 取締役 役 苦米地義三

同 坂田 倫三郎 同 兼支配人 小田代 慶太郎

監 査 役 堀江 巷四郎 同 山下 三郎

營業概況

一、本期は初期以來主要農産物價格の軟弱に伴ひ一般肥料漸落の歩調を辿り過磷酸亦其影響を被り引續き不況の域を脱せず全期を終りたるも幸ひに左記の利益を計上することを得たり

合同油脂グリセリン株式會社

丸ノ内興銀ビル七階

丸ノ内 長 一一八〇 一 一一八九
一 一一八八

營業種目

石鹼、蠟燭、油脂、原料、グリセリンオイルン其他

創立年月日

大正十年四月七日

公稱資本金

五、〇〇〇、〇〇〇

拂込資本金

全額拂込

配當率

十二年 十三年 十四年 十五年 二十年
上 一・八〇 一・八〇 一・八〇 一・八〇 一・八〇
下 一・八〇 一・八〇 一・八〇 一・八〇 一・八〇

沿革

大正十四年四月スタンダード油脂株式會社創立大正十二年五月日本グリセリン工業株式會社を合併し社名を合同油脂グリセリン株式會社と改稱今日に至る。

現在ノ主腦者

取締役社長 田中榮八郎 専務取締役 二神 駿吉

常務取締役 石川 一郎 取締役 役 長久伊勢吉

同 久保田 四郎 同 西村 憲臣

同 大橋 退治 同 持田 由孝

同 長郷 幸治 主 査 役 南 楠太郎

營業概況

同 小西 鶴 太 常任監査役 苦米 地 義 三

一、主要原料たる魚油は今期は幸に豐滿なりし爲め多量買附を爲し相當良好なる仕入成績を擧げたり亦大豆油及椰子油は期初弱値の商狀なりしが期半より市況頓に好轉し漸次高値を唱ふるに至りたるも是等は孰れも適當なる時機に買入れを爲し又松脂は産地大增産の爲め終始軟勢を辿れるを以て常に當用買の方針を以て經過せり。

製品の商況に就ては硬化油類は例年の如く期初需要旺盛にして多量の出荷を爲し後半期に於ては濠洲牛脂の高値に伴ひ多年の宿望たる海外輸出の好機會を捉ふる事を得近年になき多量の取引をなせり此外蠟燭原料及オイレン等順調の賣行を見たるもグリセリンは今期海外相場

の暴落に伴ひ軟弱歩調を辿り概して需要減退し又石鹼は財界不況に伴ひ市場に安物續出の爲め賣行稍減少せり要するに本期に於ける營業狀態は深刻なる財界不況の影響を受け市價一般に軟勢を辿れるを以て収益率舉らざりしも幸に販賣量に於て著しき増加を見たる爲め相當の成績を収むるを得たるは眞に欣幸とする所なり。

人造肥料聯合會

丸ノ内興銀ビル七階

丸ノ内 二九一九

目的

本會は人造肥料の歩歩發達を圖り同業者相互の交誼を温め且つ共通の利益を保護増進するを

以て目的とす。

本會は過磷酸肥料製造者を以て組織す。

創立年月日

明治四十年十二月

沿革

肥料取締法改正に關し、團體的運動の必要を認め本會は生れたるものなり。

現在ノ主腦者

會長 田中榮 八郎 幹事 大日本人造肥料株式會社

ラサ島燐礦株式會社 多木製肥所

常任理事 岩村 一木

日本興業銀行

麹町區永樂町二ノ一七

丸ノ内 長二五〇

自二五二 至二六一

營業種目

- 一、國債證券、地方證券、社債券、株券を擔保とする貸付
- 一、法律の規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
- 一、工場に關する敷地、建物を抵當とする貸付
- 一、市制施行地及勅令を以て指定せられたる市街地に存在する宅地、建物を抵當とする貸付
- 一、船舶又は製造中の船舶を抵當とする貸付
- 一、造船材料又は船舶屬具を擔保とする貸付

- 一、國債證券、地方證券、社債券の應募又は引受
- 一、株式の應募又は引受
- 一、定期預金、當座預金、特別當座預金
- 一、有價證券、其他貴重品の保護預
- 一、擔保付社債に關する信託事業
- 一、國債證券、地方證券、社債券若は株式の募集、其拂込金の受入又は其元利金若は配當の支拂の取扱
- 一、諸般の手形割引
- 一、内外國爲替事業

創立年月日

明治三十五年三月三十一日

配當率

上	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年
下	●六五	●五五	●六〇	●七〇	●七〇	●八〇	●〇〇	●〇〇	●〇〇	●〇〇
	●八〇	●八〇	●八〇	●六〇	●六〇	●六〇	●六〇	●六〇	●六〇	●六〇

沿革

明治三十五年資本金一千萬圓を以て創立せられ、明治三十九年四月七百五十萬圓を増資し、

株式は無記式を以て發行す。次で大正六年八月一千二百五十萬圓を増資し、新株二百五十萬株の内七萬五千株を公募してプレミアム合計八十二萬七千圓を得、更に大正八年八月二千萬圓を増資新株三十萬株を公募してプレミアム合計二百七十二萬八千圓を得たり、對支借款の爲に大正十二三年中發行したる第三、四回政府保證興業債券五千萬圓、第五回保證興業債券二千二百萬圓及第八一回興業債券四百六十七萬圓は法律第四十一號に依り政府に於て肩替することゝなれり。

現在ノ主腦者

總 裁	鈴木島吉	副 總 裁	松本重威
理 事	松本弘造	同	寶來市松
同	天宅敬吉	監 査 役	岩佐埴藏
同	子爵 八條隆正	同	吉川孝秀

當期間經濟界は年來の不景氣並前期に於ける金融恐慌の影響を受けて依然不振の狀を呈し從て信用收縮し消費萎靡し一般取引概ね沈滞し各種事業亦大體に於て成績舉らず緊縮整理を續行したり即ち先づ金融界を觀るに引續き資金は大銀行を初め有力なる信託會社及郵便貯金等に集中偏在して頗る潤澤を告げたりと雖も之に對する適當なる需要は未だ喚起せらるゝ時機に達せざりしを以て金融は益變態的緩慢の狀況を持續し金利は著しく低下し東京組合銀行甲

種定期預金利率の如きは十月八日以降年利五分五厘より五分と爲り又日本銀行商業手形割引歩合は同月十日以降日歩一錢六厘より一錢五厘と爲り孰れも大正七年以來の最低利率を示せり而して之と前後して東京市中一流商業手形割引歩合も亦日歩一錢一、二厘コール翌日物日歩五、六厘と云ふが如き稀有の低率を現したり。

如上遊資の潤澤と金利の低下とは延て公社債に對する投資を誘ひ之が爲め其取引額に増加したるのみならず其價格亦騰貴し著しく利廻の低下を招致したるを以て公社債の發行簇出し證券界は頗る活況を呈したり即ち當期間國債三億四千八百四十二萬六千餘圓、地方債一億八千九百八十二萬一千餘圓、銀行債券一億七千六百三十四萬九千餘圓、會社債三億二百五萬五千餘圓合計十億一千六百六十五萬二千餘圓の發行を見たり之を前年同期に比較すれば正に四億八千九百四十二萬三千餘圓を増加せり而して其發行條件概ね改善せられたる中にも右會社債の平均期間は六年七月にして平均利廻は六分九厘九毛を示せり之れ前年同期に比し期間に於て九ヶ月を延長し利率に於て四厘三毛を低下したるものにして起債者に取りて頗る有利なるに至りたるや言を俟たず又期初來久しく沈滞の裡に在りたる株式相場は公社債相場の騰貴に刺戟せられ期末に近くに及んで特殊株式取引の活況を呈したり。

次に當期間對外貿易は輸出十億四千二百餘萬圓、輸入九億三千二百餘萬圓、輸出入合計十九

億七千五百餘萬圓にして之を前年同期に比較すれば輸出七百餘萬圓輸入四千五百餘萬圓、輸出入合計五千三百餘萬圓を各減少したり然れども原料品及原料用製品其他一般に輸入の減少特に著しかりしを以て輸出超過額は前年同期に比し三千七百萬圓を増加し一億一千餘萬圓を示したるは聊か貿易好調の狀を察するに足るのみならず更に全年の貿易を通觀すれば輸入超過額一億八千六百餘萬圓に止まり實に大正九年以來の少額に屬す從て對外貿易の大勢漸次改善を告げたるは勿論我國際貸借關係の上にも亦好結果を齎したり繚々事業界を觀るに依然一段購買力の衰退せるに拘らず生産設備の過大なる爲め財貨の供給過剩なるの趨勢に在るを以て同業者間の競争益甚大を加へ事業の經營維持容易ならざるものあり就中紡績、生糸、モスリ、製糖、製粉、製紙、洋灰、石油、銑鐵、過磷酸石灰、晒粉等の諸事業に在ては限産協定販賣協定の方策を講じて製品の需給を調節し以て價格の維持に努力し來れりと雖も其効果充分に發揮せらるゝに至らず利潤は却て減少の傾向あり然れば此の間に在て事業の單獨又は合併整理の續行せられたるは自然の數なりと言はざるを得ず即ち當期間減資解散は前年同期に比すれば稍減少の狀を呈したりと雖も其資本合計は三億四千九百十九萬七千餘圓、其會社數六百八十九社の多數を算せり特に製造工業、化學工業及銀行業に於て顯著なるものありたり然れども其整理の進捗並金融緩慢に伴ひ多數新設擴張の企てらるゝものあり而して此等の計

畫は製造工業及化學工業に於て稍其形跡の認むべきものと同時に運輸交通業及電氣業に於て特に顯著にして各種事業の新設及増資資本合計七億二千三百八十一萬六千餘圓を算し其社數一千三百二十九社の多數に達したるは將來我事業界發達の素地を作すものと謂ふべし要するに當期間經濟界は依然整理の續行を以て終始したるものにして今後更に官民一致協調して各種事業の整理進行に努むるは勿論金輸出解禁に必要な準備を怠らず以て我經濟界をして常調に復せしめ益堅實なる發展を期せざるべからず

當期間本行は既述經濟界の推移に順應して金融機關たるの機能を發揮せむが爲め苟くも有望なる事業に對して規模の大小を問はず進んで擴張又は整理資金を融通し聊か事業の進展並整理に微力を盡したり即ち當期末本行總貸出現高は三億七百七十九萬四千餘圓にして之を前期末に比較すれば一千五百七十五萬一千餘圓を増加せり其中震災後開始し爾來力を致せる中小工業者に對する貸付金は一千二百三十九萬餘圓なり尙ほ當期間本行は興業債券合計四千五百萬圓を發行し又新濶公債號中二百萬圓を初め西武鐵道株式會社第二回物上擔保付社債三百五十萬圓、同第三回物上擔保付社債三百萬圓、安曇電氣株式會社第二回物上擔保付社債一百萬圓合計九百五十萬圓を單獨に引受け且右會社社債の發行に際し本行は各其受託會社と爲れり又同業者と共同して東京市上下水道公債(第三回)一千二百二十八萬六千圓、南滿洲鐵道

株式會社第二十七回社債五千萬圓、大同電力株式會社第七回社債一千九百九十一萬圓、白山水力株式會社は號社債四百萬圓、國際汽船株式會社第二回物上擔保付社債二百五十萬圓、合計八千八百六十九萬六千圓を引受け又は引受募集し以て資金の調達に任じたり之を前期に比較すれば單獨取扱に於て四百萬圓を減少せるも共同取扱に在つては五千八百八十五萬圓を増加せり。

當期間營業成績は總益金一千三百二十二萬六千七百二十四圓餘、前期繰越金二百四萬四千五百七十一圓餘、合計一千四百二十七萬一千二百九十五圓餘、當期總損金一千一百二十萬四百九十三圓餘、差引當期利益金三百七萬八百二圓餘を得たり仍て各種立金に合計四十萬圓を計上し株主配當を年六分とし其他分配案を作成して之を提出したり。

發明實施研究所

營業種目

發明品の普及

創立年月日

大正十四年

沿革

現所長小野氏はもと京都大學にて動物學の講義をなしつゝありし人。傳染病の豫防に就いての研究を續けるたりしが、世に多くの發明品はあれどそれを實施するには物質的その他にい

丸ノ内仲六號館
小石川區小日向臺町二ノ三五

丸ノ内 〇八二〇
小石川 四三五六

ろくの缺陷あるを憂ひ、大正十四年研究所を開くに至る。併して現在では階段型塵芥汚物
焼却爐を發明し、特許小野式有機性廢物處理裝置の普及につとめつゝあるなり。

現在の主腦者

所長兼學術部長 小野 俊一 會 計 矢 島 要
技 術 嘉 戸 貞 秋 庶 務 須 田 正 繼
總 務 部 渡 邊 方 舟

増田屋合資會社

麴町區永樂町一ノ一九ビル

丸ノ内 三三三二(4)

營業種目

輸出入業

創立年月日

大正十年二月

拂込資本金

十萬圓

現在の主腦者

代表社員 堀籠虎之助

取引銀行

横濱正金銀行東京支店、川崎第百銀行本店。第一銀行本店。三菱銀行本店

富士電力株式會社

丸ノ内仲八號館

丸ノ内(23) 九九六
九九七

營業種目

電燈電力の販賣

創立年月日

昭和二年五月廿六日

公稱資本金

二千五百萬圓

拂込資本金

六百廿五萬圓

累年ノ配當

二年・八〇

沿 革

富士瓦斯紡績株式會社の電氣事業を分離して一個の獨立たる會社になりたるものなり。

現在の主腦者

取締役會長 志村 源太郎 專務取締役 鹿 村 美 久

常務取締役 素 木 晃 治 取 締 役 男 爵 森 村 開 作

同 日 比 谷 新 次 郎 同 工 學 博 士 持 田 巽

同 鼓 城 嘉 津 馬 同 監 査 役 伊 藤 要 藏

同 川 崎 榮 助 同 小 倉 清

關係會社

富士瓦斯紡績株式會社

重ナル株主

富士紡

南滿洲太興合名會社

丸ノ内仲七號

丸ノ内(23) 一八〇〇

營業種目

滿蒙開拓及鑛山、並鐵道運輸業

創立年月日 大正四年九月廿三日

公稱資本金 五十萬圓

拂込資本金 五十萬圓

現在ノ主腦者 社長 飯田延太郎

關係會社 圖們鐵道株式會社

軍ナル株主 飯田延太郎

取引銀行 朝鮮銀行

圖們鐵道株式會社

總町區有樂町一ノ一 丸ノ内(21)一八〇〇

營業種目 鐵道運輸業

創立年月日 大正十年三月三十一日

公稱資本金 三百六十萬圓

拂込資本金 全額済

累年ノ配當 年八分

沿革 朝鮮圖們江沿岸會寧起點、潼關鎮間三十六哩の鐵道。

現在の主腦者 社長 飯田延太郎

資本系統並ニ其變遷 最初南滿洲太興合名會社に於いて事業經營に關りたるも大正十年一個獨立の會社となりたり。

關係會社 南滿洲太興合名會社

業績並に現況 最近二年間、當社が八分の配當を得るに至つたことは、總督府の補助金を受けずに行つたことであり、即ち當社の事業經營が益々發展しつゝあることの證明である。

取引銀行 若尾銀行

小澤羊毛研究所

丸ノ内 有樂町一ノ一 三菱仲六號館六號三階

丸ノ内 三六六三

營業種目 羊毛工業ニ關スル試驗、調査、鑑定。

創立年月日 昭和二年九月十四日

創立者ト其功勞者 創立者 小澤信次郎

現在ノ主腦者 所長 小澤信次郎

資本系統並ニ其變遷 個人經營

旭電化工業株式會社

丸ノ内仲四號館

丸ノ内代表三一九一

營業種目

工業藥品、石鹼原料、油脂原料、農業藥品、石鹼。

創立年月日

大正六年一月

公稱資本金

二、〇〇〇、〇〇〇

拂込資本金

二、〇〇〇、〇〇〇

累年ノ配當

一割

沿革

本社は大正六年一月古河系の資本と舊桂川電力系の資本との共同事業として資本金一百萬圓を以て設立せられ、城北尾久の地に曹達工場を創立す、越へて七年倍額増資を計り硬化油工場の設立を始め同八年四月より製品を市場に出せり、製品たる苛性曹達も硬化油も共に重要石鹼原料たるにより石鹼工場の設立を計畫し大正九年一月より製造を開始せり、其他曹達部副品たる水素とにより純良なる鹽酸の合成を發明し専ら鹽種孵化用として斯界に軍用せらる、又油脂部副生物より農業藥劑配合用の農藝石鹼を發明し、果樹蔬菜の大生産地には不可缺のものとなれり、

かく農家との關係日に密となれるにより關係會社たる古河電氣工業會社が足尾の副産物たる

亞硫酸の利用工業として苦心創製せる硫酸鉛外農業藥劑の製造を大正十四年六月包括的に讓受け爾後其製造販賣に従事す。

現在ノ主腦者

取締役社長 鈴木 本市之助 支 配 人 磯部 倫一郎

營業係長 小池 一郎 經理係長 福島 正雄

業績並ニ現況

最近曹達部及油脂部工場の五割増設を完成し生産量激増し爲めに一層生産費の低下を計り良品廉賣主義に邁進しつゝあり、従つて最近一割配當を持続しつゝ尙ほ相當の餘裕を得る模様なり。

取引銀行

古河銀行、三井銀行丸ノ内支店、第一銀行丸ノ内支店、川崎銀行丸ノ内支店、山口銀行丸ノ内支店、加島銀行東京支店。

本澤商會

丸ノ内三菱廿一號五階

丸ノ内(23)一六七三
三九五六

營業種目

鐵道用品、機械金物類

創立年月日

大正八年十月十九日

現在ノ主腦者

店主 本澤 注連松

支配人 野口 賢

大洋漁業合資會社

丸ノ内仲八號館三階

丸ノ内(23)一七六四

營業種目

カムチャツカに於ける工船繕詰、及其他一般の漁業

創立年月日

昭和二年五月廿七日

公稱資本金

五十萬圓

拂込資本金

全額済

現在ノ主腦者

平出喜三郎 高松喜六 飯田隆平

沿 革

日露漁業の前途には憂慮すべきものがある。そこに鑑み何のしよる害もなきカムチャツカに日本漁業の新天地を開かんとして當社は創立されたものである。

八田熙事務所

丸ノ内昭和ビル四階

丸ノ内 三九一〇

營業種目

應控事務

創立年月日

昭和二年七月

現在ノ主腦者

八 田 熙

内外物産株式會社

丸ノ内昭和ビル三階

丸ノ内 四六六八

營業種目

山林伐採業、木材食糧品類販賣

創立年月日

明治二十七年三月

公稱資本金

二十萬圓

拂込資本金

全額

積立金

五萬圓

累年ノ配當

最近八歩位

創立者ト其功勞者

茨木縣代議士故千波兵吾氏の設立にして大正十年三月より北川氏之を引継ぎ本日に至る。

現在ノ主腦者

北川作喜次郎一族

資本系統並ニ其變遷

府下岩淵町稻付故伊藤安之助氏より不動産の提供を受け五六萬の融通資本金を有す

重ナル株主

北川作喜次郎

業績並ニ現況

深川に木材營業所あり、千葉縣久多里町郡分林拂下面積百町歩松材尺メ總數十五萬尺を有し豫想純益四五十萬を算す

取引銀行

野村銀行 山口銀行

國際運輸株式會社東京出張所

麹町區永樂町一ノ一
郵船ビル六階

丸ノ内一〇三五

營業種目

陸運、海運及海陸聯絡運送、船營業、倉庫營業、代辦及保證行爲、努力請負運送ニ關スル資

金ノ供給

創立年月日

大正十五年八月一日

公稱資本金

一千萬圓

拂込資本金

三百四十萬圓

積立金

二萬八千圓

累年ノ配當

八分 一割

創立者ト其功勞者

小日山直登、平田驥一郎、岩倉具光、是松盈進、吉村英吉、剛崎虎雄、村田懸鷹、塚本貞次郎
小日山直登氏、平田驥一郎氏創立者として其功著しきものあり

現在ノ主腦者

專務取締役	黒田誠	常務取締役	平田驥一郎
取締役	岩倉具光		是松盈進
	吉村英吉		剛崎虎雄
	村田懸鷹		塚本貞次郎

各部各課主任

本社庶務課長	横川安三郎	計理課長	田島正治
營業課長	吉村英吉	審査課長	石井俊平
東京出張所長	瓜生有		

資本系統並ニ其變遷

當社創立前より堅實なる發達を遂げつゝありし國際運送並に明治運送兩株式會社の支社管
内即滿洲、支那、朝鮮、臺灣及沿海州に於ける營業其他一切を繼承し大正十五年八月十五日
より營業を開始したのです

而して國際運送は當社創立數年前より日本内地及朝鮮で活躍して居りましたが更に獨を唱へ
て居りました山口運輸及沿海州の浦汐運輸、長春の長春運輸、哈爾濱の哈爾濱倉庫、北滿倉
庫を合併し其他朝鮮滿洲各地の同業者をも糾合し一方上海、青島、天津其他支那沿岸及奥地
にも店舗を構へ取引店取次店を設けつゝいて臺灣にも足を伸べて居りましたので當社創立前
既に運送網は各地に張られて居つたのです

關係會社

大連汽船株式會社、國際通運株式會社、一ノ瀬回漕店(株式會社)

重ナル株主

岩倉具光、吉村英吉、塚本貞次郎、村田懸鷹、是松盈進、小日山直登、平田驥一郎、國際通

運株式會社

業績並ニ現況

本社 大連

支店所在地 大連、營口、奉天、四平街、長春、哈爾濱、上海、釜山、大邱、京城、平壤、元山、清津、浦沙
出張所 鐵嶺、關東、龍井村、天津、青島、神戶、東京、新義州、咸興、會寧、雄基、臺北
營業所 城子驢、沙汰鎮、西豐、通遼、洮南、泰來、下九臺、松花江、榆樹、伯都訥、雙城堡、傳家
甸、滿溝、安達、昂昂溪、一面坡、局子街、草梁、城津、下三峯、瀋陽鎮、基隆、高雄

栗本鐵工所

麴町區永樂町一ノ一九ビル三階

丸ノ内 七八一

營業種目

水道、瓦斯、其他用鑄鐵品類及附屬品

創立年月日

明治三十九年六月

公稱資本金

三百萬圓

沿革

本所は鑄鐵管製作専門工場にして舊名紀野吉鑄作所と稱し明治三十九年六月大阪市紀野吉三郎の創設に係り明治四十二年二月組織を變更して合資會社紀野吉鐵工所と稱す代表社員栗本勇之助經營の下に終始技術の研究と施設の改善を怠らず大に業務の發展を圖り全國各水道瓦斯會社は勿論支那、朝鮮、臺灣方面に製品を供給せり大正三年五月二十七日更に商號を合資會社栗本鐵工所と改稱す、而して歐洲大戰後水道事業の勃興に伴ひ鑄鐵管の需要喚起せられ註文輻輳の爲め工場増築其他諸般の設備を改善して大に生産力の増加を圖れり然るに最近大

都市計劃の企圖に伴ひ本所も亦之れが施設に應ずる爲め大正十年五月年産額一萬噸の製造能力を有する大管工場新築竣工し最大内徑六十吋までの直管鑄造設備を完成して大に面目を一新せり

現在一ヶ年生産能力優に四萬噸以上に達し殊に鑄鐵管は品質優秀にして外國品を凌駕し本邦市場より之を驅逐するに至りたり蓋し本所が多年拮据經營事業の發達に貢献せる賜にして本所が鑄鐵管専門工場として多大の賞讃と好評を博せる所以なり

現在ノ主腦者

所主 栗本勇之助 代表社員 加納川俊一

支配人 前島孫七

營業部長 中村健吾 技師長 高梨憲治

東北出張所長 竹中勇

關東水電株式會社東京出張所

丸ノ内仲十三號館

丸ノ内二九七九

營業種目

電氣化學工業品製造販賣

創立年月日

大正八年六月

公稱資本金

一一、〇〇〇、〇〇〇圓

拂込資本金 六、〇〇〇、〇〇〇
累年ノ配當 年五分

沿革

當會社は荒川上流の水流を利用する目的を以て、大正八年資本金三百萬圓を以て創立せられ、大正十二年一月第二關東水電株式會社を合併し、資本金一千二百萬圓に増加すると同時に福島群馬兩縣管内に在る只見川上流尾瀬沼の水力（出力約十萬キロ）發電計畫に着手することとなり。當會社は三井系統の事業にして總株二十四萬株の内十三萬三千株を三井合名會社及び傍係の電氣化學工業株式會社に於て所有す

設立發起人

馬越 恭平 大橋 新太郎 藤原 銀次郎
值村 澄三郎 太田 黒重五郎 藤山 常一
配井 匡 高橋 熊次 星野 義四郎
高橋 光藏 福島 勘三郎 秋野 沈
佐藤 秀松 佐藤 鍋次郎

現任ノ主腦者

取締役會長 大橋 新太郎 専務取締役 永田 隼之助
重ナル株主 三井合名會社 三菱合資會社

業績並ニ現況

埼玉縣秩父郡大嵐村栃本發電所 荒川水系 昭和二年九月完成し同縣同郡影森村に設置したる工場に於て昭和二年十二月より石炭窒素及カーバイトの製造を開始したり
取引銀行 三井銀行及三菱銀行 昭和銀行

朝鮮殖産銀行

京城府南大門通二丁目

營業種目

銀行

創立年月日

大正七年十月一日

公稱資本金

三千萬圓

拂込資本金

一千五百萬圓

配當率

上	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	二十年
下	・八〇	・九〇	・九〇	・九〇	・九〇	・九〇	・八〇

沿革

當銀行は朝鮮所在の農工銀行を合併すると同時に不動産金融を更に疏通する爲に資本金一千萬圓を以て創立せられ總株二十萬株の内六萬三千餘株は舊農工銀行株式に割當て殘餘は公募す。次で大正九年二月資本金三千萬圓に増資し、新株四十萬株の内三十八萬六千餘株は政府以外の株主に對し一株に付二株を割當て三千百餘株を功勞株とす。當銀行は拂込株金の十五倍まで債券を發行するの特權を有し不動産金融の外普通銀行及び貯蓄銀行の業務をも營む。

現在ノ主腦者

重役頭取

有賀光豐

理

事森悟一

矢鍋永三郎

高久敏男

朴泳孝

監查役

廣瀬滿正

尹德榮

東京出張所事務所

丸ビル三一二區

主任 渡邊彌幸

丸ノ内 二二八八 二二八〇 二二八九

安倍商店

麴町區永樂町一ノ一丸ビル二階

丸ノ内 四六九一

營業種目

織地ネクタイ製造販賣、人絹糸應用編ネクタイ、洋品雜貨小賣

創立年月日

大正十三年三月三十一日

沿革

大正十三年府下日暮里町に於て一般ネクタイの製造卸を開業し同十五年四月丸ビルに營業所を移轉と共に絹編襟卷の製造卸も加へ新奇に洋品雜貨の小賣部を設け現在に至る

現在ノ主腦者

店主 安倍任密

取引銀行

川崎第百銀行三ノ輪支店 第一銀行丸ノ内支店 山口銀行丸ノ内支店

大北火災海上運送保險株式會社

麴町區永樂町一ノ一 郵船ビル七階

丸ノ内 三四八一、三四八二、三四八三

營業種目

火災保險、運送保險、海上保險

創立年月日

大正九年三月

公稱資本金

四百萬圓

拂込資本金

一百萬圓

現在ノ主腦者

取締役社長 中野金次郎 常務取締役 松崎時勉

取締役 男爵 中島久萬吉 同 山崎清

同 岩倉具光 同 吉村佐平

取締役兼支配人 官林伊勢吉 監查役 小林清一郎

同 小幡鐵介

支店出張所 本年度末に於ける支店及出張所の所在地左の如し

小樽支店 小樽市色内町六ノ四十

大阪支店 大阪市東區北久太郎町三ノ三八

神戸支店 神戸市神戸榮町通七ノ二六屋敷

- 九州支店 福岡市天神町九五
- 仙臺支店 仙臺市國分町十四
- 名古屋支店 名古屋市中區矢場町五ノ切五四
- 横濱支店 横濱市中區太田町二ノ四十
- 京都出張所 京都市下京區河原町通四條下ル稻荷町三一六
- 京城出張所 京城府南大門通五ノ一

業績並ニ現況

當期間に於ける經濟界は尙依然として頽勢の狀にあり而かも休銀續出の如き未曾有の恐慌を招來したる等業界に及ぼせる影響も亦甚大なりし

一方火災事故の各地に頻出するあり加ふるに同業者間に昭和會の設立せらるゝと共に約一割の料率低減を行ひ大に共存共榮の實を擧ぐるに務めたるに不拘猶劇甚なる競争各地に行はれて經營上甚容易ならざるものあり當社は此間に處するに常に内容の整理と經費の節約に力むると同時に業務の刷新を計り専ら収益増進の途を講じたりしも猶成績の豫期に添はざるものありしは誠に遺憾とする所なり

然れども我社は當期末に至り日本火災保險株式會社と事業上密接なる提携を爲し又我姉妹會社たる國際通運株式會社に於ては今や全國的に大合同殆んど完成し運送網限なく敷かれたる

を以て當社は之に順應するの方策を樹て廣く此兩者を背景として地盤の開拓に務め銳意社業の振興を圖りつゝあるを以て今後財界の安定に従ひ一般景氣の恢復と相俟て業績の見る可きものあるを所期するものなり

藤田合名會社

丸ノ内郵船ビル七階 丸ノ内 二八六一、二八八〇

營業種目 直輸出入商

創立年月日 大正十二年七月

公稱資本金 三十萬圓

拂込資本金 三十萬圓

現在ノ主腦者 藤田輝雄 藤田慶雄

カール、ツアース株式會社

丸ノ内 三〇〇六五
日本郵船ビル七階 三〇〇六六

營業種目 光學的學術器械(顯微鏡、望遠鏡、双眼鏡、測量器械、寫真器其他)照明燈輸入販賣

創立年月日 昭和二年九月廿九日

公稱資本金 二十萬圓

拂込資本金

二十萬圓

現在ノ主腦者

取 締 役 アルフレツド・シマーダー

同

ヘルマン・クー

取引銀行

三菱銀行丸ノ内第二支店 住友銀行丸ノ内支店

關東水力電氣株式會社

丸ノ内海上ビル

丸ノ内 二六六九
三九四六

營業種目

水力を利用して電氣を發生せしめ一般の需用に應じて電力の供給販賣を爲すを目的とす

創立年月日

大正八年

公稱資本金

一千七百萬圓

累年ノ配當

建設配當年五分

現在の主腦者

取締役社長 淺野總一郎 常務取締役 淺野 八郎

同 野 村 孝 同 山崎 林太郎

取 締 役 下村善右工門 同 白石元治郎

同 淺野泰治郎 同 淺野 良三

同 中野寅次郎 同 廣 瀨 爲久

監 査 役 木暮松三郎 同 金子喜代太

同 利 光 學 一 同 鈴木紋次郎

相 談 役 利 光 鶴 松

業績並ニ現況

今期間取水口の堰堤、取入口及筏道の混凝土工事は全く之を完成せしめ得たり唯僅かに魚梯工事の一部が未落成なるも既に沈砂池の溢水装置及其の土砂吐路を完成せしめ周壁亦大半混凝土工事を了す次に隧道は其の總延長約六千三百間の處今期末に於て全堀進延長五千餘間に達し其の大半は既に混凝土卷を了る因に本期間中に於て第三號隧道工事を完成し第六號及第八號隧道は之を貫徹せしめ更に調整池堰堤工事も既に過半之を完成せしめ水壓鐵管一部其の掘付を了し得たり其他「サージタンク」及發電所の各基礎工事も何れも豫定の工程を進捗せしめ得たり

神戸製鋼所東京出張所

丸ノ内海上ビル六階

丸ノ内 三九二九、七九三
七九二

營業種目

鑄鋼品、鍛鋼品一切、諸機械兵器類、工具類、伸銅製品、造船、電氣用諸機械、クレーン類、セメント製造及鑛山用諸機械類製造、

創立年月日

明治三十八年九月

公稱資本金

二千萬圓

異年ノ配當

毎年一割

沿革

明治三十八年九月創立資本金百四十萬圓なりしを大正七年九月一千萬圓に更に大正十年二月二千萬圓に増資せり。此間大正六年には門司伸銅工場を設置し、大正十年二月播磨造船工場鳥羽造船工場を合併したり。尙分身會社として大正十四年三月日本エアブレーキ株式會社及同年五月紡織機製造株式會社を本社工場内に設置せり。
東京出張所は明治四十三年に開始したり。

現在ノ主腦者

取締役社長 永安晋次郎 專務取締役 田宮嘉右衛門

常務取締役 松尾忠二郎 取締役 三上英果

森本準一 遠藤壽一

前田忠 監査役 曾我祐邦

平田保三 東京出張所 遠藤壽一

主任 吉田正助

分工場

播磨造船工場 戸羽電機製作所 門司伸銅工場

出張所

東京 大阪 名古屋 吳 横須賀 大連

二宮商店石材部

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内 二七七二

營業種目

大理石 礦業

創立年月日

昭和元年十二月

沿革

岡山縣本郷村に於いて良質なる大理石の産出をみ、その事業を續けたる人が經營難に陥り窮狀を二宮商店主に訴へられた結果こゝに二宮商店石材部の創設を見たるものなり

現在ノ主腦者

主人 二宮泰三 東京營業部 池田繁

本年度の既成事業としては本郷區役所三宅やす子女史邸、芝義太郎氏邸等あり。現在の事業としては大阪の阪急ビル、西宮圖書館、西宮出張所等日に隆盛を極めつゝあるなり

日本榮養協會

丸ノ内昭和ビル五階

丸ノ内一八一九

目的

營養食物に依つて兒童の保健並に國民體質に關する改善

現在ノ主腦者

會長 醫學博士 佐伯矩 理事 長岡崎榮松

一、日本榮養協會の沿革 本協會の前身即ち東京市社會局兒童榮養食供給部に於ては震災直後大正十二年十二月

より大正十四年六月迄葉平、芝浦、豊岸、猿江、菊川、三笠、太平、玉姫、萬年、鮫橋小島

校旭町分校、萬年小學校龍泉寺分校、同寛永寺分校等の小學校及上野(櫻風會本願寺)松倉町(基督教産業青年會)築地(本願寺)、龜澤町(本願寺)、増上寺、養育會、富川町、青山外苑、九段、深川公園、被服廠跡、江東橋、玉姫、龍泉寺、月島、新宿御苑内等の各託児所の兒童約四千名に對し毎日晝食に無料にて榮養食の供給をなし總延人員百五十萬人に達せり而して之が成績を調査せるを見るに大正十二年度末に於ける前記學校の榮養丙なる虚弱兒童二三%を示せるに給食開始後大正十三年度末に於ては各校共に大にその數を減じ僅に四%に減少せり(東京市調査)大正十四年六月二十三日東京市より右事業の一切を本協會に委譲せられたるを以て本協會は榮養物により兒童の保健並に國民體力の向上を圖る爲め國立榮養研究所の研究と相俟つて左記事業の完成を期すべく各方面に向つて力を致しつゝあり。

二、事業

- 1 貧困兒童無料榮養食供給
- 2 一般兒童の實費榮養食供給
- 3 工場労働者其他各種團體の實費榮養食の供給
- 4 榮養教育の普及榮養相談榮養の宣傳及本邦食料問題に關する調査研究
- 5 榮養加工食品實費分讓榮養献立の發表及材料の實費供給
- 6 榮養食を主としたる林間及臨海學校の經營等

7 榮養食供給従業員の養成其他

株式川崎第百銀行丸之内支店

丸之内郵便ビル

丸之内

一三八一、一三八二
長一三八三

創立年月日

明治十一年八月

公稱資本金

三三、九八八、五〇〇圓

拂込資本金

二二、〇七二、〇〇〇圓

積立金

四、三五四、〇〇〇圓

現在ノ主腦者

支店長 佐藤 五郎

支店長代理 生島 俊二

株式會社川崎第百銀行第九十五期營業報告書

(昭和二年下半年)

貸借對照表

負債之部

一 資 本 金	三三、九八八、五〇〇・〇〇〇
一 法 定 積 立 金	三、八五〇、〇〇〇・〇〇〇
一 諸 預 金	三〇七、六七五、七二七・七八八
一 仕 拂 送 金 手 形	三五一、五一八・九三〇

一賣渡 外國爲替	一、九七四、五二六・四二〇
一他店 ヨリ借	八、五四四、五九八・〇六〇
一仕 拂 承 諾	七、〇六七、二一六・七三〇
一借 入 金	二二、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
一未 拂 配 當 金	八、四一八・二八〇
一未拂利息及未經過割引料	三、二一八、八九二・五一〇
一當 期 利 益 金	一、三七七、〇三八・〇三〇
合 計	三九〇、五五六、四三六・七四八
資 産 之 部	
一拂込未済資本金	一〇、九一六、五〇〇・〇〇〇
一證書貸付及當座預金貸越	三四、三一〇、三七九・七四〇
一手形貸付、割引手形及荷付爲替手形	二二二、七七一、四二五・五九〇
一預ケ金及コールローン	一、一四七、四五一・五七九
一國債其他有價證券	五二、〇六一、一七六・四二〇
一買入外國爲替及利付爲替手形	五、八八二、六〇七・五四〇

一他 店 へ 貸	六、一三二、八四六・〇三〇
一仕拂承諾見返	七、〇六七、二一六・七三〇
一地 金 銀	一、一一五・八一〇
一營業用土地建物什器	一〇、六〇一、五二〇・四一〇
一所有動産不動産	六、二〇九、八一〇・一九〇
一假 拂 金	五八四、四三八・九一〇
一現 金 有 高	四二、八六九、九四七・七九九
合 計	三九〇、五五六、四三六・七四八

利益金勘定

一當 期 純 益 金	一、三七七、〇三八・〇三〇
之ヲ處分スルコト左ノ如シ	
一法 定 積 立 金	二五〇、〇〇〇・〇〇〇
一別 段 積 立 金	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇
一重 役 賞 與 金	六五、〇〇〇・〇〇〇
一行員退職慰勞基金	五〇、〇〇〇・〇〇〇

一 株主配當金(年七分ノ割) 八〇七、五二〇〇〇〇
一 後期繰越金 一〇四、五一八・〇三〇

諸 預 り 金

前期繰越高 當期預り高 當期拂戻高 當期末現在高

公 金 預 金 〇 二二九、八五七、九八五 一五、三九二、九六〇 七四、四六五、〇三五

當 座 預 金 四九、九五一、〇九四、八三三 一、四五九、四三七、〇六一、三七〇 一、四三三、四七三、二五七、八〇八 八六、九〇四、八九八、三九四

特別當座預金 二七、九九四、九〇八、三八九 一六三、七八〇、二二〇、二三三 一四五、四八三、五二二、〇二五 四、二九一、〇六六、五〇七

通知預金 三〇、二九八、四二二、一四三 一一〇、八七四、〇六九、七七〇 九四、七〇四、四八五、八六〇 五、四六七、九九六、〇五〇

定期預金 一〇三、二〇八、二二〇、二二三 一四六、〇五九、四六九、三五〇 一一一、六七四、五九五、四四〇 一三六、五九三、一〇四、〇三三

別段預金 〇 三、四八九、二九四、三六〇 三、一四一、六六六、五八〇 一、三四三、六五七、七八〇

計 三〇〇、四五三、六四五、四九三 一、九三三、八五九、九六二、九六八 一、七九六、六三六、八八〇、六七三 三〇七、六七五、七七七、七八八

諸 貸 金

前期繰越高 當期貨出高 當期返済高及銷却高 當期末現在高

證 書 貸 付 七、六六三、〇三三、一五〇 四、五七三、二二七、七二〇 二、九四八、九二七、四四〇 九、二八七、三三三、四二〇

手形貸付 一一九、八七四、二九九、七九〇 四六二、三三三、七〇三、〇〇〇 四〇六、三七〇、三六九、八九〇 一七五、七七六、六二〇、二二〇

當 座 貸 越 二五、六五五、六七五、一八〇 三九一、五三二、〇五二、八四〇 二九〇、二〇四、五七二、七〇〇 二五、〇三三、一五六、三三〇

コ ー ル ロ ー ン 三、四四〇、〇〇〇、〇〇〇 一〇一、一四〇、〇〇〇、〇〇〇 一〇四、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇 六〇〇、〇〇〇、〇〇〇

計 一五四、六五二、九八八、二二〇 九五四、五三七、九三〇、八五〇 九〇三、五三四、八六九、〇三〇 二二〇、六四六、九九九、九九〇

割 引 手 形

前期繰越高 當期割引高 當期決済高及銷却高 當期末現在高

割 引 手 形 一九、六三七、三六六、九七〇 二二五、八七二、〇五九、五九〇 九九、六五二、一八七、六七〇 三、八五六、一〇八、八九〇

荷 付 爲 替 手 形

前期繰越高 當期取組高 當期取立高 當期末現在高

荷 付 爲 替 手 形 八四六、七九一、〇四〇 一五、九七六、三四一、一八〇 一五、六四四、三三八、七三〇 一、一七八、六九六、五〇〇

買 入 外 國 爲 替

前期繰越高 當期買入高 當期取立高 當期末現在高

買 入 外 國 爲 替 一三四、五三三、二八〇 一八、一五三、〇〇〇、八六〇 一四、九〇六、四〇七、四四〇 三、五五〇、一七九、七七〇

利 付 爲 替 手 形

當期取組高 當期取立高 當期末現在高

利 付 爲 替 手 形 九、七八〇、五三三、六〇〇 七、二六八、二二二、八三〇 二、五二二、四二一、七七〇

賣渡外國爲替

前期繰越高	當期賣渡高	當期決済高	當期末現在高
一三四、五三、二八〇	九、八三、三四三、七九〇	七、六六、三三八、六五〇	一、九七、四五六、四〇〇

預ケ金

前期繰越高	當期預ケ入高	當期引出高	當期末現在高
五三〇、七三、五九九	九四三、八〇五、八七、七六八	九四三、七六、六四九、七三八	五四四、四五一、五七九

現金勘定

前期繰越高	當期入金高	當期出金高	當期末現在高
三、九三、〇六三、四四四	七、八六、九八八、七三、二九九	七、八四、〇六〇、九七、八〇四	四三、八六九、四七、七九九

頭取	星 塾	章
常務取締役	關 根	善 作
同	河 合	鐵 二
同	吉 田	良 三
取締役	川 崎	隆

本店

東京市日本橋區萬町

支店所在地

日本橋支店	東京市日本橋區通三丁目
富澤町支店	同 富澤町
通旅籠町支店	同 通旅籠町
京橋支店	同 京橋區銀座一丁目
櫻橋支店	同 南八丁堀二丁目
銀座支店	同 出雲町
麴町支店	同 麴町區五丁目
丸ノ内支店	同 麴町區永樂町郵船ビル内
有樂町支店	同 有樂町一丁目仲八號館

同	原 邦 造
同	渡 邊 眞 平
常任監査役	高 梨 博 司
監査役	小 倉 清 男

番町支店	同	同	三番町
四谷支店	同	同	四谷區忍町
新宿支店	同	同	新宿三丁目
牛込支店	同	同	牛込區榎町
神樂坂支店	同	同	神樂坂三丁目
小石川支店	同	同	小石川區小日向水道町
神田支店	同	同	神田區松住町
和泉橋通支店	同	同	和泉町
柳原支店	同	同	柳原川岸
下谷支店	同	同	下谷區西黒門町
上野支店	同	同	仲御徒町三丁目
淺草支店	同	同	淺草區田原町三丁目
吾妻橋支店	同	同	花川戸町
千束町支店	同	同	千束町
茅町支店	同	同	茅町二丁目

本所支店	同	同	本所區相生町五丁目
押上支店	同	同	押上町
永倉町支店	同	同	永倉町
向島支店	同	同	向島須崎町
芝支店	同	同	芝區四久保櫻川町
金杉支店	同	同	金杉三丁目
六本木支店	同	同	麻布區三河臺町
王子支店	同	同	東京府王子町字柳田
大塚支店	同	同	西巢鴨町字宮仲
小山支店	同	同	荏原町大字小山
大井支店	同	同	大井町三五〇一
大森支店	同	同	入新井町字不入斗
八王子支店	同	同	八王子市八日町
橫濱支店	同	同	橫濱市中區本町四丁目
辨天通支店	同	同	辨天通五丁目

川崎支店 川崎市砂子町一丁目
 京都支店 京都市下京區烏丸通錦小路角
 西陣支店 同 上京區今出川通大宮東入
 二條支店 同 寺町通二條角
 三條支店 同 下京區三條通堀川角
 四條支店 同 同 四條通り東洞院東へ入
 五條支店 同 同 五條通大橋東入
 出町支店 同 上京區出町通今出川上ル
 伏見支店 京都府伏見町
 稻荷支店 同 深草町
 大阪支店 大阪市東區本町三丁目
 備後町支店 同 同 備後町
 大阪西支店 同西區新町南通四丁目
 九條支店 同 同 九條中通一丁目
 堺支店 堺市大町

神戸支店 神戸市榮町通三丁目
 兵庫支店 同 兵庫水不通一丁目
 鳥取支店 鳥取市元魚町一丁目
 越ヶ谷支店 埼玉縣越ヶ谷町
 千葉支店 千葉市千葉本町
 銚子支店 同銚子町
 佐原支店 同 佐原町
 佐倉支店 同 佐倉町
 松戸支店 同 松戸町
 船橋支店 同 船橋町
 水戸支店 水戸市上市泉町
 石岡支店 茨城縣石岡町
 青山、四谷、三輪、廣島、岡山(三)、徳山、福山

社団法人 日本工業俱樂部

總町區永樂町二ノ一

丸ノ内一五四六

目的
設立趣意書

本社團は工業家の連絡を鞏固にし斯業の發展を圖ることを目的とする公益法人とす
 方今吾邦各種の工業は歐洲大戰の影響を受け、燦然として一大盛觀を呈し、既設の事業は益々其基礎を鞏固にし、新創の事業亦甚だ多く、此後の隆運更に大にし刮目して觀るべきものあらんとす。然るに各事業の間、交互連絡の便を闕き、相倚り相助け斯界共同の發展を期圖する上に於て、猶遺憾あるを免れず。殊に學問の純理と、技術の實際とを調和せしめ、諸般の工業に共通する所の利害を講究し、同業者互に其弊を除き交も其利を進むるの方法を立つるは、即今最も之れが切要を感じる所なりと雖、我が工業界の現状、未だ此種の有力なる研究機關を存せず、且今や國際上、諸多の關係益々頻繁ならんとする秋に當り内外實業家の交際を親密にし、彼我の事情を疏通し、工業家としても所謂國民外交の一端を行ひ、當局間接の援助たる所以の道を必要とするは、識者の共に認むる所ならずんばあらず。

吾等時局に對し、茲に感ずる所あり、工業家の連絡を鞏固にし、斯業の發展を圖ることを目的とする公益法人を組織し、此目的を達すべき方法として、主として工業に關する諸種の問題を調査し、工業に關する知識の完備普及を圖ると同時に、努めて之れが研究發明を奨励し、更に會館を建設して、會員相互の親睦と其知識の交換とを計り、各般集會の用を辨じ、併せて外賓接待の便に供し、猶會員各自の爲に事業上の調査研究に資する所あらしめんと欲す。

本社團は工業家の連絡を鞏固にし斯業の發展を圖ることを目的とする公益法人とす

本社團の目的を達する爲施行する要項

- 一、工業に關する諸種の問題を調査研究し有益と認むる事項は之を公表すること
- 二、工業に關する功勞者及發明家を表彰し工業奨励に努むること
- 三、内外の名士を招待して講演會を開催し工業に關する知識の普及を圖ること
- 四、會館を建設し左の目的に使用すること
 - イ、會員の集會懇親の便に供すること
 - ロ、會員たる法人の株主總會又は其他の集會の用に供すること
 - ハ、工業に關する學會協會等の用に供すること
 - ニ、圖書室を設け工業に關する圖書雜誌統計資料等を蒐集すること
- 五、其他工業發展に必要と認むる事項

現在の主腦者

理事 長 國 琢 磨 事務理事 大橋新太郎

男 爵 中島久萬吉 男 爵 郷 誠之助

木村久壽彌太 理 事 磯村豊太郎

井 坂 孝 大川平三郎

門野重九郎 内藤久寛

藤山雷太 福澤桃介

喜多又藏 宮島清次郎

白石元治郎 伊藤米治郎

服部金太郎 若尾璋八

根津嘉一郎 山本梯二郎

藤原銀次郎 有賀長文

結城豊太郎 三谷一二

諸井恒平 庶務課長 中村元登

各部各課主任

主 事 膳 桂之助 調査課長 森田良雄

獨逸加里シンドケート日本農業部

本 部 神戶市仲町十五ビルヂング四階九號室 丸ノ内二七三八

關西支部

獨逸加里鹽の農業上ニ於ケル學術的研究、試験及ビ宣傳

營業種目

大正二年五月

創立年月日

大正二年五月

沿 革

大正二年五月府下瀧野川西ヶ原に加里肥料試験地を設置し加里鹽の各種土壤並に農作物に對する肥效に關する試験研究を行ひ其成績を發表し以て加里鹽の堅實なる普及に計りたるも歐洲大戰後は或る事情の爲め試験地を廢止し専ら本部監督の下に各地方に加里肥效試験の委託をなし其成績に基き本部の業務を遂行しつゝあり

現在ノ主腦者

部長 農學博士 小林房次郎 試験部顧問農博 遠山祐三

試験部長 技師 門田龜一 外國通信係長 古谷辨三

關西支部長 關根徳吾

業績並ニ現況

殖に資せんとす

一、本部は學術的に加里肥料の効果を各種土壤と作物とに就きて研究し以て本邦農産の増殖に資せんとす
二、本部は加里肥料に關する從來の試験成績を蒐集して之れが比較研究をなし以て合理的

施肥法の普及を計らんとす

一一九

- 三、本部は適當なる時期適當なる場所に於て肥料及土壤に關する講演會を公開することあるは勿論業務に差支なき限り一般組合若くは公共團體の請求講演に應ずるものとす
- 四、本部は肥料思想の普及を圖らんが爲め汎く當事者の質疑に應じ以て肥料殊に加里肥料の配合並に施用法に就きて詳細なる解答をなすものとす
- 五、本部は本邦肥料界に貢獻せんが爲め加里肥料に關する調査報告を印刷し以て希望者に無代贈呈するものとす

獨逸硫酸加里の略歴及び解説

一、獨逸加里肥料の沿革大要

獨逸加里礦業の嚆矢は遠く西歷十三世紀の初期なりと雖も、一般識者の注目を引くに至りしは十八世紀の末紀プロシヤ政府が該加里礦山を買収せし時に始まる、されども當時其の目的とする所は、單に岩鹽を採掘して來だ加里の眞の利用用途を知らざりしも、一九世紀の中葉領事リービツヒ博士の植物營養學說の發表に依りて、加里の植物必須の成分なる事分明し、茲に從來廢棄鹽と稱せられ従らに棄却せられたる加里は重要なる肥料とし重用せらるゝに至れり

本邦に加里の初めて輸入せられたるは明治卅五年なれども獨逸加里シンヂケート日本農業部の設置せられたるは大正二年にして爾來、各種土壤及作物に對し研究の結果一般に其の肥效を認められ漸次隆益に向ひ最近一ケ年に約四萬噸内外の消費を觀るの盛況を呈するに至れり

二、獨逸加里鹽產出狀態

加里礦床は獨逸國の中部及北部地方一帶の低地の地下二千尺乃至五千尺に埋藏せらる。元來加里礦床は海水の蒸發乾固に依り折出堆積せるものにして、主要なる加里礦石は

- カーナリツト (鹽化加里、鹽化苦土)
- カイニツト (鹽化加里、硫酸苦土)
- シルビニツト (鹽化加里、鹽化曹達)
- キーゼサリツド (硫酸苦土)

等にして何れも層狀のを形成し岩鹽層を合して礦層の厚さは二千尺乃至三千尺に達し、其の埋藏面積は約二萬平方尺、其の埋藏量は概算二十億噸、實に世界唯一の加里寶庫にして全世界に於ける加里消費量の八割を供給す。即ち最近(一九二五年)に於ける產出額は加里鹽として千三百餘萬噸、純加里として百五十餘萬噸に及び、獨逸は勿論、米國、歐洲各國

一一九

を始め世界各國の農薬用(九一%)及工業用(九%)に供給せらる

三、獨逸産加里の精製と其の組織

主として「カーナリット」の粗粉末を溶解再結せしめ濃厚鹽化加里を造り、之に「キーゼリット」溶液を注加し、特許の方法により濃厚硫酸加里を精製せるものなるを以て、遊離硫酸の如きを全く含有せず

左に其の完全分析表を示せば次の如し

品名	成分	純品	普通品
硫酸加里		九七%二	九〇%六
水分		〇・七	二・二
不溶解物質		〇・二	〇・三
鹽化加里		〇・三	一・六
硫酸苦土		〇・七	二・七
鹽化苦土		〇・四	一・〇
硫酸石灰		〇・三	〇・四
鹽化曹達		〇・二	一・二

加里 (K₂O)

五二・七

四九・九

如斯獨逸硫酸加里は加里含量濃厚なるのみならず鹽素其他の作物生育上宜しからざる成分の含量極めて微量なり

四、獨逸産硫酸加里の特徴

水溶性加里含量は前記の如く四八パーセント以上及び五二パーセント内外にして容易に作物に吸収せられ、能く土壤に保蓄せらるる性、吸濕性ならざるを以て貯藏其他取扱に至便なるのみならず化學的反應全く中性なるを以て、如何なる農作物にも適應し又如何なる肥料と混合するも宜しく爲めに配合肥料の原料に好適なり。殊に獨逸産硫酸加里は他の加里肥料に比較し本邦土壤に最も適切なる肥料とす。

性質以上の如くなるを以て其の使用法も至つて簡單にして概して元肥に使用すべし、但し土壤の性質に依りては追肥とし分施するを可とす。次に加里の農作物の生育及品質に及ぼす影響の概略を述ぶるに其の收量を増加するは勿論品質を改善し、特に病虫害に對する抵抗力を激増せしむ。

日新興業株式會社

丸町區永樂町一ノ一
丸ビル四三〇

丸ノ内四〇一九

營業種目 電氣、土木、建築

創立年月日 大正十四年七月

公稱資本金 五十萬圓

拂込資本金 十二萬五千圓

沿革 水、火力發電所工事を主とす

現在ノ主腦者 桑原健治

栗屋剛元

重ナル株主 今井三吉

廣橋嘉七郎

取引銀行 武蔵野銀行

撫順炭販賣株式會社

丸町區永樂町一ノ一
丸ビル

丸ノ内一五七七ヨリ
一五七九マデ

營業種目 南滿洲鐵道株式會社の採掘又は生産する燃料金屬諸礦物等の販賣並に之に附帶する行務

創立年月日 大正十二年三月二十日

公稱資本金 三百萬圓

拂込資本金 百五十萬圓

積立金 三十五萬五千圓

累年ノ配當 年一割 前期一割二分ノ割

現在ノ主腦者 專務取締役 谷川善次郎 取締役兼支配人 中田金司

取締役 渡邊四郎 取締役 野村大藏

監査役 橋本戊子郎

各部各課主任 副支配人兼營業係主任 中條繁也 石炭係主任 江川忠一

銑鐵係主任 森規矩治 會計係主任 土岐豐一郎

庶務係主任 井原正

重ナル株主 南滿洲鐵道株式會社、三井物産株式會社、三菱商事株式會社

取引銀行 三井銀行 三菱銀行

小島印刷株式會社

丸町區永樂町一ノ一
丸ビル

丸ノ内三九三〇、三九三一

營業種目 プリキ印刷、製罐、紙平板印刷、三色版、活版、紙器製造、印刷押出しチューブ

創立年月日 明治三十三年創業(大正七年組織變更)

公稱資本金 一百萬圓

拂込資本金 七十五萬圓

積立金 十六萬七千圓

累年の配當 年一割

工場所在地 大崎工場 府下荏原郡品川町北品川小關六六四

大島工場 府下南葛飾郡大島町三ノ一四

大阪工場 大阪市浪速區馬淵町四五

現任ノ主腦者 社長 小島 長 藏 取締役 支配人 森 江 有 三

取締役 松崎 半 三郎 監査 役 保井 萬 次郎

資本系統並ニ其變遷 明治三十三年現社長小島長藏氏芝區神明町に於て鉄力印刷工場を開始す。蓋し本邦に於ける嚆矢たり

大正七年十二月組織を株式會社に變更す

大正九年豫て研究中なりし印刷押出しチューブの製造を開始し、以來其品質歐米製品を凌駕し好評を博す。而して印刷押出チューブ製造に於ける斯界の鼻祖たり

大正十四年本社を丸ビルに移す、

双葉合資會社

總町區永樂町一ノ一 丸ビル三階

丸ノ内 一八六四

營業種目

製紙用機械及諸機械並ニ工業用品製作販賣

創立年月日

大正十五年三月

公稱資本金

五萬圓

拂込資本金

五萬圓

現在ノ主腦者

近 藤 信 雄

各部各課主任

河 野 幸 男 齋 藤 德 吉

重ナル株主

近 藤 信 雄 井 口 義 雄

取引銀行

住友銀行牛込支店 古河銀行

東京スタンダード靴株式會社

總町區永樂町一ノ一 丸ビル

丸ノ内 三〇六〇 四七二九

營業種目

機械靴製造販賣

創立年月日

大正十三年十月二十日

公稱資本金

貳拾五萬圓

拂込資本金

二十五萬圓

沿革

大正十三年十月宮澤胤男米國よりグツドイヤー式製靴機械を輸入し會社を創立し經營の
ころ昭和二年四月大阪野村合名會社の後援を得ることなり積極主義のもとに増産計畫中

現在ノ主腦者

取締役會長 小澤福三郎 專務取締役 岡崎 逸平
支 配 人 宮澤 胤男

資本系統並ニ其變遷

野村合名會社

重ナル株主

野村合名會社

業績並ニ現況

日産四百足

年十三萬足製造

日産九百足に増設計畫中

取引銀行

野村銀行

川崎第百銀行

山口銀行

古河銀行

磐城セメント株式會社

麹町區永樂町 丸ノ内 長一三六七 長一三六八 三八九六
一ノ一丸ビル

營業種目

セメント製造販賣

創立年月日

明治四十年十一月

公稱資本金

一、〇七〇、〇〇〇

拂込資本金

七、四二四、〇〇〇

當率 四年 五年 六年 七年 八年 九年 十年 十一年 十二年 十三年 十四年 十五年 二年

上 〇・三三 一・〇〇 二・〇〇 二・五〇 二・〇〇 二・五〇 一・八〇 一・八〇 二・〇〇 二・〇〇 一・五〇 一・五〇 一・〇〇

下 〇・八〇 一・五〇 三・〇〇 二・五〇 二・〇〇 三・〇〇 一・八〇 二・〇〇 二・〇〇 一・五〇 一・五〇 一・五〇

在ノ主腦者

社

長

岩崎 清七

常務取締役

岡田 萬次

高木 百行

岡野 利兵衛

伊藤 清次郎

吉永 仁藏

阿部 政次

根津 嘉一郎

織田 佐太郎

鈴木 孝三

各部各課主任

支 配 人

山 田 肇

監 査 役

太田 利兵衛

泉山 岩次郎

木村 清治

佐藤 熈治

高田 一郎

關係會社

一手販賣三菱商事株式會社

業績並ニ現況

當社は十五年下期に五十六萬餘圓(利益率一割八分強)の純利益を擧げ、配當一割三分を行
ひ、二年上期は四十二萬三千圓(利率一割二分八厘)の純益を擧げて配當一割を行つた、
セメント界は依然と不振を脱せず前途好轉の見込みも立たない、而して當社はその内容資

本年度製品販賣上特記すべきは内地向鹽魚及冷凍魚の販賣機關として夫々有力なる問屋を
して日魯組及日魯冷凍品販賣聯盟會を組織せしめ専ら當社の販賣方針の下に當社組合及組
合員相互の聯絡協調を計り販賣上無用の競争を避け協力一致當社製品の販路擴張に努力せ
しむることとしたるに其結果大に見るべきものあり

當社經營漁區方面は鹽領漁業者の中において比較的漁獲高く鹽魚市況硬化せるに乘じ極力
其積取を急ぎ迄速に製品の大部分を有利に販賣したるも漁獲物の一部を鹽魚以外の製品に
處理したるを以て總體に於て鹽魚製品が豫算金額に達せざりし只僅に魚肥の商況不振の爲
め副産物鮭粕を次期に繰越したるも其金額僅少なれば機を見て販賣せんとす
一、副産物類並に冷凍鮭其他
二、罐詰類並に冷凍鮭其他
本年度輸出罐詰は別項紅鮭、銀鮭罐詰全部並に鱈罐詰約半數を七月下旬配船せる馬拉加丸
を第一船とし、九月上早迄但馬丸、長門丸にて何れも滿船、英國向直航せしめたる外、鹽
六岡丸其他數隻に分載内地中繼にて英國へ夫々積送を了し其中紅鮭罐詰は既報の通り先賣
約分に振當て着荷の分より受渡をなし、近く賣約全部の受渡を了する見込みなり
本年度アラスカ及英領コロンビア方面は稀有の不漁の爲め英米に於ける鮭罐詰市況は著し
く上騰歩調を辿り、殊にアラスカレッド及ピンクは昨年の半漁と稱せらるゝ不漁にして罐

詰市場をして益々強調に導きつゝあるを以て當社は此機に乘じ本年豫定外製造紅鮭銀鮭並
に鱈罐詰未賣約分を來春の需用期に先立ちて有利に賣却すべく好機を窺ひつゝあり
就中鱈罐詰は歐洲市場開拓に銳意努力中なるが輓近アラスカの不漁と相俟つて當社製品の
需用を著しく喚起し、積送船到着に先立ち其製品一部の先約を見る等大いに活氣を呈し來
れるを以て近く其の全部も有利に一掃する見込みなり

内地向鮭罐詰類は本年度より全國有力なる問屋を網羅せる日魯會との間に販賣協定を遂げ
着荷早々全部を有利に賣約し、併せて製品販路擴張に努むる等其の成績著なるものあり
鱈罐詰の製造は未曾有の好結果を收め其の大部分は製品出廻りに先立ち賣約せる分に充ち
引渡したるも、市況は當期後半に至り概ね軟弱を呈し益々下落の歩調を辿りしが當社は此
の間を見越し既に残り全部を有利に賣約せり

冷凍魚は昨年度製品が市場に於て堅價を贏ち得たと曩に組織せる販路機關を利用し、豫
定通り有利に處分する事を得一方歐洲市場は昨年開拓の經驗より自信を得たるを以てグレ
ンラインのグレナモイ號にて第一回の輸出をなし引續き第二回の積送準備中なり

冷凍鳥賊は需用期に際し順次有利に販賣しつゝあり

要之に當社本年度漁況は東海岸に於て豐漁にして西海岸に於て稍薄漁なりしも全般的には

豫期の成績を擧げたり昨年来着手せる冷凍事業は是等一方に偏せる漁獲を調節して當社利益の大宗たる紅鮭罐詰を多量に製造し此間遺憾なからしめたり翻つて當社の營業成績を見るに引續き順調にして製品の大部分は機を見て有利に賣約し良好なる成績を擧ぐるを得たるは欣幸とするところなり

現在ノ主腦者

取締役會長	堤 清 六	專務取締役	檀野 禮助
常務取締役	平塚 常次郎	取 締 役	鍋島 熊道
取 役 締	高橋 熊三	取 締 役	吉富 磯一
取 締 役	三浦 良次	取 締 役	眞藤 慎太郎
常任監査役	阿部 秀太郎	監 査 役	高橋 光威
監 査 役	エフ、エス、ブース		

業績並ニ現況

一漁場、工場 當社本年度經營漁工場左の如し

地 方	漁 場	工 場
カムサツカ東海岸	二〇ヶ所	三ヶ所
同 西海岸	九〇ヶ所(内蟹漁場一五ヶ所)	一六ヶ所(内蟹專問三ヶ所)
オコツク	一六ヶ所	

合 計 一二六ヶ所

一九ヶ所

尙ほ本年度當社漁工場従業員左の如し

幹 部	四五五名
職工漁夫及雜夫	一一、五〇九名
合 計	一二、九六四名

日本製粉株式會社

京橋區疊町八
片倉ビル

營業種目

製粉業

創立年月日

明治廿九年九月

公稱資本金

一千百七萬五千圓

拂込資本金

千百七萬五千圓

配當率

四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	二年
上 一・一〇	一・四〇	一・二〇	二・五〇	二・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
下 一・〇〇	一・〇〇	二・〇〇	二・〇〇	二・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇

沿革

抑も製粉業なるものは内外共に水車製粉に始まり機械製粉に完成した。我製粉業も亦水車

製粉に始まり鍋倉了意時代には可成りの發達をなしてゐたと云ふ。而して我日本製粉は此水車製粉と機械製粉との轉換をなしたので、最初政府が機械を購入して米稟内に模範的製粉工場を建設したが經營面白からず、遂ひに民間へ拂下ぐるに至つた。此處に於て生れたのが當社である。其後合併に合併を重ね増資を増ねて千二百三十萬圓の公稱資本金を有する大會社となつた。然るに戦後の不況によりて内容次第に悪化し而も當時の經營者は之れが徹底的刷新に意を油がざるのみか、不謹慎なる蝟配に蝟配を重ね殆ど破産にひんせんとしたの勢ある。此處に於て之が救助方法を日清製粉會社との合併によらんとし大正十五年下期に至り同社との合併談具體化して同年十一月には假調印さへなし、帖簿の一部を引きつぐ處まで進んだが俄然日清製粉より當社の缺陷意外に多きを理由として、合併破棄さるゝに及び、永年と縫せる缺陷は悉く曝露され、遂ひに一千七百六十六萬五千圓の大損失を計上するに至つた。斯くて總資本金一千二百三十萬圓を四分の一たる三百七萬五千圓に減資し、大口債務鈴木商店に對する八百萬圓を株式に振替へ一千百七萬五千圓の資本金としたのである。然し乍ら尙ほ二千六百萬圓の負債あり、不良資産も相當残つてゐたので昭和三年三月十五日臨時總會を開きて、更に第二の整理を斷行し、資本金は一千百七萬五千圓に減じられ、内部の缺陷をも徹底的に刷新したのである。故にさしも問題視された

當社も今日では全く面目を一新し、製粉界に於ては日清製粉會社とならび内容外觀ともに二大優良會社と云ふことが出来る。尙ほ經營者は三井物産會社中の手腕家を抜き取れるもので、あらゆる方面に於て當社の將來は期待するに至るであらう。

現在ノ主腦者

取締役會長 安川 雄之助 代表取締役 小林 正直
 専務取締役 中村 藤一 常務取締役 長谷川 藤橘
 取締役 田中 寛 八尋 俊介

田中文藏 監査役子爵 板倉 正憲
 蘆谷 英夫 御酒 本徳 松

相談役 窪田 駒吉

各部各課主任

調査課長 山本 芳三郎 會計課長 酒 美 情
 代理 西川 健治 營業課長 中島 義治
 工務課長 塚田 豊敬 工務長 田中 寛
 庶務課長 西川 健治 代理 富 永 保

關係會社

三井物産株式會社

重ナル株主

三井物産株式會社

天龍川電力株式會社

丸ノ内海上ビル七階

丸ノ内一九一、二九一三
二九一四

營業種目 電力の供給及び之と關聯する事業

創立年月日 大正十五年三月五日

公稱資本金 五千萬圓

拂込資本金 壹千二百五十萬圓

累年の配當 建設利息年五分

沿革 九つの會社を合併して組織す。年五分の建設利息を配當し、未だ建設中なりと云へ九つの發電所の計畫ありて既に二三ヶ所着手せり

現在ノ主腦者 社長 福澤 桃吉 常務取締役 後藤 一藏

同 山形 要助

海上ビル眼鏡院、海上ビル診療所

丸ノ内海上ビル五階

眼鏡部 視力検査 眼鏡撰定

診療科目 内外科性病

現在ノ主腦者 眼鏡院主 南島 壽永 診療所主 黒部 侑俊

合名會社 竹中工務店東京支店

本店 大阪市堂島ビル
麹町區永樂町郵船ビル三階

丸ノ内代表 長 二二五八、二二五九
二二五〇

營業種目 建築請負

創立年月日 明治四十二年六月

公稱資本金 二百萬圓

拂込資本金 全額拂込済

現在ノ主腦者 本店代表社員 竹中 藤右衛門

東京支店長 福本 常太郎

支店 名古屋、神戸

浦賀船渠株式會社

丸ノ内海上ビル四階

丸ノ内自一八五六
至一八五九

營業種目 船舶、汽機、汽罐、機械其他一般鐵工業並に土木建築に關する業務

創立年月日 明治三十年六月

公稱資本金 七百萬圓

拂込資本金 四百三十七萬五千圓

配當年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 十年 十一年 十二年 十三年 十四年 十五年 二年 三年

上 〇・七〇 一・五〇 六・〇〇 四・〇〇 四・〇〇 二・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

下 〇・七〇 一・〇〇 四・〇〇 四・〇〇 三・〇〇 一・五〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇 一・〇〇

現在ノ主腦者 社長 今岡純一郎 取締役 村上豊作

浅川 彰三 牛岡 劫三

藤田 益三 監査役 山下龜三郎

西園寺 龜次郎

設立並ニ沿革

明治三十年六月故千鶴榎本武陽氏等の主唱により地を浦賀町に卜し資本金百萬圓を以て設立せられ同三十三年一月船渠の開鑿を了し營業を開始す同三十五年五月に至り石川島造船所川崎分工場を買收併合し大に面目を改め明治卅七八年戰役後帝國海軍より驅逐艦二隻の建造命令を受くるに至れるが明治四十五年七月新に横浜市大野町に工場を設け浦賀工場と相待ち設備を整へ大正三年に至り歐洲戰亂勃發し本邦造船業も異常の發展をなせるに際し當社も一層各工場の擴張設備の充實を計り大型商船は勿論海軍省より多數の軍艦の建造命令を受くるに至りたるを以て大正六年八月資本金を五百萬圓となし同八年二月更に一千

萬圓に増資せり然るに大正十二年九月未曾有の大震災に遭遇し多大の損害を蒙りし爲大正十三年四月資本金を減額して七百萬圓となし今日に至る

朝倉製作所

事務所 丸ノ内ビルディング八階
工場 埼玉縣川口町元郷

丸ノ内 四〇一五

營業種目

昇降機、コンベヤー、送風機、捲揚機、電氣信號機、水門及水壓鐵管製造販賣

創立年月日

大正九年九月

公稱資本金

十五萬圓

拂込資本金

十五萬圓

沿革

大正九年横浜市平沼町に創業。大正十二年十二月埼玉縣川口町元郷へ移轉。

現在ノ主腦者

朝倉 元次

取引銀行

三菱丸ノ内第二支店

合資社

福井商行

龜町區永樂町一ノ一
海上ビル

丸ノ内 一七三三

營業種目

機械金物輸入

創立年月日

大正八年九月十日

創立者 福井國太郎
 現在ノ主腦者 相談役 福井國太郎 代表社員 宮副 桑市
 内外數多の機械製造家と連絡し、特に毘米著名の紙育市リヂヤウード製造會社、クリープ
 ラウン、ホイステンク會社、ニユウヨーク市ケリヤ、エンジンヤリング會社、シラキユウ
 ス市ラムソン會社其他、日本代表者なり

日本通商株式會社

麹町區永樂町一ノ一
海上ビル七〇六

丸ノ内 一八七七
一八七八

營業種目 ウーズレー自動車、航空機材料
 創立年月日 大正八年八月
 公稱資本金 五十萬圓
 拂込資本金 十二萬五千圓
 積立金 五千六百八十圓
 累年ノ配當 前々期迄八年五分 前期ハ無配當
 現在ノ主腦者 取締役社長 關根文三 取締役 五十嵐與七
 同 千北時一郎

重ナル株主

關根文三、五十嵐與七、千北時一郎、鎌田英五郎

淺沼寫真機店

丸ビル一階一〇三區

丸ノ内 三九五四

營業種目 寫真器及材料現像及仕上
 創立年月日 大正十二年二月
 創立者ト其功勞者 本邦に於ける寫真材料專業者の鼻祖淺沼商會の分身にして英、米、獨、佛諸國の有名なる
 製品は悉く特約販賣を引受け居れり尙模範的の製造工場を有し國産品の製造に努力しつゝ、
 あり、又技術部に於てはアマチュアの爲めに現像の焼付及引伸等の仕上を引受け居れり

現在ノ主腦者 店主 淺沼龍吉

淺沼家庭電器部

丸ビル一階西側入口角

丸ノ内 三九五三

營業種目 ラヂオ器械及材料家庭用電氣器具
 創立年月日 本邦ラヂオ放送開始ト同時
 創立者ト其功勞者 淺沼寫真機店の分身にしてラヂオ放送開始ト同時に淺沼ラヂオ部として開業し其の後某家
 庭電氣店を買收併合して淺沼家庭電氣部と改稱せり

現在ノ主腦者 店主 淺沼龍吉

一五二

北鮮木材株式會社

龜町區永樂町一ノ一
丸ビル五二二區

丸ノ内 一九八五

營業種目 鐵道枕木並ニ一般木材類ノ製造販賣

創立年月日 大正十二年四月廿一日

公稱資本金 三十萬圓

拂込資本金 二十萬圓

積立金 三百廿六圓廿一錢

累年の配當 毎期繰越

創立者ト其功勞者 福原俊丸、井上周、川原勘次郎、其他

現在ノ主腦者 取締役會長 山口平四郎 取締役 高山寬一

相談役 福原俊丸 專務取締役 小宮山精一

同 木下佐市 取締役 川原勘次郎

同 片山光次

資本系統並ニ其變遷 大正十四年中富士山商店系たる現重役就任し前重役の大部分は辭任せり

關係會社 株式會社富士山商店

業績並ニ現況

原産地北鮮にて近時迄輸送機關充分ならざりし地域として其の多くは創始設備期に要し好成績を見る迄に立至らざりしも最近に至り當社萬般の諸設備の完備せると共に事業地沿道に於ける朝鮮鐵道新線の開通せる事として今一兩期を出ずして期待せる多量の出材を容易にし豫期せる好成绩を擧げ得るを確信す

株式富士山商店

龜町區永樂町一ノ一
丸ビル五二二區

丸ノ内 一九八五

營業種目 木材防腐事業

創立年月日 大正十二年四月一日

公稱資本金 一百萬圓

拂込資本金 二十五萬圓

積立金 七萬五千八百五十圓

累年の配當 第一期より前々期迄年一割五歩 前期年六歩

創立者ト其功勞者 山口平四郎 小宮山精一 高山寬一

現在ノ主腦者 取締役會長 山口平四郎 取締役技師長 高山寬一

一五三

專務取締役 小宮山精一
取締役 片山光次
同 長畑精一

關係會社

北鮮木材株式會社

業績並に現況

創業來ノ配當率を前記に示せる通り

内外鑛業株式會社

龜町區永樂町一ノ一
丸ビル六八四

丸ノ内 一八九六

營業種目

鑛業

創立年月日

大正七年十月

公稱資本金

一百萬圓

拂込資本金

二十五萬圓

積立金

四千圓

累年ノ配當

初期一割 前期益金繰越

創立者ト其功勞者

創立當時の重役氏名左の如し

相談役 山本 采太郎 專務取締役 岡野 悌二
取締役 原 安三郎 同 福間 甲松

監査役 東 虎二郎 同 島 安次郎

現在ノ主腦者

專務取締役 岡野 悌二

資本系並ニ其變遷

當社は山本采太郎氏等所有鑛山及資金を新に拂込資金を加へ創立せられ内地及朝鮮に於て

金屬及石炭採掘並に販賣を目的とせるものにして重役並に株主にも差したる異動なし

業績並ニ現況

目下内地に於ては栃木縣鹽谷郡藤原村小佐越鑛山に於て銅亜鉛鑛で採掘し徳島縣麻植郡中

枝村大東鑛山に於て銅鑛を經營す、朝鮮に於ては咸鏡北道明川郡阿間面明川炭鑛を採炭經

營す。

株式會社 東洋工業社

龜町區永樂町一ノ一
丸ビル七階

丸ノ内 長三〇四六、三〇四七
三〇四八、三〇四九

營業種目

一般諸機械及建築材料輸入並販賣

創立年月日

大正七年七月十六日

公稱資本金

五十萬圓

拂込資本金

三十七萬五千圓

積立金

八萬九千圓

累年ノ配當

八分乃至一割

現在ノ主腦者

專務取締役 中尾 眞 吉
 常務取締役 宮崎 峰 太郎
 取締役 岩崎 重次郎
 納村 章 吉
 監査役 諏訪 庸 助
 相談役 工學博士 原田 鎮 治

近海郵船株式會社

龜町區永樂町一ノ一
郵船ビル三階

丸ノ内 代表 二五二一

營業種目

海運業

創立年月日

大正十年四月一日

公稱資本金

一千萬圓

拂込資本金

一千萬圓

配當率

十二年	一・五〇
十三年	一・〇〇
十四年	五〇
十五年	五〇
二年	五〇
三年	五〇

沿革

大正十一年四月日本郵船會社の近海部として事業を開始し當事者は、時の管事（現社長島村氏專務取締役兼）事業を續けたりしが、大正十二年四月郵船より分身して會社を組織す
 總株二十萬株の内十九萬九千三百株を郵船にて所有せり

東京支店

日本橋區箱崎町四ノ二

支店長

川本 吾 一

函館支店 函館市船場町十九

同 進藤 良 英

小樽支店 小樽市手宮町三ノ十五

同 與 良 琢 磨

基隆支店 臺北州基隆市基隆字會子寮百二番ノ一同

松本 晄 吉

天津支店 支那天津日本租界第二區第八號地第九號地

松尾 豐 實

神戸事務所 神戸市海岸通一丁目外一號

參事 大河内 時 夫

船務係技師 永末 新 次郎

若松事務所 福岡縣若松市本町一ノ十四

主事 丸 山 傳

蕪湖事務所 支那安徽省蕪湖小港口

書記 鍵山 黨 明

大治事務所 支那湖北省大冶縣石灰窰

主事 相澤 武 彦

現在ノ主腦者

取締役社長 島 村 淺 夫 專務取締役 安田 繁 三郎

取締 役 白 仁 武 同 大橋 新 太郎

同 各 務 鎌 吉 同 大 谷 登

同 清 水 安 治 監 査 役 河 村 金 五 郎

同 黒 屋 辰 六

本店船務係長專務兼 安田 繁 三郎 營業係長 林 友 作

秘書 小原 又作 營業係主事 田中 元三

業務並ニ現況

昭和二年九月十六日より昭和三年三月十五日に至る第五期後半年度は各航路に於ける航海汽船四十三艘總噸數十萬八千餘噸にして外に傭船十七艘を使用し貨物百三十七萬六千餘噸船客三萬三千餘人を運搬す

北海道樺太方面は前年同期に比し不振を免れず

北支那方面は内地より輸出増加したるも白河状態不良の爲め内地への輸入は著しく減少す

臺灣方面は配船の増加に伴ひ収入を増加す

大冶航路は前年積取中止中なりしも今期復活の結果著しく収入を増加せり

其他臨時航路に於ては配船減少に依り減收す

要するに當半期は前年來の不振を持續し運賃率は昨年末に於て極度の低落を示し其後多少引締りたるも尙期末に於ける市場率は前年同期に比し低率にして一般市況不振甚しきを以て當社は傭船を減じ臨時配船千手控する等専ら船腹の消化に努め漸く別表の成績を擧ぐるを得たり

基隆航路使用船は船齡及船型の關係上改善の必要を生じたるに付伊太利國籍船一艘を購入

し目下回航の途にあり本年六月六日以後就航の豫定なり

日露木材株式會社

總町區永樂町一ノ一 郵船ビル

丸ノ内 長 四〇一、代 三六〇八 三六〇九

營業種目

木材賣買及委託販賣、林業

創立年月日

昭和二年六月一日

公稱資本金

一百五十萬圓

拂込資本金

全額拂込済

沿革

大陸木材工業株式會社がソヴェト勞農露國營極東林業トラスト「ダリレス」との間に締結せる木材販賣契約を繼承して創立せられたるものなり。

現在の主腦者

社長	青木 一葉	常務取締役	關 信 止
同	溝口 新平	同	小笠原 菊次郎
同	横井 半三郎	同	石田 常 麿
同	監査役 高島 菊次郎	同	一柳 貞 吉
同	同 田中 傳 太	相談役	藤原 銀次郎

株式 ヒーリング商會

丸ノ内 郵船ビル五階

丸ノ内 一〇五五、二三〇八、二三〇九

營業種目

電氣、瓦斯、蒸氣、水力、鑛山用諸機械器具諸材料、土木、建築、造船、鐵道、電信、電
話用諸機械諸材料、各種鐵材、銅材類、其他各種、工業用諸品輸出入業

創五年月日

明治廿三年

公稱資本金

十萬ポンド

拂込資本金

十萬ポンド

沿革

明治廿三年英人エル・ジェー・ヒーリング個人經營を以て横濱に開店。明治三十八年合名會
社に組織變更。越て明治四十一年三月別に株式會社ヒーリング商會を設立し今日に至る。
合名會社ヒーリング商會は大正十一年解散せり。

現在ノ主腦者

取 締 役 ジェー・エル・グレイム 同 ジェー・デー・コリヤ
同 西尾 純 一 同 支配人 桑 本 澄

北海水力電氣株式會社

本店 札幌
出張所 永樂町一ノ一郵船ビル六階

丸ノ内 一七七二

營業種目

電氣事業

創立年月日

大正十五年十月

公稱資本金

三一、一二五、〇〇〇圓

拂込資本金

一一、四五〇、〇〇〇圓

累年ノ配當

九 分

沿革

當社は王子製紙會社を主なる株主として資本金三千萬圓を以て創立せられ王子製紙所屬の
札幌及大泊電氣事業並に元東京電燈所屬の小樽及樺太電氣事業を譲受けて直に營業を開始
せり。其後北富士水電及北海中央電鐵を合併して資本金を現在額としたるが樺太に於ける
電氣事業は便宜上分身會社たる樺太電氣株式會社を設立して之に譲渡す事とせり。

現在ノ主腦者

社 長 美濃部 俊吉 專務取締役 田 中 治 朗
河 原 直 孝 取 締 役 大橋 新太郎
藤 原 銀 次郎 寺 田 省 歸
板 谷 宮 吉 高 島 菊 次郎
高 田 直 屹 小笠原 菊次郎
足 立 正 濱 田 東 稻
大瀧 甚 太郎 星 野 米

遠藤石太郎 監査役 永橋至剛
 一柳貞吉 田中傳太
 渡部龜太郎

現況

一、王子製紙を背景とし全社支笏湖發電所より有利なる受電の特約あり
 二、供給區域は札幌、小樽兩市を含み北海道に於ける文化地域を占め從來の需要増加は五年毎に二倍以上となるの好成績を示し引續き逐年遞増の趨勢にあり

村山合資會社

麴町區永樂町一ノ一
郵船ビル五階五二七

丸ノ内 二七五七

營業種目

會社所有ノ土地出林經營及管理

創立年月日

大正四年十一月十日

公稱資本金

一百萬圓

拂込資本金

一百萬圓

現在ノ主腦者

社長 村山龜一郎

各部各課主任

東京本社會計部主任 松本忠次郎 主事兼庶務部主任 高橋與三治
 出張所主事 村山清吾 土地部主任 村山梅治

蠶糸工業所

丸ノ内 丸ビル八階八三〇區

丸ノ内 一九八四

營業種目

製糸工場ノ經營、アドソール販賣並ニ裝置

創立年月日

昭和二年七月

現在ノ主腦者

橋本圭三郎 大河内正敏 前田利定
 増田正雄 原富太郎 矢島榮助
 小松嘉藏

蠶糸工業所の使命とする所は現在に於ける我が製糸業の實態に顧みるに殆んど行詰りの状態にあり、而して一方に於て人造絹糸は最新科學の進歩に伴ひ眞に驚くべき發展を爲し來りつゝあるは世人の知る如くにして、若し夫れ我が貿易の死命を制する生糸生産が依然今日迄の如き原始時代其儘の舊套を墨守し慢然推移せんか我が蠶糸業の將來實に憂心すべきものあるに鑑み、近代工業發達の特色たる最新科學の力により我が生糸生産の革新的改善を企圖し以て良品廉價生産の實を擧げ人造絹糸に對應して我が蠶糸業の振興に資する緊切なるに想到し本邦科學界の權威たる理化學研究所に於ける各種有益なる研究を應用し技術的革新の原動力たるべき新製糸企業經營を爲すと同時に一面に於ては今回特に此企圖に對

し理化學研究所に於て同所に於ける現在及將來に亘る研究にして蠶糸業の啓發に資すべきものは一切本所を通じ供給することとなり之が販賣權を附與せられたるを以て之が普及を圖り我國全體の生糸生産改善に資する所あらんとするものである。

山田ビリヤードクリエーション

丸ビル八階

丸ノ内 六六二

營業種目

撞球場、喫茶部、撞球臺製作附屬一式直輸入販賣

創立年月日

大正十二年一月

沿革

明治四十三年渡歐後米國に渡り滯米十餘年大正十一年歸朝十二年一月丸ビルに於て歐米式撞球場を開設、撞球臺附屬品製作販賣業を営む、別に喫茶部の設あり。

現在ノ主腦者

山田 浩 二

各部各課主任

支配人 清水梅次郎 販賣部主任 山田源次郎
撞球部主任 高田 龍

株式會社井上電機製作所東京出張所

麹町區八重洲町一ノ一
昭和ビル一二五

丸ノ内 一七二三

營業種目

配電盤並特高器具

創立年月日

明治四十四年十二月一日

公稱資本金

二十七萬五仟圓

拂込資本金

二十七萬五仟圓

累年ノ配當

前期配當年一割

現在ノ主腦者

在京都本社(京都市油小路八條)

取締役社長 井上龜之助 常務取締役 大渡 光藏

取締役營業部長 笠原 基 同 技術部長 木村庄太郎

同 井上文次郎 監査役 井上莊三郎

各部各課主任 東京出張所主任 櫻井 友造

資本系統並ニ其變遷 明治四十四年十二月一日合名會社井上電機製作所創立

大正十四年三月二十六日組織變更株式會社とす

大正八年七月東京出張所設置

現在出張所設置地

東京、大阪

取引銀行

株式會社加島銀行東京支店

合資會社 奧村商會

丸ノ内 九ノ内 一九五五
出張所 丸ビル七階 大阪此花區上福島三ノ一〇八

營業種目 諸機械、工具、タクマ汽罐と車輛類

創立年月日 大正十二年四月

公稱資本金 三萬圓

拂込資本金 全額

現在ノ主腦者 代表者 奥村 競

取引銀行 安田銀行 川崎第百銀行

辰馬海上火災保險株式會社出張所

丸ノ内 丸ビル七階 丸ノ内 二六二七—九

營業種目 保險業

創立年月日 大正八年

公稱資本金 二百萬圓

拂込資本金 五十萬圓

現在ノ主腦者 主任 井上 修

取引銀行 三十四銀行

株式會社 小川組

丸ノ内 丸ビル七階

丸ノ内 二七五六

營業種目 土木建築請負業

創立年月日 大正十三年五月

公稱資本金 五十五萬圓

拂込資本金 十二萬五千圓

積立金 一千七百圓

現在ノ主腦者 取締役組長 小川 清次郎

球磨川電氣株式會社東京出張所

丸ノ内 丸ビル八階

丸ノ内 二〇一一

營業種目 電燈電力供給

創立年月日 大正九年八月

公稱資本金 六、五二五、〇〇〇圓

拂込資本金 三、三二五、〇〇〇

現在ノ主腦者

専務 坂内 義雄
社長 坂内 虎次

常務

近藤 眞一

一六八

兒玉電氣研究所營業部

丸ビル八階八〇七

丸ノ内 六九二

營業種目

電氣醫療器並に電器精密機

創立年月日

昭和二年九月一日

沿革

工場創設大正十五年

現在ノ主腦者

兒玉 雄一 兒玉 環

太平洋海運株式會社

本社 神戸市京町八一
出張所 永樂町一ノ一丸ビル八階

丸ノ内 一〇六八

營業種目

海運業

創立年月日

大正七年六月

公稱資本金

二、六六六、六五〇

拂込資本金

一、一六六、六五〇

現在ノ主腦者

常務取締役 石田 貞二 同

廣田 保

東亞煙草株式會社

總町區永樂町一ノ一丸ビル八階八九四

營業種目

外國ニ於ケル煙草製造販賣

創立年月日

明治三十九年十一月

公稱資本金

一千百五十萬圓

拂込資本金

七百三十萬圓

累年ノ配當

年二分

現在ノ主腦者

取締役社長 南 新吾 同副社長 坂 梨 哲

専務取締役 石原 峰 穂 取締役兼支配人 松尾 晴 見

取締役 役 金光 庸 夫 監 査 役 石部 泰 藏

同 渡邊 榮 次 同 同 竹原友三郎

各部各課主任

營業係主任 村瀬永次郎 經理係主任 松平 慶 献

一六九

調査係主任 中谷近太郎 庶務係主任 宮地 勇夫

業績並ニ現況

一、營業概況

煙草品質の改善と共に如何なる販賣方法を以て競争市場に立つべきやは多年研究を怠らざりし處なりしが其苦心空しからず日を遂て需要加はり本期に於ける賣行高は之を前期及前々期に比較し何れも増加の好況を呈し商況稍恢復の曙光を認めたり然れども我社の活動地盤たる支那の政争は依然終熄するに至らず隨て奉天票相場は未だ好轉せず一面銀相場も低迷の域を脱せず之等の事情に依り一般の購買力尙振はざる爲め煙草の需要は益々下級品に推移するの傾向を辿り而かも各地區々の課税問題に悩まされる等彼是採算不利にして經營實に困難の立場にありしかは専ら生産費其他諸経費の節約を圖る外有利なる新製品の發賣に努力せしも經局賣行増進に伴ふ所期の増收を告ぐることを得ざりしは甚だ遺憾とする處なり

合資社 神田新聞店

麹町區有樂町一ノ四

丸ノ内 三六一二

營業種目

全國諸新聞大取次

創立年月日

明治三十五年

創立者

現代表社員 後藤半次郎

各部各課主任

支 配 人 森 田 益 雄 地方部主任 近松々三郎

資本系統並ニ其變遷

個人より合資に至る

業績並ニ現況

- 一、全國の諸新聞を一軒の新聞店より配達す
- 二、都、國民、讀賣外七種新聞の獨占營業權を有す。市民の聲「東京市公報」一手取扱

齋藤久事務所

丸ノ内 興銀ビル七階

丸ノ内 一〇九六 二八七一

營業種目

水道衛生工事

創立年月日

大正十二年七月

沿 革

齋藤久氏が日本水道衛生工事株式會社の東京支店長たりしが大正十二年六月同社を辭し七月個人經營として事務所を開き事業を續けたりしが、大正十五年四月齋藤氏死去せられその後、息齋藤久敏氏が引つゞき事務所名はそのまゝ營業を續け現在に及ぶ。

現在ノ主腦者

所 主 齋 藤 久 敏 支 配 人 曾 根 田 又 雄

營業部長 南部 茂樹 設計技師 小川 誠耳

現場技師 和田 大五郎

東京ステーションホテル

丸ノ内東京驛構内

丸ノ内 自二二三二一
至二二三二六

營業種目 ホテル經營

創立年月日 大正四年十一月三日

沿革

精養軒の分身事業にして最初北村氏その衝に當り澤野、森田氏支配人として經營を續けた
りしが、一時北村氏から中村豊次郎氏の手には經營は移りたるもいくばくもなく再び北村氏
經營するに至れり。現在に於いては、北村氏經營を放れ、原保太郎氏社長として五百木氏
事務兼支配人として經營しつゝあるなり。

現在ノ主腦者

社長 原保太郎 事務兼支配人 五百木竹四郎

東洋生命保險株式會社

麹町區永樂町二ノ二

丸ノ内 二四八一
二四八五

營業種目 生命保險業

創立年月日 明治三十三年十月十八日

公稱資本金 二、〇〇〇、〇〇〇圓

拂込資本金 五〇〇、〇〇〇圓

配當率

三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一二年	一二年	一三年	一四年	一五年	二年		
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇		

沿革

わが東洋生命保險株式會社は、その前身は明治三十三年十月十八日に、東京市京橋區南船
町で初聲を擧ぐた共慶生命保險會社であつて、明治三十七年十二月十六日現在の社名に改
稱したのである。何しろ明治三十四年頃といへば我國の生命保險界に在つては、所謂泡
沫期の後をうけて丁度整理の時代であつたので、その發達たるや實に遅々たるものであつ
た。さういふわけで、わが會社も間もなく東洋生命と社名を變へていくらか面目を改めた
といふものゝ、創業二十有七年の前半は概して業績は微々たるものであつて、今にして思
へば隔世の感がある程、契約高にしろ準備金にしろ、そのほか凡ての點に於いて頗る振は
なかつたのである。處が明治四十三年七月に尾高次郎氏が社長に就任してから、その頃、
漸く世人に生命保險思想が普及し、斯業も漸く興隆に赴かんとする機運に乗じて、子爵澁
澤榮一氏を擧げて相談役とし、銳意社業の改善と發展を計つた努力空しからず、偶々歐洲
大戰の好影響も反映して、その成績、月を重ね年を追うて顯著なる進展を示した。之を保
險契約高に就いて言ふならば、尾高社長就任の年の明治四十三年末には僅か五百萬圓に過

ぎなかつたものが、翌年末には一躍一千二百萬圓に倍加し、爾來一張一弛年によつて多少の盛衰はあつたが、大正元年には二千九十九萬圓、同三年には四千三十五萬圓、八年には八千六十一萬圓と、旭日昇天の勢を以て増加し、以て今日の堅實な基礎を築いたのである。資本金の増加 創立當時の資本金は僅か十萬圓に過ぎなかつたのであるが、事業の發展に伴つて漸次増加し、明治四十年二月には一躍五倍の五十萬圓に、大正三年二月には倍額の一百萬圓に、更に大正九年十一月に再び倍額増資し現在の公稱資本金二百萬圓として、拂込金五十萬圓が現に會社運営の基本となつてゐる。

我社の現状 元來生命保險は多數の人々が保險料なるものをもちよつて一つの團體を作り、團體員がお互にたすけあふ麗しい人間愛を基調として成立つてゐる制度であるから、その事業は言ふ迄もなく社會奉仕的な尊い使命を持つてゐるのである。故に營業上の利益は株主のみが占有すべきではなく、契約者にも多分に分配すべきものであると信ずるので、我社はこの趣旨に則つて、定款の規定を以てその年度の利益金から百分の五の法定準備金を差引き、その上拂込資本金の百分の十以内と、その外多少のものを差引いて、あとの九割は保險契約者に分配する事になつてゐる。

それに生命保險會社は非常に多數の契約者と永い年月に亘つて密接な關係を持つもので

あるから、會社を經營する上に於いては、飽く迄も堅實第一に、契約者本位を旨としなければならぬとの信念の下に、現社長たる木村雄次氏が濫澤子爵の徳意によつて、大正十一年七月専務取締役として新任するや、堅實第一、契約者本位を理想として之が貫徹に全力を傾注したのである。それ故先づ第一に深く社業の根本に着眼して、大英斷を以て募集機關及内務事務の整備統一を行ふと共に、舊契約の整理を斷行し、保險契約の徒に多いよりは寧ろその内容の優良なる事を目的として、極力その改善に力を盡す一方、第一銀行頭取佐々木勇之助氏を相談役に迎へて、濫澤子爵、佐々木相談役の監督指導の下に陣容を新にし、正々堂々意義ある活動を開始したのである。

處が不幸にしてその翌年即ち大正十二年に突如として起つた振古未曾有の關東大震災のために、遺憾ながら豫定の成績を擧げる事は出来なかつた。しかし震災の際幸に存社して居つた木村社長は斷然妻子等を顧みる處なく社内を踏止り自ら決死隊を率ゐて崩壊せる土蔵を切破つて重要書類を全部搬出し、直ちに車輛數臺に之を満載してあらゆる辛苦を嘗め辛じて猛火の中を上野公園に避難し、更に王子の濫澤子爵邸内の安全地帯に移す事が出来金庫も社長の適宜の處置に依つて焼け落ちず、在中の有價證券等は、全部無事なるを得たのである。

かくして一方此際常規に拘泥せず、直ちに保険金の支拂をなすべき旨新聞廣告をなし、當時支拂延期令實施中であつたが、第一銀行、朝鮮銀行及び武州銀行の好意によつて、人皆が最も現金を欲した九月一日より三十日に至る間に、罹災者の請求に對しては、殆ど全部の支拂を了したのであつた。その後保険協會の調査に據れば、偶然にも其支拂率に於いて同業會社中第一位を占めた次第であつたが、要するに關東大震災は生命保險界の一大試金石であり、而も我社は立派にこの試験に及第して、却つて大震災によつて我社の歴史に一段と光輝を添へる事が出来たのであつた。この震災で焼失した建物は、幸に假建築であつたので損害も比較的少額に止り、其他の損害と共に十二年度の決算で全部償却され、而も猶ほ前年度とほぼ同様の利益を擧げたのであつた。

次いで大正十三年の一年間全力を擧げて復興に精進した結果は、内務事務の整理も完了したので、木村専務は十四年一月二十日、澁澤子爵、佐々木相談役並びに重役の推擧によつて社長の椅子につき、徐ろに、しかし堅實なる歩調の下に積極的に活動を開始したのである。かくして昭和元年度の契約高は一億三百四十八萬圓餘を計上し、保険金支拂の源泉たる責任準備金は一千九百〇四萬圓と次頁に示すやうに著しい増加率を現した。今契約高千圓に就いて之が責任準備金の對比を見るに實に百八十四圓の多きに達し、内容の堅實さ

に於いては數ある同業會社中優秀なるものゝ一と數へ得べく、保険契約者への配當金額は前年度の倍近く増加する好成绩を擧げ、配當率も亦従前の倍にふやすを得たのである。

茲に昭和二年を迎ふるに當つて、我社は内外事務の全き充實により、今や雌伏準備の時代より進んで、愈々劉時代の大飛躍期に入つたので、今春職制を改正して幹部總動員の制度とし、幹部をして自ら新契約募集の第一線に立たしむる一方、樞要なる都市には更に支部網を密にして新地盤の開拓に努め、内外相呼應して社業の發展に全努力を集中する事になつたのである。

内に横溢せる力を持し、鷗翼一搏、九天雄飛する我社の活躍こそ正に期して待つ可きものがあらう。

先設の財界恐慌に際し、續出した休業銀行の數は、實に二十九の多きに達したが、我社に於いては、その内たゞ某銀行一行だけに當座預金が七百圓ばかりあつたにすぎず、それ以外には他に何等取引關係がなかつたので、右金額の一都分の外には毫厘の損害も蒙らなかつた。この事實は我社の堅實第一主義を如實に裏書きしたものと云ふべきであらう。

現在ノ主腦者

取締役社長 木村 雄次 常務取締役 大原 萬壽雄

取締役	佐々木清鷹	同	西谷金藏
同	永田甚之助	同	澁澤敬三
監査役	鎌田勝太郎	同	竹山純平
相談役	佐々木勇之助		

業績並ニ現況

昭和二年度事業の概況を報告するに當り先づ財界の景況を回顧するに眞に多事多難を極めたりといふべく國民は一年を通じて諒闇の裡に在りたるが上に春來政界の雲行隠ならず遂に政變となり財界空前の大恐慌となり、支拂猶豫令の發布となり大小多數の銀行休業となり其の整理は容易に進捗せず爲めに企業の萎縮、事業純益の減少、金利の低落、物價の下落等大勢の趨くところは實に大正九年以來の財界反動期に於ける不況の極に終始したるの感あり

本社は前年度迄に於て既に充分慎重なる用意の下に社業の積極的活動に備ふるところありたるを以て本年度は愈々其實行に入るべく年初先づ營業本部を設け新契約の募集に一新生面を開くべき諸般の政策を協議決定し募集機關の整備と指導督勵に努め稍々其効果を認めたりしも四月以降財界の恐慌に直面しては遂に其影響を免れ難く政策實行上に相當の按配を爲し常に臨機の處置を過たざる事に留意したる結果幸に本年度新契約高一千七百五十餘

萬圓年度未責任準備金二千一百餘萬圓を計上する事を得たり而して資産の運用に付ては特に意を用ひ豫め備ふるところありしが爲めに財界の景況上記の如くなりしに拘らず利息收入其他に付て悪影響を蒙る事極めて少く又休業銀行に對する預金に關しては多數の同業會社は勿論一般社會を通して其の損失多く所謂休業預金問題として世論囂々たりしと雖も本社は僅に一銀行に對する二百六十餘萬圓の僅少預金以外に何等の損失なく平素の用意に過誤なかりしことを茲に報告し得るは誠に欣快に堪えざるところなり斯くて本年度利益金五十一萬餘圓を擧げて前年に比し約二割の増加を示し前年度に於て増率したる株主並に保險契約者に對する配當金を維持して尙ほ餘裕を存せり要之本年度に於ては財界變動の影響に依りて社業中長期の成績を擧ぐるに至らざりしものなきにあらずと雖も大部分に付ては平素の用意と臨機の處置と相俟て悪影響を阻止し良好なる成績を獲得するに相當の效果ありたることを信ずる次第にして次年度に於ける進展に倍々好望を繋かしむるものあり

- 支店
- 京城支店 京城府鐘路一ノ三四、三五
 - 中部支店 東京市麴町區永樂町二ノ二
 - 大阪支店 大降市東區高麗橋四ノ三五
 - 仙臺支店 仙臺市大町四ノ四五